第七回全国高校生金融経済クイズ選手権

エコノミクス甲子園 報告書

エコノミクス甲子園

特定非営利活動法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：認定NPO法人金融知力普及協会
エコノミクス甲子園実行委員会

特定非営利活動法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

http://www.apfl.or.jp

全国大会カップスポンサー

プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
生命保険株式会社

ナショナルスポンサー

citibank

GREE

一休.com

Russell Investments

CONTENTS

ご挨拶 2
エコノミクス甲子園はこんな大会です! 3
概要 5
各地方大会＋参加高校一覧 6
全国大会 18
全国大会出場者感想 21
NY研修旅行の様子と感想 31
参加者アンケート 34
事前学習教材紹介 35
メディア掲載実績 36
Special Thanks 37
協賛者紹介 38

エコノミクス甲子園 第七回大会を終えて

エコノミクス甲子園実行委員長
金子　昌資

全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 第七回大会も無事に終了いたしました。参加した生徒の皆さん、各地方大会を主催いただいた金融機関の皆様、様々なご支援を頂いた協賛・協力企業の皆様、本当にありがとうございました。

2006年に、25校33チームの参加を得た第一回大会から、335校860チームの参加するまでの大きな成長は、この大会に関わったすべての皆様の知恵と努力のたまものでございます。この七年で、6000名以上の高校生たちに金融知力を学んでいただきました。是非とも将来の人生の為に役立ててほしいと思っています。

第七回大会では、新しく8県と地方大会未開催県の為のネット大会が開催されました。現在準備中の第八回大会でも5県での開催が見込まれており、全ての都道府県での開催まであと一息のところまで来ております。

それぞれの人生を豊かにする便利な道具としての金融知力を、ぜひ多くの人に携えていただきたい。それがまた、日本という国の力も強くする。そういった思いで、多くの高校生たちに参加をいただけるよう今後とも、皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

1 ポスターや学校の先生に教えられて出場を決意!

・ネットや携帯電話から応募
・参加は無料!

2 金融知力普及協会から送られてくる事前学習教材で経済を勉強

・ファイナンス基礎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:シティバンク銀行
・ビギナーズのためのファイナンス入門 ・・・・・・寄贈:金融広報中央委員会
・これであなたもひとり立ち ・・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:金融広報中央委員会
・ライフステージで学ぶ銀行 ・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:全国銀行協会
・ローン&クレジットのABC ・・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:全国銀行協会
・そんぽのホントフレッシャーズガイド・・・・・・・・寄贈:日本損害保険協会
・株式会社制度と証券市場のしくみ ・・・・・・・・・寄贈:日本証券業協会
・ほけんのキホン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:生命保険文化センター
・初めてのJリート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:不動産証券化協会
・税制について考えてみよう ・・・・・・・・・・・・・・・寄贈:財務省

3 地方大会に参加

・地方大会は各地の地方銀行など
　金融機関が地域貢献として開催
・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の
　基礎知識や地元経済などについての問題
・筆記問題(50問)と早押しクイズで競う
・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場

エコノミクス甲子園はこんな大会です!

日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供!
将来の日本をリードする人材の育成!

4 全国大会に参加

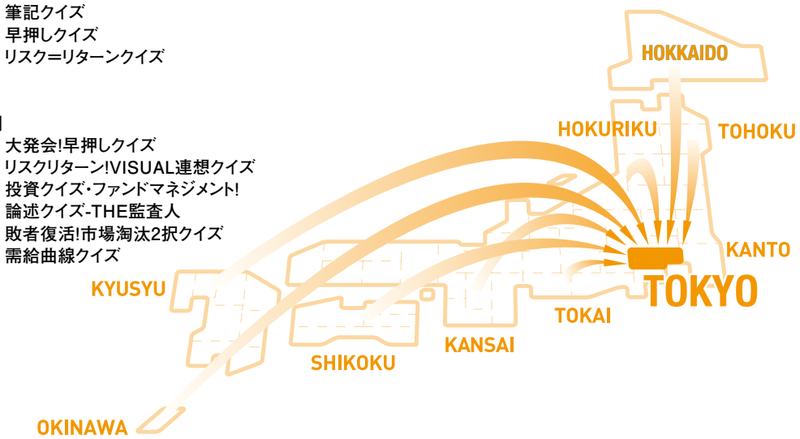
・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや
　他チームと協力したプレゼンクイズなど、
　より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む

5 優勝チームはニューヨーク研修旅行にご招待

・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや
　経済に関する様々な場所を見学

概要 Summary

名　　称	第七回全国高校生金融経済クイズ選手権　『エコノミクス甲子園』
趣　　旨	社会に羽ばたく前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」をクイズを通して考えてもらうきっかけとするために開催する。
期　　日	・全国大会　2013/2/17(日)10時00分～16時30分　金融知力普及協会
	・地方大会　2012/11/10(土)開催　・大阪大会　りそな銀行・近畿大阪銀行
	2012/11/11(日)開催　・長崎大会　十八銀行
	2012/11/18(日)開催　・埼玉大会　埼玉りそな銀行
	・山梨大会　山梨中央銀行
	・徳島大会　阿波銀行
	2012/11/24(土)開催　・インターネット大会　住信SBIネット銀行
	2012/12/1(土)開催　・愛媛大会　伊予銀行
	2012/12/8(土)開催　・神奈川大会　横浜銀行
	2012/12/9(日)開催　・茨城大会　筑波銀行
	・富山大会　北陸銀行
	・石川大会　北國銀行
	・岐阜大会　十六銀行
	・静岡大会　静岡銀行
	・三重大会　百五銀行
	・広島大会　もみじ銀行
	・香川大会　百十四銀行
	・福岡大会　西日本シティ銀行
	2012/12/15(土)開催　・秋田大会　秋田銀行
	・鹿児島大会　鹿児島銀行
	2012/12/16(日)開催　・北海道大会　北海道銀行
	・宮城大会　七十七銀行
	・山形大会　山形大会
	・福島大会　東邦銀行
	・群馬大会　群馬銀行
	・千葉大会　千葉銀行・千葉興業銀行
	・東京大会　りそな銀行
	・福井大会　北陸銀行
	・愛知大会　愛知銀行
	・奈良大会　南都銀行
	・島根大会　山陰合同銀行
	・岡山大会　中国銀行
	・山口大会　山口銀行
	・宮崎大会　宮崎銀行
	・沖縄大会　沖縄銀行
主　　催	認定NPO法人　金融知力普及協会
地方大会主催	各地の金融機関有志
後　　援	内閣府、文部科学省、金融庁、週刊エコノミスト
全国大会カップスポンサー	プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
ナショナルスポンサー	シティバンク銀行株式会社、グリー株式会社、株式会社一休、ラッセル・インベストメント・グループ
協　　力	日本ファイナンシャルアカデミー株式会社、一般社団法人 全国銀行協会、社団法人 日本証券業協会、金融広報中央委員会、一般社団法人 日本損害保険協会、公益財団法人 生命保険文化センター、イー・アクセス株式会社、一般社団法人 不動産証券化協会、財務省
地方大会内容	第一ラウンド　筆記クイズ
	第二ラウンド　早押しクイズ
	決勝ラウンド　リスク=リターンクイズ
全国大会内容	エコノミカ大会
	筆記クイズ
	プレゼン-壁新聞
	第一ラウンド　大発会!早押しクイズ
	第二ラウンド　リスクリターン!VISUAL連想クイズ
	第三ラウンド　投資クイズ・ファンドマネジメント!
	第四ラウンド　論述クイズ-THE監査人
	GREEラウンド　敗者復活!市場淘汰2択クイズ
	決勝ラウンド　需給曲線クイズ



地方大会 Local competitions

大阪大会

11月10日(土)開催

主　　催　りそな銀行・近畿大阪銀行

参加校一覧　高槻高等学校、洛南高等学校、清風南海高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪府立北野高等学校、東山高等学校、洛星高等学校

参加チーム数　15チーム(7校)

運営スタッフ感想　全国他都道府県に先駆け、大阪府と京都府の高校生15チームが大阪で激突!大接戦を制して優勝したのは、なんと高3の受験生。残念ながら2月の全国大会には出場できないとのことで、準優勝の高1チームに全国大会行きのバトンが渡されました。準優勝チームの驚きといったら!呆然としていましたが、我に返って優勝チームと固い握手。全国大会で先輩の分も頑張ります!と決意宣言してくれました。

優勝チーム
高槻高等学校
スペキュレーター

準優勝チーム
清風南海高等学校
COMPASS

長崎大会

11月11日(日)開催

主　　催　十八銀行

参加校一覧　長崎県立佐世保商業高等学校、長崎県立諫早商業高等学校
長崎市立長崎商業高等学校

参加チーム数　10チーム(3校)

運営スタッフ感想　今回で3回目となる長崎大会は9チーム12名による対戦となりました。昼食休憩時間に午前中（筆記試験）の様子を映した地元ニュースが流れると参加者から歓声があがり、午後からは引率の先生を含めた飛び入り参加による『早押しエキシビジョンマッチ』を実施するなど前年にはないアットホームな盛り上がりをみせました。最後に参加していただいた生徒のみなさん、ご尽力いただきました学校関係者の方々および関係各所のみなさまに感謝と御礼を申し上げたいと思います。

優勝チーム
長崎市立長崎商業高等学校
長商のバイブル

埼玉大会

11月18日(日)開催

主　　催　埼玉りそな銀行

参加校一覧　慶應義塾志木高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立所沢北高等学校、栄東高等学校、城西大学付属川越高等学校、川越東高等学校、早稲田大学本庄高等学院

参加チーム数　28チーム(7校)

運営スタッフ感想　優勝は初出場の「私立埼玉栄東高等学校」のチーム、準優勝は「早稲田本庄高等学院」で昨年の優勝チームでした。クイズ大会を通じて、楽しみながら金融経済に興味を持ってもらえるよう、今後も大会を盛り上げていきたいと思います。大会の様子はりそなホールディングスのHPをご覧下さい。

優勝チーム
栄東高等学校
黄昏プランク

山梨大会

11月18日（日）開催

主　　催　山梨中央銀行

参加校一覧　甲府市立甲府商業高等学校、山梨英和高等学校、山梨県立巨摩高等学校、山梨県立峡南高等学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立日川高等学校、山梨県立韮崎高等学校、富士学苑高等学校、北杜市立甲陵高等学校

優勝チーム
山梨県立甲府南高等学校
つじわか其の弐

参加チーム数　29チーム（12校）

運営スタッフ感想　山梨大会は今年で2回目の開催となりましたが、昨年同様多くの高校生に参加していただき、参加者から「楽しかった」「ぜひ来年も参加したい」「金融・経済に興味が湧いた」という感想が多数寄せられました。“エコ甲”をきっかけとして、多くの高校生に金融・経済に興味をもってもらえるよう、来年以降も大会を盛り上げていきたいと思います。

徳島大会

11月18日（日）開催

主　　催　阿波銀行

参加校一覧　徳島県立城ノ内高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立川島高等学校、徳島県立徳島商業高等学校、徳島県立徳島北高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島市立高等学校

優勝チーム
徳島県立城ノ内高等学校
社会の星

参加チーム数　25チーム（8校）

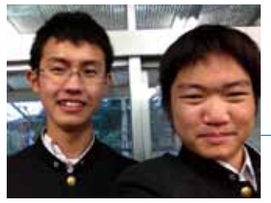
運営スタッフ感想　今回で3回目となる徳島大会も、多数の高校生に参加いただき大変盛り上がりました。決勝ラウンドのリスク=リターンクイズでは3巡目にまさかの逆転劇があり、見事、城ノ内高校「社会の星」チームが優勝を飾りました。今後もさらに楽しんでいただける徳島大会を開催していきたいと思います。今回の開催にあたり、多大なご協力を賜わりました関係各所のみなさま、参加していただいた高校生のみなさんに厚くお礼申し上げます。

インターネット大会

11月24日（土）開催

主　　催　住信SBIネット銀行

参加校一覧　一関工業高等専門学校、関西学院高等部、岩手県立水沢商業高等学校、熊本県立熊本高等学校、熊本信愛女学院高等学校、滋賀県立膳所高等学校、淳心学院高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟清心女子高等学校、盛岡市立高等学校、長野県須坂商業高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、灘高等学校



優勝チーム
栃木県立宇都宮高等学校
宇都宮C

参加チーム数　25チーム（13校）

運営スタッフ感想　インターネット大会にご参加頂いた皆様お疲れ様でした。また参加頂きありがとうございました。今回インターネット大会では住信SBIネット銀行特別賞として銀行に関わるお金の流れを絵にして頂くというという課題を出しました。この賞は、熊本県立熊本高等学校「グリベアチーム」さんが受賞いたしました。細かく丁寧に描かれていたことが印象的でした。そして筆記問題などを含めた優勝は、栃木県立宇都宮高等学校「宇都宮Cチーム」でした。残念ながら優勝できなかったチームの皆さんも、高校生のうちから金融経済について勉強する機会があったことはとてもいいことだと思っております。これからも引き続き金融経済に興味を持って理解を深めて頂ければ幸いです。来年度も是非、エコノミクス甲子園に挑戦をしてください。

愛媛大会

12月1日（土）開催

主　　催　伊予銀行

参加校一覧　愛媛県立宇和島南中等教育学校、愛媛県立今治東中等教育学校、愛媛県立松山商業高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立松山南高等学校、愛媛県立八幡浜高等学校、愛光高等学校

優勝チーム
愛媛県立松山西中等教育学校
マネタリズム

参加チーム数　23チーム（8校）

運営スタッフ感想　昨年に引き続き、株式会社フジさまのご協力を得て、大型商業施設のエミフルMASAKIで開催し、多くの皆さまにご覧いただくことが出来ました。当日は、「やのひろみ」さん司会のもと、笑いあり、涙ありの楽しい一日になりました。教育関係者をはじめとする関係者の皆さま、高校生の皆さん、ご来場の皆さま、ありがとうございました。

神奈川大会

12月8日（土）開催

主　　催　横浜銀行

参加校一覧　横浜高等学校、横浜雙葉高等学校、鎌倉学園高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、神奈川県立海老名高等学校、神奈川県立神奈川工業高等学校、神奈川県立藤沢清流高等学校、神奈川総合高等学校、聖光学院高等学校

優勝チーム
聖光学院高等学校
ゔぃくとりー!

参加チーム数　22チーム（10校）

運営スタッフ感想　神奈川大会は今回で5回目の開催となりました。当日参加した高校生たちが真剣な表情で金融や経済の問題に取り組んでいる姿が印象的でした。参加してくれた高校生、そして開催にあたってご協力いただきました関係者の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。

茨城大会

12月9日（日）開催

主　　催　筑波銀行

参加校一覧　茨城県立水戸商業高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立太田第一高等学校、茨城県立竹園高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立日立商業高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城高等学校、茗溪学園高等学校

優勝チーム
茨城県立竹園高等学校
竹園E

参加チーム数　27チーム（9校）

運営スタッフ感想　高校生が金融経済に関心を持ってもらう良い機会になったと感じた。又、勉強ではなくクイズ形式で高校生同士が、経済知識を競い合うということも大会を盛り上げた要素で、将来、社会人となるうえで一つの糧となる有用なイベントになったと思います。筆記クイズは緊張した雰囲気の中で行われ、早押しクイズは高校生が楽しみながら出来たし、リスク=リターンクイズは学校の名誉をかけて真剣に戦っている雰囲気が見ている側にも伝わってきた。また、「来年リベンジに来ます」という高校生の言葉が全てだと思います。

富山大会

12月9日（日）開催

主　　催　北陸銀行

参加校一覧　高岡第一高等学校、国立富山高等専門学校、富山県立滑川高等学校、富山県立呉羽高等学校、富山県立高岡高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立高岡南高等学校、富山県立小杉高等学校、富山県立石動高等学校、富山県立砺波高等学校、富山県立氷見高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立富山南高等学校、富山県立富山北部高等学校、富山第一高等学校、片山学園高等学校

参加チーム数　43チーム（17校）

運営スタッフ感想　今回は、過去最高の17校43チームの参加となりました。参加高校生の約半数が女子生徒だったこともあり、大変華やかで盛り上がった大会となりました。回を重ねるごとに、地域の年末行事として定着してきた様に感じました。

優勝チーム
富山県立高岡高等学校
シンプル&スタデ

石川大会

12月9日（日）開催

主　　催　北國銀行

参加校一覧　金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、星稜高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢北陵高等学校、石川県立小松高等学校、石川県立小松商業高等学校、石川県立大聖寺実業高等学校

参加チーム数　13チーム（8校）

運営スタッフ感想　決勝ラウンドは2チームが同点1位となり、一斉ボードゲームによるサドンデスでの決戦となり、白熱しました。

優勝チーム
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
「いとういういし」

岐阜大会

12月9日（日）開催

主　　催　十六銀行

参加校一覧　岐阜県立関高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立大垣商業高等学校、岐阜県立大垣東高等学校、岐阜東高等学校、多治見西高等学校、帝京大学可児高等学校

参加チーム数　26チーム（7校）

運営スタッフ感想　決勝ラウンドは、3チームによるサドンデスにもつれ込むなど、大会としては非常に盛り上がりました。学生の感想を聞いても総じて楽しい、勉強になったなど前向きなものが多かったです。来年に向けての課題もありますが、まずはほっとしています。

優勝チーム
岐阜県立岐阜高等学校
ケバブ特攻隊

静岡大会

12月9日（日）開催

主　　催　静岡銀行

参加校一覧　三島高等学校、星陵高等学校、静岡学園高等学校、静岡サレジオ高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立静岡商業高等学校、静岡雙葉高等学校・中学校、静岡県立島田商業高等学校、磐田東高等学校、不二聖心女子学院高等学校

参加チーム数　21チーム（11校）

運営スタッフ感想　静岡大会は今回が2回目の開催となりましたが、県内各地から多くの高校生に参加いただき、参加者とスタッフが楽しみながら大会を行う事ができました。決勝ラウンドではサドンデスまでもつれこむ接戦となり、大変盛り上がりました。次回も、さらに改善を図り、より良い大会となるよう努めていきたいと思います。

優勝チーム
三島高等学校
ISO

三重大会

12月9日（日）開催

主　　催　百五銀行

参加校一覧　ウィッツ青山学園高等学校、高田中・高等学校、三重県立宇治山田高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立四日市四郷高等学校、三重県立四日市商業高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立津高等学校、三重県立津商業高等学校、三重高等学校

参加チーム数　27チーム（10校）

運営スタッフ感想　地方大会2回目という事もあり、スムーズに開催でき、とても盛り上がった。

優勝チーム
三重高等学校
マコジーズ

広島大会

12月9日（日）開催

主　　催　もみじ銀行

参加校一覧　広島県立西条農業高等学校、広島学院高等学校、広島県立海田高等学校、広島県立呉三津田高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島県立廿日市高等学校、広島県立尾道商業高等学校、広島県立尾道北高等学校、広島県立福山明王台高等学校、広島国際学院高等学校、広島市立安佐北高等学校、広島市立基町高等学校、広島市立広島商業高等学校、修道高等学校

参加チーム数　26チーム（14校）

運営スタッフ感想　初めての広島大会を開催しましたが、企画当初は何から手をつけていいのか分からず、不安ばかりでした。しかし、10月の説明会で先発行さんのアドバイスを受けイメージを掴むことができ、あの日は広島大会のターニングポイントとなりました。朝から雪となった当日は、真っ赤なスタッフジャンパーを揃えた行員が26チームの高校生を迎え、クイズや応援に熱くなり一喜一憂していました。どのスタッフも「高校生たちにパワーをもらったのー」と口癖のように言っています。

優勝チーム
修道高等学校
ペイトリオッツ

香川大会

12月9日（日）開催

主　　催　百十四銀行

参加校一覧　香川県立高松高等学校、香川県大手前高松高等学校、
香川県立高松工芸高等学校、香川県立高松桜井高等学校、
香川県立小豆島高等学校、高松第一高等学校、
英明高等学校

参加チーム数　15チーム（7校）

運営スタッフ感想　積極的な生徒さんが多く、早押しクイズがいつも以上に盛り上がりました。また、事前勉強をしっかりしているチームが多く、筆記クイズで高得点が続出し、レベルの高さに驚きました。

優勝チーム
香川県立高松高等学校
連絡帳係

福岡大会

12月9日（日）開催

主　　催　西日本シティ銀行

参加校一覧　筑陽学園高等学校、
久留米市外三市町高等学校組合立三井中央高等学校、
上智福岡高等学校、西南学院高等学校、
福岡県立修猷館高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、
福岡県立筑紫高等学校、福岡県立福岡高等学校

参加チーム数　21チーム（8校）

運営スタッフ感想　参加した高校生は、みなさん終日クイズを楽しんでいるようでした。決勝では、難問にみなさん四苦八苦。事前学習の成果がそのまま結果に反映されたようです。

優勝チーム
福岡県立修猷館高等学校
F!

秋田大会

12月15日（土）開催

主　　催　秋田銀行

参加校一覧　明桜高等学校、能代市立能代商業高等学校、
秋田県立横手高等学校、秋田県立秋田高等学校、
秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立秋田南高等学校、
秋田県立大館国際情報学院高等学校、
秋田県立矢島高等学校、秋田市立秋田商業高等学校

参加チーム数　40チーム（9校）

運営スタッフ感想　今大会は、秋田県教育委員会様の協力により一般観覧OKという形で、秋田県庁で開催することができました。前回大会は横手高校チームが圧倒的な力を発揮して優勝しましたが、今大会は筆記試験から実力伯仲の拮抗した展開となり、秋田高校チームが秋田商業高校チームの追撃を僅差でしのぎ優勝を果たしました。各チームの健闘によって大いに盛り上がり、スタッフ一同大変嬉しく思っています。

優勝チーム
秋田県立秋田高等学校
KJKK

鹿児島大会

12月15日（土）開催

主　　催　鹿児島銀行

参加校一覧　鹿児島高等学校、志學館高等部、ラ・サール高等学校、
鹿児島県立加治木高等学校、鹿児島県立蒲生高等学校、
鹿児島県立錦江湾高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、
鹿児島県立川薩清修館高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、
鹿児島工業高等専門学校、鹿児島実業高等学校、
鹿児島情報高等学校、樟南高等学校

参加チーム数　29チーム（13校）

運営スタッフ感想　第2ラウンドの早押しクイズは例年より難易度が低く、答えやすかったので盛り上がった。決勝ラウンドの問題に差があり、有利不利がある。また、盛り上げ方が難しかった。

優勝チーム
ラ・サール高等学校
経済未履修勢

北海道大会

12月16日（日）開催

主　　催　北海道銀行

参加校一覧　とわの森三愛高等学校、札幌静修高等学校、
市立札幌大通高等学校、北海道旭川東高等学校、
北海道札幌国際情報高等学校、北海道札幌東高等学校、
北海道札幌南高等学校、北海道千歳高等学校

参加チーム数　29チーム（8校）

運営スタッフ感想　今回は北海道大会として最多のチーム数となりました!第2ラウンド早押し問題には地方大会ならではの「ご当地問題」を出題し、会場は大いに盛り上がりました。来年は参加者を増やしてより大会盛り上げていきたいと思います。参加者の皆さん、関係者の皆さん運営へのご協力ありがとうございました。

優勝チーム
北海道旭川東高等学校
アムール

宮城大会

12月16日（日）開催

主　　催　七十七銀行

参加校一覧　宮城県仙台向山高等学校、宮城県仙台三桜高等学校、
宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校、
古川学園高等学校、東北学院高等学校、
聖ウルスラ学院英智高等学校、仙台市立仙台青陵中等教育学校、
仙台白百合学園高等学校、東北学院榴ヶ岡高等学校

参加チーム数　25チーム（10校）

運営スタッフ感想　宮城大会の開催は今回で4回目となりました。初出場校の参加などもあり、年々大会に広がりがみられます。参加した生徒の皆さんからは、「楽しかった」、「金融・経済に興味がわいた」という声をいただいております。今後とも地域金融機関として、金融教育の機会提供に努めて参りたいと思います。

優勝チーム
宮城県仙台第二高等学校
ザ★北陸男児

山形大会

12月16日（日）開催

主　　催　山形銀行

参加校一覧　山形県立寒河江高等学校、山形県立山形西高等学校、山形県立山形中央高等学校、山形県立山形東高等学校、山形県立山形南高等学校、山形県立新庄南高等学校、日本大学山形高等学校

参加チーム数　32チーム（7校）

運営スタッフ感想　山形大会としては初めての開催でしたが、31チーム62名と多くの高校生に参加いただきました。参加者からは、この大会をきっかけに金融経済について興味をもった、新聞やニュースを見る機会が増えたなど、嬉しいご意見をたくさんいただきました。この大会を通じて、より多くの高校生が金融経済に興味を持っていただき、生活に役立ててもらえるよう、次回以降も楽しく盛り上がる大会運営を目指していきます。今回の開催にあたり、ご参加いただいた高校生のみなさん、ご尽力いただいた関係各所の皆さま、運営へのご協力ありがとうございました。

優勝チーム
山形県立山形東高等学校
イースター

福島大会

12月16日（日）開催

主　　催　東邦銀行

参加校一覧　福島県立湯本高等学校、福島東稜高等学校、第一学院高等学校郡山キャンパス、福島県立安積高等学校、福島県立会津高等学校、福島県立小高商業高等学校、福島県立清陵情報高等学校、福島県立白河旭高等学校、福島県立白河実業高等学校、福島県立福島高等学校、福島県立平商業高等学校、福島県立保原高等学校

参加チーム数　20チーム（12校）

運営スタッフ感想　今回、初めての試みではありましたが、震災の影響に負けず、未来に向かって一歩一歩あゆむ高校生の皆さんの力になりたいとの想いで、本大会を開催いたしました。参加した生徒の皆さんが、母校の代表として地域の代表として“誇り”を持って本大会に臨んでいる姿を見て、我々スタッフも深く感動を覚えました。本県は未だ震災の影響が色濃く残っていますが、参加した生徒の皆さんがさらに研鑽を重ねて大きく成長し、福島県、日本、そして世界を担う人材として活躍されることを心より期待したいと思います。最後に、このような機会をいただき、深く感謝申し上げます。当行では、福島大会が高校生にとっての“憧れの大会”となるよう、次回もさらに盛り上げて行きたいと思います。

優勝チーム
福島県立福島高等学校
チームかびばら

群馬大会

12月16日（日）開催

主　　催　群馬銀行

参加校一覧　共愛学園高等学校、群馬県立伊勢崎商業高等学校、群馬県立高崎商業高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立前橋商業高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立富岡高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校

参加チーム数　26チーム（8校）

運営スタッフ感想　初開催でしたが8校26チームに参加いただき、大会も大いに盛り上がりました。参加者からは「楽しかった」「来年も出場し優勝したい」「金融経済を学ぶきっかけとなった」などのうれしい感想をもらい、スタッフ一同「やってよかった」という充実感に浸っています。

優勝チーム
群馬県立富岡高等学校
チーム富高

千葉大会

12月16日（日）開催

主　　催　千葉銀行・千葉興業銀行

参加校一覧　市川高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、千葉県立佐倉高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、千葉県立千葉東高等学校、千葉県立船橋高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、八千代松陰高等学校、流通経済大学付属柏高等学校

参加チーム数　22チーム（9校）

運営スタッフ感想　第4回千葉大会は、多数の高校生に参加いただき、盛況のうちに終了しました。優勝チームはサドンデス3問目で決定、最後までハラハラドキドキする展開となりました。開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、参加してくれた高校生の皆さん、ありがとうございました。今後も千葉銀行と千葉興業銀行の2行で千葉大会を盛り上げていきたいと思います。

優勝チーム
渋谷教育学園幕張高等学校
十本桜

東京大会

12月16日（日）開催

主　　催　りそな銀行

参加校一覧　開成高等学校、慶應義塾女子高等学校、桜蔭高等学校、筑波大学附属高等学校、東京都立立川高等学校、日本学園高等学校

参加チーム数　11チーム（6校）

運営スタッフ感想　今回の東京大会には11チームが参加。それぞれが優勝目指して接戦を繰り広げましたが、決勝のリスクリターンクイズで、全問をノーヒントで見事に正解した、都立立川高校の「となりの島野さん」が全国大会への切符を手にしました。最後まで笑いあり悔しさありで、参加者もスタッフも思い切り楽しみました。今後もこの大会を通して、多くの高校生に楽しみながら金融知力の大切さを学んでもらえるよう盛り上げていきたいと思います。

優勝チーム
立川高等学校
となりの島野さん

福井大会

12月16日（日）開催

主　　催　北陸銀行

参加校一覧　仁愛女子高等学校、足羽高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立丸岡高等学校、福井県立金津高等学校、福井県立高志高等学校、福井県立鯖江高等学校、福井県立三国高等学校、福井県立大野高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立福井商業高等学校

参加チーム数　30チーム（12校）

運営スタッフ感想　今回は、大会初の女子チーム優勝となりました。最後は2チームによるボードクイズまでもつれた激戦となり、大変盛り上がりました。応援に来場された方も回を重ねるごとに増え、地域の年末行事として定着してきた様に感じました。

優勝チーム
福井県立藤島高等学校
がーるず

愛知大会

12月16日（日）開催

主　　催　愛知銀行

参加校一覧　愛知教育大学附属高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立一宮商業高等学校、愛知県立岡崎高等学校、愛知県立瑞陵高等学校、海陽中等教育学校、春日丘高等学校、滝高等学校、東海高等学校、南山高等学校男子部、名古屋高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校

参加チーム数　25チーム（12校）

運営スタッフ感想　今回は、昨年の決勝ラウンドで悔しい思いをしたチームが再チャレンジして見事優勝を果たしました!優勝が決まったときの彼らの嬉しそうな表情は忘れられません。参加者アンケートでは、この大会をきっかけに金融経済に興味が沸いた、楽しかった、という意見も多くいただきました。今後さらにより良い大会となるよう努めていきたいと思います。

優勝チーム
東海高等学校
ネオデフォルト

奈良大会

12月16日（日）開催

主　　催　南都銀行

参加校一覧　国立奈良工業高等専門学校、西大和学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、帝塚山高等学校、東大寺学園高等学校、奈良学園高等学校、奈良県立郡山高等学校、奈良県立畝傍高等学校、奈良県立奈良高等学校、奈良市立一条高等学校

参加チーム数　28チーム（10校）

運営スタッフ感想　準備段階ではかなりの労力が必要となり、直前まであたふたしていましたが、参加者の一生懸命に取り組む姿や、楽しんでいる様子を目の当たりにすると、こちらがパワーをいただいたような気持ちになりました。大会は大いに盛り上がり、今回は、奈良大会初の女性チームが優勝しました。ご参加いただいた皆さん、ご尽力いただいた関係各所の皆さまには厚く御礼申し上げます。

優勝チーム
智弁学園奈良カレッジ高等部
つるぱっち

島根大会

12月16日（日）開催

主　　催　山陰合同銀行

参加校一覧　鳥取県立鳥取西高等学校、鳥取県立米子東高等学校、鳥取県立米子南高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立出雲商業高等学校、島根県立松江商業高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立浜田高等学校、米子松蔭高等学校

参加チーム数　14チーム（9校）

運営スタッフ感想　初の島根（山陰）大会開催でしたが、島根・鳥取両県の高校から14チーム、28名の参加があり、盛大に開催することができました。決勝ラウンドは予選上位チームが優位かと思われましたが、予選6位チームが見事「ノーヒント」で連続正解し、下克上を成し遂げ、全国大会への出場権を獲得しました。

優勝チーム
島根県立松江北高等学校
しまねっこ×2

岡山大会

12月16日（日）開催

主　　催　中国銀行

参加校一覧　岡山学芸館高等学校、岡山県立岡山城東高等学校、岡山県立岡山大安寺高等学校、岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、岡山県立玉島高等学校、岡山県立勝山高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、岡山県立総社高等学校、岡山県立東岡山工業高等学校、岡山高等学校、岡山市立岡山後楽館高等学校、岡山白陵高等学校、玉野市立玉野商業高等学校、金光学園高等学校、朝日塾中等教育学校、津山高等学校

参加チーム数　45チーム（19校）

運営スタッフ感想　今年から、岡山大会となりましたが、学校数、エントリー数ともに全国最多の地方大会となり、スタッフ一同大変喜んでいます。早押しクイズでは、一発ギャグも飛び出すなど、終始和気藹々とした雰囲気で進行しましたが、決勝ラウンドは、緊張感あふれるなか、サドンデスとなり、辛くも予選一位通過の岡山城東高校のチームに軍配が上がりました。スタッフ一同、全国大会での活躍を期待するとともに、次回の大会が今年以上に盛大になるよう努力して参ります。

優勝チーム
岡山県立岡山城東高等学校
⊆

山口大会

12月16日（日）開催

主　　催　山口銀行

参加校一覧　下関市立下関商業高等学校、山口県立宇部高等学校、山口県立下関西高等学校、山口県立下関中等教育学校、山口県立岩国高等学校坂上分校、山口県立小野田高等学校、山口県立大津緑洋高等学校、山口県立豊浦高等学校、山口県立防府高等学校、山口県立防府商業高等学校、山口県立柳井商工高等学校、慶進高等学校

参加チーム数　27チーム（12校）

運営スタッフ感想　期待と不安で迎えた初めての山口大会。当日、我々スタッフを待っていたのは、そんな不安を吹き飛ばすのに十分な、20チームの元気溢れる高校生が繰り広げる素晴らしい戦いでした。名回答・珍回答の数々に、MC金光一昭さん（FM山口）の軽妙トークも相まって会場は大いに盛り上がり、参加者の「来年も絶対来ます」というひと言にスタッフ全員で大喜びしました。一生懸命に、笑顔いっぱいで頑張ってくれた全ての高校生に心から感謝したいと思います。

優勝チーム
山口県立宇部高等学校
チーム崖っぷち

宮崎大会

12月16日（日）開催

主　　催　宮崎銀行

参加校一覧　延岡学園高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校、宮崎第一高等学校、宮崎日本大学高等学校、宮崎北高等学校

参加チーム数　30チーム（6校）

運営スタッフ感想　経済に関連深いまさに総選挙投票日当日に民放2局のエース女子アナを司会にお迎えし、スタッフ一同楽しみながら大会を開催することが出来ました。筆記クイズでは、高校生VS銀行員VS女子アナという全国行きの切符とは全く関係のない状況も生まれるなか、全国で一番早く募集定員に達した宮崎大会らしく、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。そんななか、常に冷静な試合運びを見せた唯一の3年生参加チーム『DcLove!』が、予選ラウンドトップの勢いそのままに宮崎大会を制しました。全国大会での健闘をお祈りいたします!!他のチームの皆さま、来年またお会いしましょう!!

優勝チーム
宮崎県立宮崎西高等学校
DcLove!

沖縄大会

12月16日（日）開催

主　　催　沖縄銀行

参加校一覧　沖縄県立浦添高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖縄県立那覇高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立普天間高等学校、沖縄県立名護商工高等学校、沖縄県立陽明高等学校、沖縄尚学高等学校、興南高等学校、沖縄県立具志川商業高等学校、昭和薬科大学附属高等学校、沖縄県立中部商業高等学校

参加チーム数　31チーム（14校）

運営スタッフ感想　今回、決勝Rの新方式での解答方法により、白熱した試合展開となり大変面白かったとの声も多く好評だったが、その反面、先に点差がつきすぎ、優勝校が決定した後は消化試合となった。第3巡目では配点を高くするなど、工夫が必要だと思われる。

優勝チーム
沖縄県立那覇国際高等学校
那覇国SGY

第七回エコノミクス甲子園
スタッフリーダー
御手洗　伸

こんにちは。第7回エコノミクス甲子園において学生責任者を務めました御手洗と申します。私とエコノミクス甲子園の出会いは高校2年生の時でした。思い返せばそのときから大学生になったらこの大会のスタッフになろうと決意していたような気がします。それにはいろいろな理由があります。優勝してニューヨークに連れて行っていただいたことに対して恩返しをしたいと思ったことや、経済を学ぶ大切さを知りそれを後輩たちや他の高校生たちにも知ってもらいたいと思ったことなども大きな理由ですが、何より一番大きかったのは参加してみてとても楽しかったことでした。クイズに正解できた瞬間や優勝できた瞬間はもちろんですが、趣向をこらしたクイズ形式や仲間とともにプレゼンを作れたこと、さらには経済を学ぶことそのものについても楽しいと感じました。

私が今回この大会を運営する上で特に気を付けたことはやはり高校生の皆さんが楽しいと感じられる大会を作ること、そしてそれだけではなく見ていておもしろいと感じられる大会を作ることでした。それがどれだけ達成できたかはわかりません。個人的には反省することも多々あります。ですが、この大会に参加してみて楽しいと感じることのできた皆さんはぜひこれからも経済を学び続けてください。経済を学ぶ機会はたくさんあるような気がしますが、経済の専門分野に進まない限り多くはありません。積極的に自分から学んでください。そして興味のある方はスタッフとしてこの大会を盛り上げてください。お待ちしております。

第八回エコノミクス甲子園
スタッフリーダー
広瀬　哲

今回、報告書に載せることができるとのことなので、私たち学生スタッフから皆様にメッセージをお伝えしたいと思います。

エコノミクス甲子園の運営の大部分は、かつてのエコ甲参加者だった、私たち「学生スタッフ」が行っています。大学1年生になった私は、表向きには「エコ甲に恩返しをするため」、裏向きには「ただなんとなく」、1年目スタッフとしてエコ甲に参加しました。もちろん、エコ甲スタッフという仕事はとても大変でした。「参加する高校生に良い体験を贈ることができるか」は大会の出来自体にかかっており、その責任はとても重大です。しかしその反面、「全国の高校生が参加するクイズ大会」の運営が、とても貴重な経験となったことは間違いありません。最終的に、エコノミクス甲子園を成功に収めたという達成感を得ることができ、1年間頑張って本当によかったと思っています。エコ甲に参加してくれた高校生の皆さんには、高校を卒業しても是非エコ甲に携わり続けてほしいです!私たちと一緒にエコ甲を創っていきましょう!

昨年1年間は、第6回までのエコ甲を創ってきた先輩方の経験と技術、そして自分の考え方に刺激を受けつつ、自分の信念のなさに自信を失うこともありました。そんな未熟だった1年生も、今年は各々の「信念」を持ち、新1年生を率いて第8回エコノミクス甲子園に向けて準備を進めています。次も素晴らしい大会にします。これからもエコノミクス甲子園をよろしくお願いします!

1日目

1日目の最初に迎えるのは金融知力普及協会プロデュースで発売されている経済TCG「エコノミカ」の大会。事前に配布されていたこのTCGですが、事前に戦術研究を行った高校生、カードの役割をうまく使いこなす高校生、イベントを絶妙なタイミングで引き起こす高校生など、緊迫感溢れかつ、カードゲームを通して参加者同士の親睦を図ることも出来ました。

その後はコモンズ投信株式会社代表取締役社長の伊井哲朗様の講演でした。現在の経済情勢と高校生たちの将来に絡めたお話という、まさにエコノミクス甲子園全国大会に参加した高校生たちだけが聞くことのできた貴重な機会でした。高校生も経済の最前線で働く方のお話を聞きとてもいい刺激になったようです。

講演を聞き終え、高校生たちは昼食をとったのですが、ここでも高校生にグループ対抗のミッションが課せられました。謎の「pisaru=langan指数」を求めるという問題にご飯そっちのけで高校生たちは頭を悩ませていました。

お昼ごはんのあとは毎年恒例の筆記クイズ。60分間の間に4択問題、論述問題を自分の経済知識と金融知力をフル回転させて1点でも多く取ろうと問題に取りくむ高校生の姿が見えました。

60分間経済の問題と戦ったあとは休むまもなく事前に抽選で決定したグループワークの時間です。今年はその名も「エコノミクス広辞苑」。昼食時に考えた謎の「pisaru=langan指数」という全くでたらめな経済指数を基に1～4桁の数字を算出し、その数字がそのまま広辞苑のページ数となりそのページのみが高校生に与えられます。与えられたページの見出し語からキーワードを一つ選び、【○○で景気回復】というタイトルで、壁新聞を作る、というのが第七回のグループワークでした。

会ってまだ24時間も経っていない他のチームと一緒に壁新聞を作り上げる作業に最初はぎこちない高校生でしたが、一時間もすれば白熱した議論をどのグループも交わしていて、最高の「景気回復」を提案すべく、制限時間ギリギリまで話し合いを行いました。

翌日、全国大会の会場で、この壁新聞が掲示され、一般参加者も含めての審査が行われました。

2日目

■ 第一ラウンド・大発会早押しクイズ

大会二日目、会場であるイイノホールで最初に行われたのは『大発会!早押しクイズ』。このラウンドは北から順に4チームで早押しクイズに挑戦し、一問終了するたびに2チーム入れ替わっていくものです。正解したら一問につき10点が加算されます。

各チームが登場するたびにそのチームの写真が大きく画面に表示され、全国大会に出場する各チームのチーム紹介も兼ねたこのラウンドですが、やはり最初のラウンドだということもあり、高校生たちは緊張した面持ちでクイズにのぞんでいました。

緊張してなかなか早押しボタンを押すことができずにいたチームもいましたが、中には早押しというとてもシンプルで作戦の立てにくい形式で、さらに誤答のペナルティーはないということもあり、少しでもわかりそうな問題があれば、積極的に早押しボタンを押して問題に答え、会場をわかしたチームもありました。

ラウンド名にも使われている「大発会」という言葉の意味は一年間最初に行われる催事のことを意味します。その「大発会」に恥じないラウンドになりました。

■ 第二ラウンド・リスクリターン! VISUAL連想クイズ

続く第２ラウンドは「リスクリターン! VISUAL連想クイズ」です。このラウンドは全国大会に出場した34チームすべてが挑戦しました。ステージ上に集められた高校生たちは、舞台奥のスクリーンに表示される画像から何が連想されるのか予想して解答します。

それぞれの問題につき画像は順番に1枚ずつ、合計4枚表示されます。このラウンドは何枚目の画像で解答するかによって得点が大きく異なります。1枚目で解答する場合、正解なら＋20点、不正解なら得点の変化はないのですが、遅く解答するほど、正解時に獲得できる得点は減っていき、不正解時のペナルティが増えていきます。最後の4枚目で解答した場合、正解なら＋2点、不正解なら－14点となってしまいます。早く解答して大量得点を狙うか、確実に得点するために次の画像も見て解答するか、あるいはペナルティを恐れて勝負を見送るか、高校生にとっては実力のほかに戦略も大事となるラウンドでした。

問題は全部で4問あり、それぞれ「いざなぎ景気」「ドラッカー」「養老保険」「日本銀行」を答えさせる問題でした。最後の画像まで見れば答えがわかるにもかかわらず、あせってしまって早い段階で解答してしまうチームがいる一方で、着実に点数を積み重ねていくチームもいて、それぞれのチームの個性が垣間見えたラウンドでした。

画像を見て答えを予想するというこのクイズの形式に、若干戸惑ってしまった高校生も多かったように思われます。それでもまだまだヒントが少ない1枚目の画像の段階で高校生が正解すると、会場には大きなどよめきと拍手が起こりました。なかでも「日本銀行」が答えである「この画像の中心地には何の施設が映っているでしょう?」という問題では、1枚目の画像が日本列島の衛星写真であったにもかかわらず正解したチームがおり、会場にひときわ大きな歓声が起きたのが非常に印象に残りました。

■ 第三ラウンド・投資クイズ-ファンドマネジメント

昼休みと中間発表も終わって、午後一番にあるのはこの『投資クイズ-ファンドマネジメント』です。挑戦したのは一日目の筆記クイズとプレゼンクイズ、それに二日目午前中にあった2ラウンドの結果から選ばれた11チームと一日目に行われた「エコノミカ」の優勝チームの計12チームです。次のラウンドへはこの12チームから6チームが駒を進めることになります。

このラウンドは12チームが2グループに分かれて、最初に架空のお金として100万円与えられて、そのお金をクイズによって増やしていくというラウンドです。高校生たちには2グループ交互にクイズに挑戦してもらうのですが、ただクイズに答えてもらうだけではなく、自分のグループがクイズに挑戦しない時は、相手グループのどれかのチームに自分のチームのお金を投資しなければなりません。正解ならば投資したチームとされたチームの両方のお金が増え、一方で不正解ならばその両方が減ってしまうという寸法です。

どこにどれだけ投資するかなどかなり戦略性の高く、またリスクも高いクイズで最初高校生たちはおっかなびっくりでしたが、やっているうちに、自信のあるチームは自信のあることを投資側にパフォーマンスなどでアピールしてお金を集めるなどという光景も見られました。

また、このラウンドは一発逆転も可能で、最終問題で全財産を投資にまわすチームが現れたりして、会場も非常に盛り上がりました。

問題は全部で6問ありましたが、このラウンドで東海、宮崎西、渋谷幕張、旭川東、高岡、長崎商業の6チームが次のラウンドへ駒を進めました。

■ 第四ラウンド・論述クイズ The 監査人

第4ラウンドは『論述クイズ The 監査人』という新形式。第3ラウンドを勝ち抜いた6チームを2つに分けて行うグループ対抗の論述クイズです。各チームにはそれぞれ異なる論述問題と3つのキーワードがランダムで与えられます。ここで、解答にはこれらのキーワードを必ず使わなければならないという難しい制約があります。出題されたのは、今の経済で起きていることを「中学生にわかるように」説明する問題や、「日本人1人ひとりに1億円を配ったら……?」「もし日本がまた鎖国をしたら……?」のような問題まで。チームによっては問題とキーワードの愛称が悪い、いわゆる「引きが悪い」状態もありました。

さらにもうひとつ、このクイズの大きな特徴は、各チームの論述を採点するのが高校生自身だということです。他チームの論述が適切かどうか、内容やプレゼン力の観点から採点し、2人の有識者審査員の得点を加え各チームのポイントが決まります。そして全チームの解答と採点の後、ようやくここでグループが発表され、合計得点が高かった3チームがまとめて決勝進出となります。ルールを説明するだけでも一苦労なこのクイズ形式ですが、高校生には解答・発表・採点と多数の仕事が要求される大変なラウンドでした。短時間で難問に素晴らしい答えを出した高校生のレベルの高さを感じます。

組分けの結果、わずか2点差で渋谷幕張高校・東海高校・宮崎西高校の3校が勝利となりました。しかし、得点1位の高岡高校が敗退するというまさかの展開に。2年連続で出場し、昨年も準決勝敗退だったのですが惜しかったです。1年生チームの旭川東高校は来年のリベンジを誓いました。残念ながら得点最下位だった智弁奈良高校は、同じ組となった二校を巻き込んだことが心残りだったようでした。悔しさをばねに、さらなる成長を目指してこれから頑張ってほしいと思います。

■ 第五・GREEラウンド・敗者復活!市場淘汰2択クイズ

「続いては決勝ラウンドです。それではカーテン、オープン!」司会のその言葉で、閉じられていた舞台のカーテンが開けられると、そこには優雅にソファーに座る、これまでのラウンドを勝ち抜いてきた3チームの姿がありました。これからこの3チームで決勝ラウンドを行う・・・と思いきや、司会の口から「決勝ラウンドは4チームで行います」という言葉が飛び出しました。そうなのです、決勝ラウンドに進めるのは4チームなのです。客席で観戦していたこれまでのラウンドで敗退してしまった高校生たちが少しざわつき始めました。そして、舞台上のスクリーンには大きく「敗者復活!」の文字が・・・!客席の高校生たちは大きな歓声をあげました。こうして、決勝ラウンドに進める残り1チームの枠をかけた敗者復活戦を行うこととなったのです。

敗者復活戦のルールは次々と出題される2択の問題に答えていき、間違えた時点で失格となってしまうというシンプルかつサバイバルなルールです。最後まで残った1チームだけが決勝ラウンドに進出することが出来ます。次のラウンドへ進出するためには1問も間違えることが出来ない、という緊張感が舞台上に立ち込めました。

高校生たちは問題が出題されてからわずか5秒で答えなければならないという厳しい条件のなかでも、次々と問題に答えていきました。問題数が進むにつれて、勝ち残っているチームはだんだんと減っていきます。会場にはいつ勝者が決まるかわからないというハラハラした緊迫感がありました。そんななか、十数チームのなかから見事、単独正解を決めて、決勝ラウンドに進出できる1チームとなったのは聖光学院の「うぃくとりー!」チームでした。勝ち抜けが決まった瞬間、「うぃくとりー!」チームはガッツポーズをして、ハイタッチを交わしていました。この結果、これまでのラウンドを勝ち抜いた3チームと敗者復活戦を勝ちあがった1チームの合計4チームが決勝ラウンドに進むこととなりました。

なお、このラウンドで使用する問題は大会の協賛もいただいたGREE株式会社のスマートフォン用アプリ「投信NAVI」のなかから出題いたしました。

■ 決勝ラウンド・需給曲線クイズ

スモークと共に舞台上に現れる決勝進出の4チーム。決勝ラウンド開始前、各チームが勝負へかける思いを語ります。決勝は『需給曲線クイズ』。需要曲線と供給曲線のグラフを用いた20問限定のボードクイズです。各チームは需要曲線・供給曲線を上げ下げしながら、1問ごとに中心に近づく自分のゾーンに均衡点を移動させれば勝利となります。「価格は需要と供給によって決まる」というのは、経済学の基本ですね。また、「回転チャンス」という重要なルールもあります。4問に1度出題される早押しクイズに正解すると、時計回りか反時計回りに1つゾーンを回転させる権利を得ます。自分のゾーンから均衡点が遠ざかってしまってもチャンスを活かせば逆転が可能というわけです。

このクイズのポイントは、やはり需給曲線の動かし方です。動かし方のミスが相手の優勝につながることもあり得るため、正確な判断が求められます。需給曲線のグラフを見ると試合の状況は簡単に理解することができますが、ルールは大変複雑です。

試合は、市場の働きにより（?）均衡点は中心付近を移動するものの、回転チャンスもあり首位は何度も入れ替わるという接戦・激戦となりました。たとえば、開始から3問は東海高校有利に均衡点が動くも回転により宮崎西高校がすぐさま逆転したり、早押しクイズに正解した渋谷幕張高校が回転チャンスを使うことで聖光学院が首位に立ったりするなど、変動が激しく最後まで勝負がわかりませんでした。そんな勝負を制したのは、最終20問目「エンゲルス!」を正解し回転チャンスを決めた東海高校でした。優勝の瞬間、東海高校の2人はそれまでかけていたサングラスをとうとうはずし、泣きながら抱き合っていました。舞台裏では、これに感極まって泣いてしまうスタッフもいたほどです。

誇りに思いたいと語った2位・宮崎西高校。知識不足を感じ悔やんでいた3位・渋谷幕張高校。後輩に是非出て欲しいと言ってくれた聖光学院高校。惜しくも敗れたどのチームも素晴らしかったと思います。東海高校ネオデフォルト、優勝おめでとうございます!

全国大会感想 *Final tournament report*

北海道大会代表　北海道旭川東高等学校一年
小山　彰教

今、思い出しても昨日のことのように感じられるエコノミクス甲子園。この大会は僕にとって本当に良い経験となりました。

エコノミクス甲子園には旭川東高校のクイズ研究同好会として毎年出ていると聞き存在を知り、送られてきた資料を読んでいるうちに興味が薄かった経済が面白いと思うようになりました。

地区大会当日、当日の朝は、楽しめれば良いだろう、程度にしか思っていませんでしたが、いざ始まってみると先輩たちを抑えて優勝。全国への切符を手にいれました。

冬休みの間は新しく頂いた3冊の教材を読み、少しでも多くの知識を取り入れようと思いましたが、暗記することが苦手な僕は、なかなか覚えられず苦戦しました。そのような状態が続き、このままで全国大会の難しい問題を解くことが出来るのだろうか、という思いがいつも心にありました。

東京に着いて最初に行われたのはエコノミカ大会。本当に良いゲームだと思いました。僕たちは予選で負けてしまいましたが、色々な高校の人と白熱した戦いを繰り広げながら楽しく会話することができました。そして、昼食時には皆さん忘れることがないであろう、「pisaru-langan指数」からの筆記テスト。あの正解発表（?）の時は驚いて言葉もでませんでした。その後は壁新聞。僕たちは「おやつ」というテーマの元で壁新聞を作り発表しましたが、発表を聞いてどの班もとても素晴らしく、聞き入ってしまいました。ここでは、ドッキリ大臣の彼女ネタは忘れられませんよね（笑）

日曜日は終日全国大会。午前中の早押しと連想クイズは全く解らず3R進出は半ば諦めていましたが、前日の壁新聞と筆記のおかげもあって抜けることができました。 3Rは12チームでの投資クイズ。これは、知識量はもちろんですが、どこに賭けるかというところが勝敗を大きく左右するので、その時は相方と熟考しました。準決勝は、 6チームでの論述クイズ。僕たちは発表寸前まで「希少性」という言葉の使い道に困りましたが、発表直前に思いつき、入れることができたので良かったと思いました。僕たちは2ポイント差で惜しくも負けてしまいました。自分の出来る限りの力を出せましたが、だからこそとても悔しかったです。決勝は客席から見ていましたがその時に、知識だけでは勝つことが出来ないズ。誤答による減点も大きく、これもまずまずの結果となりました。そして中間発表、祈る思いで結果を待ちました。僕たちは11チーム中10位の滑り込みで2回戦にぎりぎり進むことができました。ポスター審査が勝ち進めた大きな要因です。6班の皆には本当に感謝しています。 2回戦は投資クイズ。このクイズはA,B2グループに別れ、相手側が答えを出す間に自分たちは正解しそうなチームに投資をし、正誤に応じて持ち金が増減するというエコノミクス甲子園ならではなルールです。僕たちは途中勝ち上がりラインに届いていなかったのですが、最後の最後に全額投資というハイリスクによってハイリターンを得ることができ、なんとか準決勝に進出しました。あの時の全額投資先だった愛知県東海高校のお二人にも感謝したいです。

いよいよ準決勝。毎年出される論述クイズが僕たちを向かえていました。初めにお題とキーワード、それとグループ分けが書かれたボードが配られました。このラウンドは勝ち上がり方が特徴的で、他のグループの論述を聞いて採点をして最後にボードに書かれたグループに分かれて合計点を競うというものでした。僕たちはキーワードを全て使用するというルールに苦戦しながらもなんとか論述をまとめて発表しました。この時も僕は相方に発表を任せてしまい甘えてしまいました。結果は2点差という接戦で僕たちは敗退してしまいました。

僕たちは初出場ながらも健闘し、ベスト6という結果に終わりました。満足できないかと聞かれるとできないとは言えないですが、課題があることは確かです。具体的に言えば知識も知恵も出すことが出来なかったのです。初めにも言いましたが つまりは勉強不足だということです。それ故に、周りに甘えて自分の力を出して協力することが出来ませんでした。悔しいです。出来ればもっと勉強をして来年また全国大会に出場して自分で結果を残したいです。

最後に、見事優勝した愛知県東海高校のお二人。優勝おめでとうございます。あなた方の優勝、僕は納得できます。僕もお二人を見習って勉強します。

また一緒に活動してくれた6班の皆さんありがとうございました。皆さんのおかげで勝ち進むことが出来ました。

そして事務局の皆さん、大学生スタッフの皆さん、本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

宮城県代表　宮城県仙台第二高等学校一年
今野　律人

ある日クイズ研究会に所属している友人にエコノミクス甲子園にでないかと誘われた。経済に関するクイズ大会だと言われ、経済学部志望の僕は軽い気持ちで参加することにした。

なんやかんやあってほぼ無勉強の状態のまま地区大会当日がやってきてしまう…マクドナルドで相方と合流し、楽しんでいこうと気持ちを統一し会場へ…筆記クイズ、早押しクイズと必死になっていたら決勝に進出することが出来た。が、決勝までの成績では決勝進出6チーム中6位で、さらに近似値にも助けられていた。そんな負けて当たり前の状態で気負わずにいけたのかまさかの優勝を果たした。豪華な副賞に大喜びしていると副賞の中に教科書サイズの本が三冊も入っている……経済のテキストだった。

全国大会こそしっかり勉強しようと思っていたが結局一週間前まで勉強することはなかった。テキスト三冊計700ページを一週間で終わらせるという奇跡をやってのけ全国大会へ。学校が終わったあとすぐに駅へ向かい、そのまま会場である宿舎に到着した。割り当てられた部屋に行くと愛知県の東海高校と同室だった。二人とも個性が強く、話していてとても楽しく話が弾んだ。

そして大会前日――――

エコノミカや壁新聞製作、筆記クイズなどにスタッフの大学生に騙されたりもしながらも必死に取り組んだ。正直この日の夜は「もう来年は絶対に来ない」などと思うくらい酷く騙された……

そして大会当日――――

一次ラウンド、二次ラウンドが終わったところで僕らのチームは脱落してしまった。しっかり勉強していなかったから当然のことなのだが、とても悔しかった。決勝、準決勝のクイズはゲームとしてもおもしろそうだったので残っている人達が羨ましかった。

いつしか「来年も絶対出たい、出て優勝してやる」と思っていた。そんな風に思えるくらい"エコノミクス甲子園"はいいものだった。来年は絶対にカリを返す!

最後にエコノミクス甲子園の運営の方々、地銀の方々、その他お世話になった方々に心から感謝したい。

本当に有り難う御座いました。そしてお疲れ様でした。

宮城県代表　宮城県仙台第二高等学校一年
渡邉　朋晃

私は、今回のエコノミクス甲子園で様々なことを学ぶことができました。その中から3つについて書きたいと思います。

1つ目は、経済の仕組みについてです。今大会に向けて勉強することや、講演会など、多様な場面で経済の仕組みや大切さについて学ぶことができました。

2つ目は、仲間と協力することです。初めて会った仲間と壁新聞を作るために話し合い、目標に向かって進めることが出来ました。結果、仲良くなって友達も増えたし、全国区の人のクイズだけではない一面も見ることが出来て、良かったです。

3つ目は、悔しさです。今大会では様々な悔しさを味わいました。人に負ける悔しさ、騙される悔しさ…。その悔しさをバネに1年間鍛え直してきたいと思います。

水谷さんをはじめ、大会スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

秋田大会代表　秋田県立秋田高等学校二年
畠　熙仁

FROM THE OUTSIDE LOOKING IN, YOU CAN'T UNDERSTAND IT.
FROM THE INSIDE LOOKIND OUT, YOU CAN'T EXPLAIN IT.

経済ってなんかかっこよくない?…そんな単純な動機で参加したエコノミクス甲子園。あっという間の2日間でした。でも、今まで過ごしてきた人生の中で最も充実していた2日間だったかも知れません。たったの2日間だったけれど学んだことは枚挙に遑がなく、どの一瞬、瞬間も最大限の喜びと興奮…と時々欺瞞、に満ち溢れていました。

初日、にテーマをつけるとすると、友情と人間不信―といったところでしょう。まさかそんな相反する感情の両方を須臾に味わうなんて夢にも思いませんでした。

一日の始まりは、第7回エコノミクス甲子園の最初のイベント、エコノミカ大会。エコノミカは、その名前・見た目からは予想できないほど…奥が深いです。アセットは種類ごとの預金・ドルといった特徴を捉えていて、また、イベントのバラエティーが豊富で一瞬たりとも油断できません。加えてそのイベントがもたらす効果が絶妙で、勝利を確信して得意になっていた時に相手のイベントカード1枚をリスクヘッジできなくて負けた絶望感は、今後社会の中で責任ある一個の人間として生きていく上で大切な教訓となることでしょう。

初日に学んだもう1つの大切な教訓―他人を簡単に信じてはいけない。翌日のポスターセッションに向けてのグループ活動でのこと。グループ活動の概略はざっと「顔を合わせるのも初めてなのに一緒にプレゼンをする、この難題を克服するために全国から集った高校生の仲間が協力する」。この活動でまたとない、大切な友達を得ました。しかし、同時に人間不信にもなりました。と言うのも、実は、（何かしらの都合上概略には入れることのできない、つまり「語りえぬものについては沈黙しなければならない」部分があるのですが、とにかく）騙されました。今となっては、メンバーと密な連携を強いる、一種粋な嘘だったと笑って振り返ることができますが、まさかプレゼンが徒労に終わるとは...終了後にグループのみんなと「こうやって大人になっていくんだね」と慰めあったことは良い思い出です。

さて、いよいよ大会当日の2日目。テーマは文句なしで「喜びの涙」。まるで優勝したかのような文言ですが、私達のチームは優勝からは程遠く、寒ら初日のグループ代表のチームの応援をしていました。金融知力を競う大会なのに他のチームの応援?と疑問を抱く方もいらっしゃるでしょう。もちろん、予選で勝ち上がった代表としての自覚を持ち、努力をしてきました。でも、負けたのにあんなに清々しかったのは初めてでした。それだけ優勝した東海高校の2人は強かったです。予選1位通過、筆記テストでの最高得点などの好成績に加え、何より彼等の真剣味に胸を打たれました。自分の頭を武器に一切の躊躇いなく雄弁に語る姿、パートナーへの絶大な信頼、さらには、会場に笑いをもたらすユーモア…彼等は勝つべくして勝った、そう、同じグループのメンバーとして誇りに思います。そんな、全身全霊をかけて勝負し、優勝した時の彼等の「喜びの涙」を祝福したいです。

しかし、応援に回っていた私をも人知れず「喜びの涙」を流したのには他にも理由があります。それは、エコノミクス甲子園そのものです。初日のグループ活動が無ければ彼等を応援していなかっただろうし、大会での戦局の予想ができない熱い戦いが無ければ彼等の優勝にこれほどまで感銘を受けることはできなかったでしょう。各種工夫が凝らされて、高校生に楽しませながら運・相対評価といったメッセージを伝えるクイズに舌を巻いたことは数知れず。特に、最終ラウンドの需供曲線クイズは秀逸で、回転チャンスを獲得した東海高校の2人が最後の最後に優勝を勝ち取った時に共有したteam2の連帯感は掛け替えのない宝物です。他にも、もし大学生スタッフの方から様々な話を聞くことができなかったら…、敗者復活ラウンドがなかったら…etc.こんなにも、私は満足感で心が満たされてはいなかったでしょう。得たもの全てを文字に起こすことはできませんが、今、はっきりと、前とは違う世界に胸を躍らせている自分がいます。ふとしたきっかけでエコノミクス甲子園に出場し、素晴らしい経験を手に入れられた幸運に感謝します。そして、東海高校のこの上なくドラマチックな優勝の際、大学生スタッフの方が流した「喜びの涙」の裏に、大会本番の何倍も劇的で多大な御苦労を経て準備してくださったスタッフ皆様のご尽力があったことを決して忘れません。本当にありがとうございました。

最後に、最も感動したスピーチの中から一節を。

―お金はパートナーです。とっても大事な、だけどただの道具です。人生の目標にはしないで。

この言葉とエコノミクス甲子園の思い出を胸に刻み、新たな明日へ一歩、踏み出していきたいと思います。

秋田大会代表　秋田県立秋田高等学校二年
佐々木　捷

私は第七回エコノミクス甲子園全国大会に出場し、多くのことを学びました。得た物があまりに多いため、特に印象に残っている点だけ書かせて頂きます。

まずこの大会への参加によって、金融や経済に関する知識が深まり、それらに対する関心がより一層大きくなりました。その背景には、金融知力普及協会の方から頂いた、金融市場や金融商品、資産運用など様々な種類のテキストで勉強したり、コモンズ投信株式会社代表取締役社長の伊井哲朗さんの講演を聞いたり、○○で景気回復という内容の壁新聞を作ったりなど、学校では経験できない貴重な経験ができたからだと思います。

一方、大会を通して多くの友人ができたり、大学生のスタッフさんたちと交友関係ができたりなど、自分と同じく経済に興味を持つ多くの人に出会えたことも、私にとって大きな収穫です。現在の世界経済について意見を交換したり、大学や就職先について話し合うなどたくさん刺激を受けました。また交友関係を築くにあたって、経済トレーディングカードゲーム「エコノミカ」はとても役に立ちました。このゲームは子供でも楽しく遊べるカードゲームでありながら、インベストやビルドインスタビライザーなどの経済用語を覚えることができ、とてもよいカードゲームだと思います。

わずか三日間のエコノミクス甲子園全国大会でしたが、その間に経済について学び、同じ夢を持つ友達と出会えたことは僕の一生の宝物です。今回の大会に協力してくださった金融知力普及協会のみなさん、学生スタッフのみなさん、スポンサーのみなさん、そして秋田銀行のみなさん、本当にありがとうございました。

山形大会代表　山形県立山形東高等学校一年
枝松　航輝

エコノミクス甲子園が終わってただ一言。

「楽しかった!」

エコ甲の最大の魅力は三日間のスケジュールの充実さでしょう。特に大会前日の工程はとても楽しめました。

朝から始まったエコノミカ大会、金融界に従事する有識者の方の公演、壁新聞の作成、突然の筆記クイズ……。その中で特に印象が強いのは壁新聞の作成でした。

東京に着いて直ぐの金曜日、顔を会わせたばかりの出場者たちで作られた6つのグループ。それぞれが違う地方の出身で、話しかけづらさもありました。そんな中で、与えられる課題を徐々にこなしていき最終的に一つの『壁新聞』という形で纏めるという簡単なようでとても難しい内容でした。壁新聞の設定されるテーマはほとんどランダム。少ない選択肢の中から何をテーマに設定するのか。ようやくテーマが決まっても、そこからどういう結論に着地させるのかという議論の主軸となる方向性。またその過程の流れ。過程に説得力を持たせるための様々な具体例。決めなければならないことは沢山ありました。そして短すぎる制限時間。そんな状態の中で、各地方大会の猛者達と交わす議論はかけがえのない時間でした。そして、あのグループの全員と知り合えた事をとても嬉しく思います。

同じ志を持つ全国の同士と出会い、親交を深められ、楽しみながら金融知力を高められる。そんなエコノミクス甲子園に僕はまた来年出場を果たしたいと思います。一年間でさらに知識を深め、次こそは全国大会で優勝をもぎとってみせます。来年のエコ甲がとても楽しみです。

山形大会代表　山形県立山形東高等学校一年
佐藤　克海

僕がエコノミクス甲子園に参加したのは友達に誘われてのことでした。

はじめその話を聞いた時は、まあ付き合ってやるか―くらいの軽い気持ちだったことを覚えています。だから山形大会で優勝出来るとは思ってもいませんでした。

全国大会に出場することになり、テキストの学習を進めるうちに、段々と経済の面白さが分かってきました。

全国大会では本番の前日におこなった班による壁新聞作りが思いで深いです。みんなで真剣に意見を出し合ってまとめていく作業が新鮮でした。

エコノミカの大会で準優勝できたのは嬉しかったです。エコノミカは楽しみながら金融の用語に触れることが出来る画期的なカードゲームだと思います。

大会ではまだまだ実力が足りず知識不足を痛感しました。しかし、各ステージごとに工夫されたゲームのルールのおかげで楽しく大会を過ごすことが出来ました。

いい結果は残せませんでしたが、楽しみながら金融知力を磨くことができたこと、そして全国の皆さんと親交を深められたことこれが僕の今回の収穫だと思います。次回はいい結果を残せるように頑張りたいです。

福島大会代表　福島県立福島高等学校二年
高橋　和浩

今回エコノミクス甲子園全国大会に参加することができ、初めての経験がたくさんできたことを本当に嬉しく思います。

初日は、どんな人と相部屋になるかすごく不安でした。私は怖い人達に囲まれてアウェーな雰囲気で2泊することになるのだろうかという、無意味な心配をしていました。しかしふたを開けてみれば、それはまったくの杞憂でした。相部屋になった2人のおかげでエコノミクス甲子園をより楽しむことができました。ありがとう。

2日目は、様々なことがありました。まずはエコノミカ大会です。エコノミカは部室でやっていたので、色々な人と勝負することができて、新鮮な気持ちで楽しむことができました。その後は壁新聞作りや筆記テストなど、激動の1日でした。また、スタッフの方達の遊び心に翻弄され続けた1日でもありました。壁新聞を共に作った仲間達は自分の意見をしっかりともていて全国大会のレベルの高さを感じました。

そして、ついに3日目です。様々な面で全国大会のスケールの大きさに圧倒されました。自分の力不足を悔しく思うと同時に、ただ純粋に楽しんでもいました。

この全国大会は、また出たいと思うほどに楽しく、自分に大きな影響を与えてくれました。最後に事務局、学生スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

福島大会代表　福島県立福島高等学校二年
大波　美奈

全国大会に出場する事が決まった時、嬉しさと同時に不安な気持ちになりました。全国と言う事は地方大会よりもさらにレベルが高いステージ。そこには地方から勝ち抜いたたくさんのレベルが高い人達が集まります。その中で、私はついていけるのかはもちろん、仲良くなれるかとても心配でした。

東京集合の日、緊張しながら集合場所に入ると、すでに多くのチームが集まっていました。どのチームの方もとても優しくて、すぐにお話する事ができました。

2日目はエコノミカ大会から始まりました。カードゲームはあまり得意ではなかったのですが、経済の基本知識が学べるだけでなく、より交流を深める事ができたのでよかったです。お昼からは6チームから成る班での行動が中心でした。お昼を食べながら近似値を必死で求めたのに実はそれは存在しない数字だったり、みんなで作ったポスターを使って一生懸命プレゼンテーションをしたのに、それは評価の対象外だったり、予想外の展開ばかりだったけれど、班の仲間と協力し、楽しむ事ができました。

そして当日。緊張感に包まれる中、早押しクイズからエコノミクス甲子園が開幕しました。投資、弁論、需要・供給曲線とハイテク機器を用いた様々なクイズ。まるで夢のようでした。

私達のチームは第二ラウンドまでしか出場する事ができませんでしたが、エコノミクス甲子園を通して、多くの事を学ぶ事ができました。個人の利益だけを追求するのではなく、協力する事。自分の考えを持ち、それをプレゼンテーションする能力の必要性。また、能力だけでなく運も需要な鍵を握っているという事。

来年は受験生ですが、今回学んだ事を胸に、またエコノミクス甲子園に参加したいです。

最後に、共に戦ったチームメイト、福島から東京まで同伴して下さった東邦銀行の方、そしてエコノミクス甲子園で出会ったすべての方々に感謝を込めて、ありがとうございました。

茨城大会代表　茨城県立竹園高等学校一年
後藤　武尊

はじめに、初の茨城県代表としてこのエコノミクス甲子園全国大会に参加できたことを本当に嬉しく思います。

一枚の案内の紙がきっかけでした。クイズ研究部の活動の時に顧問の先生が持ってきてくれたもので、地区大会へは5チーム計10名での参加となりました。相方は申し込み当時は部員ではなく、助っ人としての参加でした。

地区大会が家から徒歩十数分の場所で開催、全国大会も数回来たことのある場所が集合場所だったためその意味では恵まれていましたが、それでも緊張の一日目となりました。

当日に他校の方との相部屋だと知りましたが、2学年違ってもとてもフレンドリーに話しかけてくださり安心しました。

二日目は怒涛の一日でした。プレゼンが毎年恒例だという話を噂では聞いていましたが、三日間のスケジュールのなかで一体どのように準備&発表を行うのか不思議でした。予想を上回る過密スケジュールの中でのポスター制作となりました。

三日目は、二日目のスケジュールが密であったことによる疲れで夜充分に睡眠時間をとったため、かなり緊張が緩和され気合を回復して迎えられました。

第一ラウンドの早押しクイズ―問目では機構の名前を問う問題で制度の名前を答えてしまい、勉強した内容であっただけに悔しさが大きかったです。第二ラウンドでは得点ロスが多くマイナスの結果となってしまいましたが、筆記での得点のおかげでなんとか第三ラウンドに進むことができました。

第三ラウンドは惨憺たる結果でした。明らかな知識不足でした。完璧に分かったのは一問か二問で、当然次へも進むことはできませんでした。

大会後、相方と来年の全国優勝を誓い合いました。 2年生の冬までに誰にも負けない知識と金融知力を付け、優勝を目指そうと思います。エコノミクス甲子園を支えて下さった全ての方々へ。本当にありがとうございました。

茨城大会代表　茨城県立竹園高等学校一年
木口　朋洋

茨城県大会の優勝でまず大きく変わったのは、私がクイ研に入部したことです。そのクイズ研究部で新しい仲間との出会いがあり、楽しくエコノミクスの勉強ができました。（後日、エコノミクス甲子園全国大会出場者でクイ研の人が少ないことに驚くことになりましたが）

そして二月十五日、宿舎で明日に備えて勉強やエコノミカをして相方の後藤君と相部屋で同じ部屋になった岡山県の浜田先輩と楽しんでいました。明日のハードスケジュールを知るよしもなく……

翌日十六日、午前中はエコノミカの予選が有り、我々のチームは3勝3敗で敗退した。ここから先はエコノミカについて書きたいと思う。エコノミカをあまり知らない人は読み飛ばすことをお勧めします。

エコノミカは勝つための目的が自分のストックフィールドを増やすというあまりにも他に類するカードゲームがないくらい、斬新なカードゲームである。例えばカードゲームに限ったことでは有りませんが、普通にある「モンスター」「呪文」が全くありません。また「攻撃（またはアタック、ブレイク）」という概念が「振込め詐欺」などを除くほとんどのカードでありません。（相手のアセットの価値を減らすという結果的に相手への「攻撃」になるときも有りますが、ほぼ同じ効果を自分にも受けてしまいます）

また現実世界とマッチしているものも多く「預金」は価値が変動しにくく「ドル」や「日本株」は変動しやすくなっている。このように個々のアセットをイベント カードで調節されていて、ゲームバランスが安定している方だと思う。またインベストは大会で「インベスト上がり」（価値が4のアセットをインベストしてストックフィールドに五枚のアセットを並べて勝つ方法）が一部流行るくらい強力な技なので、最後まで手札にアセットが有るのがおすすめです。強いてあげるとすれば、ドロー系（その名の通り山札から引いて手札に加えるカード）やサーチ系（山札から特定のカードを手札に加えるなどのカード）のイベントカードが欲しいです。

話を大会に戻すと、土曜日の昼に近似値問題が出された。今思い起こせば嘘だと気付けるタイミングはいくらでも有ったが、きれいに騙されてしまった。ちなみにこの数字はこの後の「エコノミクス広辞苑」でテーマの言葉のページ数として使われるのであった。そして午後に真っ先にサプライズのペーパーテストが有り、想像通り記述問題が出された。しかし、この後の予定までは予想通りにいくわけが無かった。

ペーパーテストとエコノミカの決勝戦の後、ポスターセッションの「エコノミクス広辞苑」が始まりました。最初は同じ組になった他のチームの人の名前すら分からない状況でしたが、与えられた時間があまりにも少なく一致団結してポスターの方向性から決めていきました。あの時に時間の大切さを身にしみて考えさせられました。だからこそ壁新聞で優勝したときは言葉に出来ないくらい嬉しかったです。

そして、十七日のメインの全国大会がやってきました。予選は緊張のせいかあまり覚えていません。けれども、第三ラウンドで「通貨管理制」が答えられなかったのは鮮明に覚えています。また、もっと「投資」をすれば良かったと思うときが幾度となく思うときがあります。

この悔しさを胸に、また全国大会に出場、そして優勝をしたい思います。

最後になりましたが、大会を運営してくださったスタッフの皆さん、いろいろと面倒を見てくださった筑波銀行の方々、自費で見に来てくれたクイ研の部員とお父さんとお祖父さん、学年末テスト直前にもかかわらず後藤君とのエコノミクス甲子園の勉強することに快く許してくれたお母さん、本当にありがとうございました。

全国大会感想　*Final tournament report*

群馬大会代表　群馬県立富岡高等学校一年
島崎　昌信

私は当初、地方大会を突破できるとは考えていませんでした。予選ラウンド終了時に6位、ぎりぎりの予選突破でした。なので、地方大会の間は常に緊張していました。そんななかでいつも前向きに勝つ、優勝にこだわり続けたのは相方の吉岡でした。彼は、大会の前に、「富高が群馬大会の初代王者になろう。」といってくれたりして、チームの精神的支柱となっていました。彼のおかげで、私は決勝ラウンドでも、集中することができて、私が学習した内容が出題されたことも幸いし、全国大会への切符を手に入れることができました。

本大会では、まず、101号室の雰囲気に驚きました。それは、もちろん、実力がありそうな人たちが集まっていたのもありますが、一番は思っていたより、女子が多かったからでした。少し動揺しました。もっとも、吉岡は女子との交流を楽しみにしてたようですが・・・

大会中は、とにかく驚きの連続でした。想像もできなかった企画が次々と発表されたり、わずか3～4時間でプレゼンの準備をしたり、そのプレゼンが茶番だったり・・・最後には、何が本当なのかわからなくなりました。でも、必要以上に堅くならずに、とても面白かったです。他の人との交流もスムーズにいきました。クイズ大会の方は、あまりに早く敗退してしまったので、自分のことについては書くことがありませんが、野中さんの「お金を人生の最終目標にしてはならない」というお話は、とても心に残りました。

大会は終始驚きの連続でしたが、スタッフさんの優しく丁寧な説明のおかげですべてが貴重な体験となりました。ですが、もし、この場で個人的な意見が言えるならば、東京は日本経済の中心であるとともに、歴史的な、情緒あふれる街でもあります。ですから、これらに1つでもふれられるような見物・散策といった要素が入っていたらもっと意義のある大会になると思います。しかし、この大会で私が、様々な人と交流したり、多くのことに挑戦したりして見聞を広めることができたのは、協会のスタッフさんを始め多くの方のおかげです。本当にありがとうございました。

群馬大会代表　群馬県立富岡高等学校一年
吉岡　将吾

今回エコノミクス甲子園に参加したことで、全国各地から集まった高校生と切磋琢磨しながら金融・経済の知識を深めることができたのは、とても貴重な経験でした。様々な地域から集まった人たちと会話をし、交流を深めるうちに、自分の中の視点だけで物事を考えるのではなく、様々な視点で物事を捉える事ができ、視野が広がったように感じました。

また、班で共同作業をしながら一つの作品を創り上げていく課程で、前の日に初めて会った人たちとコミニュケーションをとりながら同じ目標に向かって作業をする大変さを知りました。そして、これも金融・経済の知識と同様に社会に出るときに必要な要素だと改めて感じました。決勝戦では同じ班のチームが健闘している姿を見て、自分とチーム全員が一つにまとまっていると感じ、今までにない不思議な心地でした。

これからに向けての教訓としては、2人の間の意志の疎通が不十分だったように感じました。敗者復活戦の際、2人とも旗を挙げてしまったとき、特にそれを感じました。どちらが旗を2つ持つか決めておけばあのようなことにならなかったと思いますが、このような小さな出来事にも意志の疎通を図ることの大切さを改めて感じました。これからは、異なる人間が接する以上、相手にもわかるだろうと思わずに、積極的にコミュニケーションをとることが最良の人間関係を築く第一歩になるのだと胸に留めておきたいです。

私にとって今回の大会は、知識以上に人とのつながりを実感することができよかったです。ここまでくるまでに支えてくださった多くの方々のおかげで今の私があると思っています。本当にありがとうございました。

最後に、今回は2次ラウンド敗退という残念な結果でしたが、来年も地方予選を突破して、来年こそ栄冠を手にして、ニューヨークへ行きたいと思います。

埼玉大会代表　栄東高等学校二年
仲川　英歩

2泊3日という期間ながら、あれほど密度の濃い時間を過ごせるとは思っていなかった。

エコノミクス甲子園という大会は基本的に先の予定を一切公表しない。常にサプライズがつきものだ。忘れるはずがない2日目の夜の出来事。突然呼び出されると、決められたグループでポスタープレゼンを夜実施するから準備しろと言われ、必死になって間に会わせた挙句、結局プレゼンが大会とは無関係だったことを発表されたことだ。絶望を味わい、騙したスタッフを恨んだ瞬間だった。だが、短時間で集中して、1班12名で知恵を絞り出し合いまとめたことは、長い目で見て良い経験になった気がする。

プレゼン班での交流も含め、全国各地からやってくる出場者と知り合いになれたことは嬉しかった。異なる文化や考え方、方言が交わった時の感覚が新鮮で、全国大会にいる実感が湧いた瞬間でもあった。

裏切りの夜が明け、迎えた全国大会。前日のペーパーの結果が功を奏したようで予選ラウンド4位で通過するも、準々決勝敗退に終わった。優勝を念頭に置いていただけに、敗退時は涙が止まらなかった。運に見放された気もするが、力不足の自分に苛立ちを覚えた。あれほど泣いたことは今まで無かった気がする。

敗退後は、プレゼン班でリードしてくれた宮崎西を応援していた。中盤まで順調だったが、最後の1問で東海に逆転され準優勝に終わった。だが笑顔だった。僕はそれを見てた涙を流した。

エコノミクス甲子園が求める金融知力とは、単に金融経済の知識だけではなく、即興で起点を利かせる能力や独創的な発想力、そして運要素も必要だと実感した。そこに、この大会のエンターテイメントが詰まっているのだと思う。

喜怒哀楽の全てを味わえた全国大会。あの一瞬一瞬が自分にとっては宝です。大会に携わった全ての人に感謝して、筆をおきたいと思う。

埼玉大会代表　栄東高等学校二年
宮脇　大輔

1つ目はエコノミカです。スターターデッキの価格が1260円であり、エコノミ　（経済的）といえるかどうかは微妙ですが、遊びながら経済用語が覚えられるすばらしいカードゲームです。2日目のエコノミカ大会では、チームとして準決勝に進むことはできなかったですが、個人戦ではリベンジができたので良かったです。

2つ目はプレゼンテーションです。2日目はさまざまな指令が立て続けに出されてかなりのハードスケジュールでした。

はじめの指令は「日経225pisaru-langan指数を求め よ」という近似値クイズでした。スタッフの方は 「別に携帯で調べてはいけないとは一言も言っていないですよ。」と、意味深なことを言っていたので、親に調べてもらうように連絡しました。しかし、検索しても出てこなかったようでした。結局「pisarulangan指数」なんて全くのでたらめで、何とか語で「筆記クイズ」という意味でした。つまり筆記クイズの伏線だったのです。完全にだまされました。

近似値の方は次の指令「エコノミクス広辞苑」のページを決めるための数字でした。僕の班は選ばれたページの中から「海岸」を選びポスター制作にとりかかりました。アウトラインを決め、下書きを書き、清書をするということを限られた時間でしなければならなかったので、かなり大変でした。しかも突然、 VIP審査員を呼んでプレゼンテーションをすると言われたときはかなり驚きました。プレゼンは翌日するものだと思っていたので予想外でした。 VIP審査員は一人20点持っていて、採点されるというもので、さらに質問（加点あり）にも答えなければならなかったです。各班は質問に対する答えをしっかり考え、さらに他の班の発表の矛盾点を探し質問も考えました。

全班の発表が終わり、採点結果を発表すると言われました。しかし何と、プレゼン発表は全く点数に関係がなく、VIP審査員はただのスタッフでした。結局ポスターのみ掲示され、それで採点されるというものでした。またまだだまされました。しかも今度の嘘は本当にひどかったです。いままでさんざん「遅刻したら減点」だの言っていたのに全く点数などつけていなかったのです。わざわざ発表をしたのに、まさかポスターだけで採点とは想像もつかなかったです。

エコ甲スタッフのやり口は完全に詐欺師の手法です。おそらく参加者のほとんどが「もうだまされまい。」と思ったことでしょう。こうして僕たちは詐欺師にもだまされない「金融知力」を身につけました。エコ甲スタッフの、悪意あふ・・・ユーモアあふれるジョークには楽しまされました。

いろいろあったけれども、エコノミカで遊んだり、班で意見を出し合ってポスターをつくったりとかなり有意義に過ごせた3日間でした。大会本番自体は運も実力も振るわなくて満足できる結果ではなかったですが、実際かなり楽しかったです。

千葉大会代表　渋谷教育学園幕張高等学校二年
池野　颯人

今回、エコノミクス甲子園第七回大会で第三位という結果を残せたことを非常にうれしく思う。そして、まずは、ここまで一緒に学び、戦ってくれた相方に感謝の気持ちを述べたい。本当にありがとう。相方がいなかったら自分はこのような結果は絶対残せなかったと思う。

エコノミクス甲子園の大きな魅力の一つに「仲間が出来る」ということがあると思う。壁新聞づくり等を通じて普段会うことのない日本全国から集まった様々な人と友達になることが出来た。この絆を大切にしたいと思う。

その壁新聞づくりでは一般投票で自分たちの班が一位を獲得したのでま当にうれしかった。

「きりきり舞い」というお題を決めたときは、議論もあまり白熱せず、本当に壁新聞が完成するのか半信半疑だったが、徐々にお互いが打ち解け始め、話し合いが活発になり、最後に完成した壁新聞を見たときは本当に大きな達成感を感じることが出来た。また、自分がリーダー的な役割を一応担っていたので、その喜びは格別だった。

しかし、やっぱり優勝を逃したことは悔しい。準決勝の論述クイズの点数が低かったにも関わらず決勝進出したことに対する後ろめたさと、決勝進出したことによる満足感とで優勝への執念が薄れていたことが一番の敗因だと思う。

最後にエコノミクス甲子園の開催に携わっているすべての方にお礼を言いたいと思います。毎年大会の運営をしてくれる協会の方、クイズの問題や面白いルールを考えてくれる大学生スタッフ、応援に来て下さった千葉銀の方、サポートして下さった学校の先生方、たくさんの方の協力によって自分たちが楽しんでエコノミクス甲子園に参加出来たんだと思います。本当にありがとうございました。

これからもエコノミクス甲子園がさらに大きな大会になって開催され続けることを願っています。

千葉大会代表　渋谷教育学園幕張高等学校二年
田中　悠己

僕はエコノミクス甲子園全校大会に参加するという経験は、人生にとって大変良いものであると思う。

土曜日の午前中は、エコノミカ大会の予選と、プレゼンクイズに向けてのレクチャーがあった。エコノミカ大会では前日までは、負けなしであったが、前日に交流の一環で対戦した人に負けてしまったが、二回勝つことができて、良かったと思う。レクチャーでは、コモンズ投資の伊井哲朗さんからのありがたい話が聞けた。レクチャーの中で、伊井さんは、日本の企業が成長するためには、海外の成長を取り込むことが必要で、グローバル化とは、性別や人種に関係ないことだと、おっしゃられ、また、日経平均株価はバブルのころと比べて格段に落ちているが、全体の1/ 4の企業の株価は、2倍になっているという話を聞いた時には、自分は限られた情報しか知らなく、それを鵜呑みにしている事を痛感した。そのため、このレクチャーは大変価値のあるものだと思った。

午後には、筆記クイズと壁新聞作成があった。壁新聞では、高岡、三重、長商、那覇国、と全国各地から集まった地方大会覇者達と行った。「きりきりまい」という、みんな一生懸命に働いて、GDPを増やして景気回復ということを題材にして行った。ニート、失業者、女性と3つの分野において、どのように労働力人口を増やすかと、考えたことは大変貴重な経験であった思う。また、壁新聞はきれいに見やすい感じであったためか、観客審査では、1位になることができた。

エコノミクス甲子園当日は、プレゼンクイズの好成績もあって、予選を2位で通過できた。第三、第四ラウンドでは他チームの助けもあり、決勝に、進出することができた。決勝では、他のチームは強く、優勝することができなかった。優勝できなかったのは、知識不足であると痛感した。けれども、決勝を戦うという経験ができて良かった。

最後に、エコノミクス甲子園を運営して下さった、スタッフの皆様、地方大会を行ってくださった千葉銀行、千葉興業銀行の皆さま、プレゼンクイズを一緒に行ってくれた人々に感謝の意を表したいと思う。

東京大会代表　東京都立立川高等学校二年
小島　颯太

立高のクイ研ではエコ甲を「第2の高校生クイズ」と位置づけて、代々（といっても僕らは2代目ですが）参加しています。1年生だった昨年は関東大会の決勝で4位に終わりましたが、今年は東京単独で地区予選が開催され、優勝して全国大会に駒を進めることができました。

全国大会の対策を始めたのは約1 ヶ月前でした。教材（3冊）から手を付けましたが、内容が難しく、「これ本番までに読み終わるのか?」という疑念を抱きました。すべてを一通り読み終えたのは1週間前で、その頃には投資についてかなり理解できた、気はしました。残りの1週間は教材を読み返したり、経済用語を確認したりして、本番に備えました。

2月15日に宿泊場所に向かい、 16日から本格的にエコ甲が始まりました。コモンズ投信の伊井社長の講演は、90分の濃密な内容で追いつくのも大変でしたが、「日本は金融教育が遅れている」「『国際化』から『グローバル化』へ」などの内容に、起業も考えている僕は深く感銘を受けました。筆記テストの後、遂に僕が懸念していたプレゼンの準備に入りました。今年は「〇〇で景気回復」というテーマで壁新聞を使うそうで、パワポでやると思っていた僕は少し驚きました。僕らの1班は「海岸」で進めることになり、相談が始まりましたが、宮崎西や栄東の皆さんが積極的に意見を交している中、僕は何も言うことができず、また作業に関わることすら出来ませんでした。自分が 「知識だけでそれを生かせない人」に思われて惨めでした。

17日の大会当日は、せめて自分ができるクイズをしようと決めましたが、 1Rはよく分からない誤答をしてしまい、大野に申し訳なかったです。しかし2Rの連想クイズは何と全チーム中1位となり、少し自信がつきました。壁新聞の評価も3位と高く、そのお陰もあって3Rには2位タイで進出することができたものの、 3Rは解答権のある3問を全て間違えてしまい、ゲームの要となるポイント運用も上手く行かず、敗退となってしまいました。

大会は終始白熱して、決勝戦は激しい攻防に目を奪われていました。優勝した愛知県の東海高校は、観客を笑わせながら勝ち切る素晴らしいチームだったと思います。

エコ甲に出場している人も、運営する方々も、皆が尊敬できる人でした。自分のチッポケさを知り、自分の将来のモデルができた気がします。エコ甲は学校で教えてくれない金融の知識はもちろん、人生の道筋をも教えてくれる、そんなイベントだと僕は今断言出来ます。

東京大会代表　東京都立立川高等学校二年
大野　優

第六回の地方大会の決勝で圧倒的な差を見せつけられて、敗退した日のことを覚えています。経済の知識には多少の自信があったためとても悔しく、本番までに全国大会に出場するという決意をして、一年間対策を重ねました。第七回の地方大会は東京大会が開かれ、参加チームが減ったのもあって、有りがたくも東京大会で優勝することができ、全国大会の切符を手にしました。

念願の全国大会出場は決まったものの、その日から全国大会の当日まで、期待と不安の日々でした。全国大会当日、暗い道を通って会場に着くと、大学生スタッフの方々が暖かく迎えてくださり、緊張がほぐれました。その夜行われた自己紹介では、北海道から沖縄まで全国の地方大会をくぐり抜けた高校生の代表が集まり、自分は東京都の代表として出場しているのだということを改めて認識しました。また、地方大会で戦った人たち、応援してくれている方々を想いました。

二日目で最も記憶に残っているのはプレゼン （壁新聞）の準備です。急な指示を受けて短い時間で仕上げなくてはならないということでした。私たちの1班は「海岸」というテーマで壁新聞を作成することになったのですが、当初、自分はあまり方向性が見えませんでした。しかし、3年生の班長を中心に議論が始まり白熱してくると、いつのまにか自分もアイデアや知識を出して、積極的に議論に参加していました。皆で意見を出し合い、1つのプレゼンを作成するわけですが、そこに自分の出した意見が反映されていたりして、完成したときには大きな達成感とやりがいを感じることができました。しかしながら、共同作業を通じて仲間となった班の方たちとも明日には互いにライバルとして戦うと思うと少々残酷な気もしました。

全国大会の結果は3R敗退というものでした。3R進出の順位が予想以上に高かっただけあって、悔しかったですが、同じ班の班長ペアが準優勝をとったのは自分のことのように嬉しく思いました。

エコ甲に関して今思うのは、とにかく刺激的で楽しい三日間だったということです。三日間ハードでしたが、今はそこで得た経験一つ一つが自信となり、いつかは自分の助けになると思います。エコ甲の参加はもはや出来ないと思いますが、金融知力の向上を目指して学習を続けていこうと思います。サプライズやプレゼンなどの伝統を大事に、エコ甲のさらなる発展を願っています。ありがとうございました。

神奈川大会代表　聖光学院高等学校二年
劒持　智洋

僕がエコノミクス甲子園に参加したのは元々経済に興味があったのと、相方の松嶋から誘われたからというのが理由だった。全国大会を終えて、僕は心から参加して良かったと思っている。

全国大会の前日の中で、最も印象的だったのは他のチームと共同作業で壁新聞を作ったことだった。同じグループの人たちは様々な視点や知識を持っていて、議論を進めていく中で感心させられてばかりだった。また、お互いの学校生活や地元などの話をして、いままで自分の学校以外の同年代の方と話す機会があまりなかった僕にとっては新鮮だった。

全国大会本番では、6チームに絞り込む段階で僅差で7位で落ち、悔しい思いをした。しかし、突然の敗者復活戦を勝ち上がり、決勝ラウンドに進むことができた。最終的には4位に終わったが、決勝ラウンドでクイズをできたのはいい思い出になった。

エコノミクス甲子園に参加して僕が得たものを一言で表すならば「視野の広さ」だと思っている。学校ではあまり扱うことのない経済・金融の勉強をした。同年代の人達と経済に関することから私事までいろいろな話をした。そして、コモンズ投信の伊井さんの講演をはじめ、いろいろな方から貴重なお話をいただいた。これらの経験は、僕がこれから生きていく中で必ず役に立ってくれると思っているし、自分でも積極的に生かしていこうと思っている。

最後になりますが、全国大会に尽力してくださった皆様、出場者の方々、神奈川大会を運営してくださった横浜銀行さん、そして相方の松嶋。本当にありがとうございました。

神奈川大会代表　聖光学院高等学校二年
松嶋　達也

私がこの 「エコノミクス甲子園」 に参加したきっかけは、現代社会の先生が授業中に紹介してくれたことでした。過去に先輩が出場し学校で表彰されていたのを覚えていて、名前だけは知っていましたが、内容を詳しくは知りませんでした。経済に少し興味があったので、文化祭でともに仕事をした相方を誘い、出場することになりました。

地区予選が期末試験の最終日ということもあり、神奈川大会には不完全なまま出場することになってしまいました。予選はクイズ強豪校もいて、早押しクイズでは苦戦しましたが、私の学校の唯一の強みである、筆記クイズでなんとか決勝に滑り込むことができました。決勝の「リスク・リターンクイズ」 では周りに比べて簡単な問題があたり、ほとんど運で全国出場を決めました。このとき、決勝にともに進出した、2チームのためにも、全国で結果を残さなければという責任を感じました。

全国大会では、参加者たちは次にやることさえ教えられず、サプライズに満ちていました。今回のプレゼンは「エコノミクス広辞苑」ということで、私たちのチームは「後発開発途上国で景気回復」をテーマにしました。時間がかなり限られた中での壁新聞作成であり、みんなで精一杯案を出し合うことができました。全国の高校生と景気回復について真剣に話し合うという、とても貴重な経験ができました。

東京のど真ん中で行われた、全国大会当日にも、様々な種類のクイズが用意されており、第3ラウンドで敗退したにもかかわらず、敗者復活戦から決勝戦に進出できたことには本当に驚いたし嬉しかったです。

決勝戦の需給曲線クイズも最終問題までもつれ込み、優勝の東海高校の反対サイドにいた私たちは第4位で多少の悔しさの中、すべてのクイズを終えました。

閉会式でお話しいただいた、金融知力普及協会理事の野中ともよさんの 「お金はパートナーでただの道具。人生の目標にしないで。」 という言葉に感銘を受けました。つい目先のことにとらわれがちだけれども、本当に大事なものを考えながら生きるということを念頭において生きてゆきます。

人生のために道具をうまく活用する、という意味を頭に置きながら、今後も経済や金融について学んでゆきたいと思います。

最後に、応援してくださった皆様、先生方、横浜銀行の皆様、金融知力普及協会や大学生スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

後輩がまた出場するときがあるかもしれませんが、そのときもよろしくお願い致します。

富山大会代表　富山県立高岡高等学校二年
地崎　裕人

現代社会という僕らが生きている一つの広大な空間の中には、星の数だけの「競争」があると勝手ながら定義している。例を挙げるときりがないが、部活の試合、学校のテストなどが高校生にとって分かりやすい例であり、その事の中には最高の結果を出すための絶え間ない努力が隠れていたりもする。また、その事が生じるに伴って、歓喜・満足といったポジティブな感情や、後悔・情けなさといったネガティブな感情がつきものだ。僕自身も今まで多くの競争を経験し、仲間と喜び合ったり、一人で涙したりした。だがしかし、この第七回エコノミクス甲子園という「競争」において、どちらの感情も生じることはなかった。

何と説明すればよいのだろうか、どちらかと言えばネガティブよりかもしれないが、競争に伴うのにはふさわしくない不快感のようなものが漂った。・・・準決勝の論述クイズ、僕らは6チーム中最高得点の1位の評価を得た。文句なしで悲願の決勝進出を2人は思った。だが直後に、敗退という二文字が矛先のごとく突きつけられ、満面の確信は一瞬のうちに消滅させられた。頭が真っ白、当然何が起きたのか全く把握できず、敗退という二文字を飲み込むにも無理があった。こんな不条理なことがあっていいのだろうか。この感想文を書いている最中も、何度頭をよぎったこと。今まで部活と学校の競争の合間を縫って対策を講じ、絶え間ない努力を積み重ね、本番では誰が見ても納得のいく結果を叩き出し、それにも関わらず負けた初めての「競争」だった。自分の中では、サッカーに例えると、僕らが大量5得点を決めたのに、主審はそれをゴールと認めず、 1点だけ取った相手を勝ちと判定したようなものだ。一応ことわっておくが、準決勝で共に敗退した、智辯奈良・旭川東の2人のせいにするつもりはひとかけらもない。敗退した理由は、「神様が僕らに微笑まなかった。」のだから。

ここまで感想文を書いて読み返すと、前向きなことに触れてないので、ポジティブな面も記しておく。第六回に引き続き第七回と2年連続で出場したこと、そして2年連続で準決勝進出したことは誇りを持つべきことなのであろう。今思えば結果は全国4位、なかなかの結果だ。また、今年もプレゼン作成の作業を通して、最高の仲間にめぐり合い、親睦を深めたことは素晴らしい機会だったと改めて思った。誰もが経験することの出来ない貴重でかつ有意義な3日間を過ごせたことは、一生の宝と言えるでしょう。不条理な結果に終わったが、幸いにも、金融経済への興味が損なわれることはなかった。

最後に一言、相棒の松原君には本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。お前なしではここまでたどり着けなかったことは確かだ。本当にありがとう。そして来年は、僕らが達成できなかった全国制覇を目指す後輩を育成しよう?

富山大会代表　富山県立高岡高等学校二年
松原　尚生

エコ甲出場は今回で2回目だったので、あまり緊張はしなかったような気がする。ただ、昨年とプログラムがかなり変わっていたので、驚きが多々あった。また、昨年よりも騙しの程度が一層甚だしくなっていたような気もするのだが。

それはさておき、今回一番心に残ったのは、やはり、新聞製作ではないか。われわれの班は 「『きりきり舞い』 で景気回復!」という、一見意味不明なテーマで新聞を製作した。この過程でどれほど周りのかたに助けていただいたか…。僕自身、あまり力になれなかったのが申し訳ない。しかしながら、いろいろな人と議論するのはとても楽しく、自分の見聞を広げることができたと思う。その新聞部門では一般審査で1位を獲得、審査員点と併せて、総合で2位につけた。この結果を見たとき、班員みんなで叫んで喜んだ。この喜びは並大抵のものではなかった。

そのおかげもあり、僕たちは運よく第3ラウンドに進むことができた。

そこでも運が味方に付いたのか、第4ラウンドに進出。いったいどこまで進めば決勝ラウンドになるんだ!?胸をどきどきさせながら論述に挑戦。正直、論述クイズはこれが初めてだった。お題は 「金利が下がると地価が上がる理由を中学生に分かるように説明せよ」だとき。んなもん知るかっ!という気持ちを抑えつつ、どうにか説明しきって、一番高い評価をいただくことができた。この結果には満足したし、とても嬉しかった。とはいっても他の5チームのかたの論述も高レベルで、唸らされた。そして、運もここまでだったようだ。合計点数わずか2点差で敗北が決定してしまった。仕方がない。いくら自分たちの点数が高くても負けは負けだ。しかし、やはり、死ぬほど悔しかった。二度と立ち直れないのではないかと思うほど、絶望した。当時の心境を振り返るとこんな感じだろうか。

クイズは実質、準決勝で終わってしまったが、僕は結果よりもなにかもっと大きなものを得られたような気がする。新聞づくりの際の議論や、他県の方々との交流などで、様々な考え方を知ることができ、僕の視野は広がったに違いない。ただ、それが目に見えて表れているわけでもないが、そう確信している。

そしてもう一つ、「経済」の奥深さを改めて実感した。経済という言葉自体は何か堅苦しい感じがするが、実は私達の生活には必要不可欠なもので、経済が生活に大きな影響を与えている。その一方経済はまた、国をも大き く動かす。われわれの将来も経済のあり方で決まる。経済とは身近だが大きな存在だ。そのスケール感をじっくりと味わえた楽しい大会であった。

僕は今年で3年生になり、受験を迎えるので、おそらく第8回大会には出場しないだろう。しかし、無事に大学生になった暁にはぜひとも学生スタッフか何かの形でエコ甲と関わっていけたらと思う。

最後になったが、この大会に出場するにあたり、お世話になった協会の方々、学生スタッフの方々、地銀の方々、そして、新聞づくりで同じ班になり、いろいろと助けてくれた、三重、長崎商業、渋谷幕張、那覇国際の皆さんには心からお礼を申し上げたい。そして、エコ甲に誘ってくれた相方、地崎氏に心からの感謝の意を表し、エコ甲での最高の思い出を心にしまいたいと思う。

石川大会代表　金沢大学人間社会学域学校
教育学類附属高等学校二年
荒井　龍一

金曜の晩から日曜の夕方までの数々の手の込んだイベント、息のつかせぬ進行に只々驚嘆するばかりの大会でした。幼稚園児風にいうと「とっっっってもとおおおおおおっても楽しかったです♪」 ということです。僕は、実力があるチーム=優勝という図式になっていなかったことに一番感銘を受けましたし、また勉強にもなりました。いくら、個人でプレゼン力があってもチームでまとまれなったら、チームという船全体で座礁して海底に沈みます。論述力勝負はその際たるものではなかったでしょうか?おそらく、あの大会には 「自分は、もっと上に行けるのに・・・」と卒酸をなめた人がたくさんいたと思います。僕は何であんな不確定要素を作るのかなと疑問に思い、主催者側はいったい何を伝えたっかったのだろうかと考え、僕なりの一つの答えに達しました。まずそもそも、社会に出たら、逆に自分の努力、実力がそのまま成果となるようなケース（受験とか）のほうが希少であると気づきました。現実世界は人間的魅力、のるかそるか、はったりなどの多様な不可抗力の要素が大きな役割を演じています。そのなかでは自分の意図道理に事が運べず、挫折することが多々あると思います。そんなある意味リスクのようなもの付

全国大会感想 *Final tournament report*

き合いかたを金融知力ないしは社会で生きる力として我々に教えたかったのではないかと思いました。色々、偉そうなことを書きましたが、要は大いに大会を楽しんで、大いに悔しい思いをした、ということです。

3日間ありがとうございました!!最短ルートで東京に戻って、何かお役になれたらいいなと思います。

石川大会代表　金沢大学人間社会学域学校
教育学類附属高等学校二年
伊藤　真奈

今回、この大会全体を通じて様々な事を学び、濃密な3日間を過ごさせて頂きました。地方大会はなんともささやかな感じに行われたのに比べ、全国大会は先輩からうかがっていたのよりも遥かに予想を超えた、エンターテイメント性に優れた、ある意味風変わりな(笑)大会でした。

まず私にとっては大人なしで東京へ出ることが苦労の連続でした。忘れ物で何度も戻りながらなんとか空港にたどり着き、どこを通ったら飛行機に乗せてもらえるのかもよく分からない状態でハプニングの連続の中、遅刻しながらも会場にたどり着き、心も体もへとへとの中、まず飛び込んできた言葉が「明日朝遅刻したら即失格だから!」。えらいとこへ来てしまったなと思いました。すぐさま家へ引き返したい気持ちでいっぱいでした。

しかし全行程を終えた今、参加できてよかったなあと心から思います。まず、この大会に向けた勉強で経済の知識を沢山学べたこと。社会科というのは地歴公民の各分野がお互いに絡み合うように構成されていると思いますが、将来経済を選択しない私も、他教科の理解がより深まりました。そもそも年金や保険の話、円高や景気など、経済の分野には“現代社会”に通じる生活に密着した重要な知識が多く、教養に傾きすぎだと感じる他教科に比べ、個人的には大事な教科だと思っています。だからこそ、こうしてしっかりと学ぶ機会を与えてくださったことに感謝しています。

勉強する過程でも、政経の先生がしっかり面倒を見てくださったり、先輩にアドバイスを頂いたり、同級生・後輩・親戚・先生方・来賓の方・スタッフの方からも応援の言葉を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

実際私が大会でしたことと言えば、敗者復活でとんだ勘違いを犯して相方の足をひっぱることとなってしまい悔し涙を流したことぐらいです。正直もっと上を目指したかったし、期待に応えられない申し訳なさもありました。できることならもう一度出場したいです(笑)。

他のイベントもどれもこれも趣向を凝らしたもので、刺激的でした。また、人生で初めて本気で“騙される”という経験をしたかもしれません。刺激的でした(笑)。また、他の全国大会にも出場したことがありますが、この大会のように他校と交流できるのも珍しいと思います。全国の同い年のトップレベルの子達はこんな風なんだなあ、と面白かったです。もっと時間と気力があれば色々な話をしたかったです。講演会もとても参考になりました。久しぶりに濃い講演を聞いたなあと思います。

また、学生スタッフの姿にも学びました。はじめ、なんだかゆるゆるな運営だけど大丈夫かなあ?と心配になりましたが、自分たちと3、4歳しか変わらない先輩方がその後は滑らかに司会を進めたり行事の段取りをしていく姿に驚きました。これだけ大きな大会を運営するのに、もちろんNPOの方々が中心ではあるものの、学生が実に主体的に関わっている姿が印象的でした。そして、スタッフの方全員が大会を面白いものとする為に全力を注いでるのがよく分かりました。

反省も興奮も、全てが勉強になった大会でした。来年は受験の年です。今回も実感したように、決して学ぶことへの喜びを忘れずに、しっかりと歩んでいけたら、と思います。そうして新たな大学という環境の中でまた新たな学びを享受していきたいです。サポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。

福井大会代表　福井県立藤島高等学校一年
大森　菜央

社会の先生から教えてもらったエコノミクス甲子園。友達とノリで応募したエコノミクス甲子園。そんな気持ちで参加したのにまさか全国大会へ行けるとは夢にも思っていませんでした。そしてそれから約2か月、すぐに経ってしまいました。まだまだ時間があると思っていたのに気付いた時にはすでに遅くて、勉強も中途半端なまま、全国大会へ出場しました。東京へ向かう飛行機の中、私たちは不安と希望が入り混じっていました。しかし参加するからには楽しんで参加しよう。これが私たちの目標でした。そして宿舎に到着。男の子ばっかりでみんな頭が良さそうで私たちはこの中で三日間もやっていけるのかなと不安に思いました。そしてその日は簡単な自己紹介や次の日の活動への準備をして活動を終えました。その夜は、相部屋の人が初対面にも関わらず私たちに気さくに話してくれた おかげで緊張が少しほぐれました。

2日目、エコノミカのゲームを使った大会から活動が始まりました。みんな気さくな人たちでゲームのはじまりやおわりにはたくさん話をしたりして、場に慣れてきたような気がしました。そして午後からの班活動はみんなで協力してひとつのものを成し遂げるという素晴らしさを学びました。個人的にはいちばん楽しかった活動だと思います。

そして3日目、クイズ大会本番、勉強不足のせいもあって私たちは結果を残せなかったけど、たくさんの感動をもらいました。たくさんのいいものを見せてもらいました。２日目に活動を共にした班のみんなや、それ以外の同じ高校生の仲間たちががんばっているのを見ることは、わたしたちにとっていい刺激となったと思います。

今回のエコノミクス甲子園を通して、わたしは普段の生活では学べないたくさんのことを学べました。３日間とも充実していてとても楽しかったです。一緒に行動を共にした高校生のみなさん、大学生スタッフのみなさん、関係者のみなさん、すべての人に感謝します。今回の全国大会出場は運で行けたような面もあるので、来年はもっと勉強をして実力で全国大会へ行きたいです。いや、絶対行きます。そして今年出会った高校生の仲間たちや大学生スタッフのみなさん、関係者のみなさんと感動の再会をしたいと思います。エコ甲最高!

福井大会代表　福井県立藤島高等学校一年
白﨑　優美奈

私がこのエコノミクス甲子園に出ようと思ったきっかけは、社会科の先生から、「クイズ大会で優勝したら東京に行ける」と言われたことでした。「クイズ大会」「東京」という言葉に惹かれた私は、仲の良い同じクラスの女の子と一緒に出ることになりました。

金融や経済に詳しいわけではない私に教材が届いたときは、クイズ大会なんて出て大丈夫なのか、という心配しかありませんでした。けれど、教材を読んだり、相方と勉強したりするにつれて、今まで知らなかったこと、ニュースなどでなんとなく聞き流していたことが、自分の知っていることになることが、とても嬉しく感じました。地方大会はもちろん緊張したけれど、楽しめて、思ってもいなかった全国大会に出られることが決まったので本当によかったです。

そして、全国大会。本当に自信がなくて、すごくすごく不安でした。けれど、スタッフの方々をはじめ、エコノミカで対戦した方、壁新聞の班で同じになった方など、とても温かい人たちに助けられて、この大会に出ることができて本当によかったと感じました。ただ、その反面、私の知識の無さや、行動力の無さを痛感させられました。同じ高校生なのに、こんなにも違うのかと。クイズで次々と答えていく参加者のみなさんは、素晴らしく、かっこよかったです。

私はこの大会でとても貴重な経験をすることができました。私はまだ1年生なので、来年もチャンスがあります。今回のような不安のある状態ではなく、自信満々の状態で臨めるようにまた一から勉強していきたいです。また今回お世話になったスタッフの方々のように、私も学生スタッフをして、この大会のお手伝いをしていきたいです。

このような、今までにないくらいの素晴らしい経験をさせていただき、エコノミクス甲子園関係者の方々、大会で出会えた方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

山梨大会代表　山梨県立甲府南高等学校二年
若尾　昌輝

私は全国で三位に入った2つ上の先輩に憧れてこのエコのミクス甲子園に出場しようと思った。一年生のときにも出場したが、その時は同じ学校の先輩に負けてしまったので、後がないこの二年生という学年で、全国大会に出場することができて本当に嬉しい。

初日は金曜日の夜から始まった。どんな雰囲気かもわからずに戸惑いながら向かうと、大学生のスタッフさんが気軽に声を掛けて下さり緊張がほぐれたのを覚えている。

二日目ではプレゼンテーション（壁新聞作成）が印象に残っている。あらかじめくじで決まった2班のみんなで協力していったのだが、このメンバーがとにかく個性的で、初めはとても不安だった。けれど途中で誰かが「この班最高やあ!」と言っていたように、みんなでまとまってとても楽しかった。三日目でいよいよイノホールへ向かっての本番だ。本番の結果は散々だった。けれどなぜか私の心にわだかまりは何もないのだ。なぜかというと、2班のみんなで絆を感じあえたと思えたからだ。最後は2班のみんなで東海を応援して、優勝が決まった時には本当に盛り上がった。

全国大会では、素晴らしい仲間とともにとても最高の時間を過ごすことができた。この大会を主催してくれたり、準備を進めてきてくれた方々に、心から感謝したいと思う。

山梨大会代表　山梨県立甲府南高等学校二年
金　玄鎬

まず1日目。宿舎に着くと、いよいよ全国大会が始まるのだなあと実感がわいてきました。交流ルームに行くと、1チームしかいなかったけど、交流することができて、よかったです。

続いて、2日目。午前中にあったエコノミカ大会では、三連勝することができました。こんなに勝てるとは思っていなかったので、嬉しかったです。しかし、その後のペーパーはまったく解けず、相方の足を引っ張ってしまい、申し訳なかったです。その後の壁新聞を作りでも、あまり力になれませんでした。でも、ぎりぎりの時間の中、、、みんなで協力して新聞を作っていた時間は忘れられません。

最後に、3日目。この日は、全国大会本番ということで、気合が入っていました。大会では、いろいろなルールのクイズがあり、面白かったです。結果は、残念だったけれども、楽しむことができました。

では、感想。今回の全国大会では、全国のレベルの高さや自分の力不足を実感しました。壁新聞を作るとき、グループの話し合いに何とかついていくのに必死で、何もすることができませんでした。もっと勉強するべきだったなと後悔しました。しかし、全国の高校生の方々と触れ合い、一緒に活動できたことは、自分にとって、とてもいい経験になりました。とくに、グループがいっしょになった方々とは、たくさん話せて楽しかったです。これで、エコノミクス甲子園も終わりですが、ここで学んだ数多くのことは、日常生活にすべて生かしていけたらなと思います。最後に、今回、エコノミクス甲子園に参加させていただき、ありがとうございました。今度は、学生スタッフとして、エコノミクス甲子園に貢献していきたいです。

岐阜大会代表　岐阜県立岐阜高等学校一年
小川　和樹

僕がエコノミクス甲子園に参加しようと思ってきっかけは部活でした。別に特別興味があるわけでもなく、ただクイズ研究部全体で参加するということで、参加してみました。遠山とペアを組んだのも、実はただ単に同じ部活で適当に組んだらあたってしまったという感じでした。

正直地方大会も、決勝まで行けたらラッキーという感じで、事実六位で滑り込んで決勝進出を果たしたのですが、決勝では問題の運もあり、何とか同点で優勝決定戦に持ち込み結果的に優勝できました。

そんなこんなで全国大会は先輩方が過去問を用意して下さったり、豆知識を教えて下さったりして勉強のサポートをいただきました。本当は自分が出たかったんだと思いますが感謝しています。

そうして全国大会を迎え、金曜・土曜の楽しい時間を過ごし、日曜の本番では先輩に教えられた問題も出て、多少の後悔はありますが全力を尽くせたと思っています。

エコ甲に参加してみて、東京に行くという貴重な体験をするとともに全国の人たちと友達になり、交友関係を広げることができました。また、エコ甲に向けて経済の知識を広げることができました。また来年も地方大会には出ると思うので、それまでに更に知識を蓄え、全国大会に出場し優勝したいと思います。

岐阜大会代表　岐阜県立岐阜高等学校一年
遠山　佳之

自分が今回、エコノミクス甲子園として地方大会から全国大会までやってきて思ったことはやはり経済や金融に対して理解することの大切さでした。

非常に単純なことかも知れませんが、経済について全く無知な状態からこのエコ甲の為に取り組んできたため初めは分からないこと(ワード)だらけでした。

しかし、教材など学習を進めていく中で経済に対しての理解をより深めていく事ができました。またこのように知識を得て、理解するだけではなくメディアなどで取り上げられている経済関連の報道を今までなら、その意図は全く分からなかったものを少しは自分なりに考えなれるようになりました。

例えば、『政府が景気回復に向けて政策を行う』という記事があってもこれまでの自分は政府と経済の関係が上手くわかっていませんでした。しかし、政府が与える経済への役割を学習してきて、この事はどういう行動なのか考えるようになりました。

このように従来まで考えられなかった経済の流れが仕組みを学習したことで少しでも理解できるようになりました。

ただ、このように知識を付け、考えるだけでは意味がないと思います。本当に大事なのはこれから先、この力を使うことなのです。これから先、自分がどんな職業をするのかは分かりません。しかし、今回つけた金融知力は必ず役に立つ時が来ると思います。そのような時に使える能力であるためにこれからも日々、経済の流れに注目したい。

静岡大会代表　三島高等学校二年
川村　賢吾

「思い出づくりに出てみないか?」学校の先生からそう提案されたのがきっかけでした。それまでクイズ大会とは無縁の僕でしたが、もともと経済学に興味があり何より早押しクイズをしてみたかったので相方を誘い、出場を決めました。

全国大会感想 *Final tournament report*

迎えた地方大会では大方の予想を裏切り、優勝してしまいました。そして、勝ったからにはニューヨークを目指そうと更なる勉強をしてきたつもりでした。

しかし、全国大会は甘くありませんでした。結果は完敗、全国から来た高校生の知識力の高さを痛感しました。悔しさを感じると同時に、僕と同年代の人たちが知識力、論理的思考力、発想力など求められる全てを出して戦っている姿はとても刺激的でした。僕も負けていられないと強く思ったのを覚えています。

また、今回の大会で多くの人たちとの交流できたのも良い経験になりました。特にプレゼンテーションで同じグループになった人たちとの思い出は一生のものになったと思います。クイズやプレゼンのお題に対して知恵を出し合い、議論をするのは、ただただ、楽しかったです。

僕はこういった全国大会に出場するのは初めてでした。正直、大会に来るまでは期待より不安の方が大きかったです。しかし、大会が終わった今、充実感に満ちています。そして多くの人に感謝をしなければいけないと感じました。グループのみんな、相方の宮澤、きっかけをくださった先生、そして運営スタッフの方々や大学生のみなさん。本当にありがとうございました。

また機会があったらどこかで会いましょう!

静岡大会代表　三島高等学校二年
宮澤　知己

僕が今回のエコノミクス甲子園に参加して、よかったことが2つあります。

1つ目は、プレゼンです。僕達のチームは、「おやつ」をキーワードにして、どうしたら景気が回復するかをまとめました。僕達のチームは他のチームと比べて、女性の人数が多いチームでした。なので、最初は、男女の間で意見を上手く交わすことができませんでした。どうしたら上手に意見をまとめることができるだろうかと始めは思っていました。でも、自分から女性に話をしていって、みんなで自己紹介することによって、だんだんみんなの意見がまとまるようになってきました。気がつけば、他のチームに負けない、自慢のプレゼンが完成していました。結果は1位でした。チームが1つになって勝ち取った結果だと思います。僕達のチームは1番素晴らしいチームだったと思います。そして、このメンバーの一員で、本当によかったです。

2つ目は、クイズです。僕は、正直、経済について全く興味がありませんでした。でも、相方の誘いもあり、参加することになりました。大会に向けて勉強していくうちに、経済がとても奥深く、生活にとても大切だと言うことがわかりました。そして、チームを組んで静岡大会で勝って、全国大会に出ることもできました。なので、僕にいろいろな発見をさせてくれた相方、貴重な体験をさせてくれたプレゼンで同じグループだったみんな、そして、大会に関わってくださったすべての皆さんに感謝して、これからの生活をより良いものに出来るようにしていきたいです。本当にありがとうございました。

愛知大会代表　東海高等学校二年
澤田　昂大

優勝が決まった時の事を、大会前はよく想像しました。どんな感じなんだろう、「やったー!」かな、やっぱり。程度によく想像しました。予想通りの感想だとは思いますが、言葉に出来ない、の一言に尽きます。大会終わって早1週間、今でもできません。大会中の一瞬一瞬が、今までダラダラと過ごしてきた時間の何倍もの価値があったように思います。特にプレゼンのグループワーク、その時はもちろん必死だったのでそんなこと考えらでいられませんが、人生において非常に大事な時間を過ごしていたように思います。

作業開始からポスター完成、プレゼン、そしてショック死まであっという間でしたが、その時間の短さがよりその価値を引き立てているのでしょう。優勝が決まった瞬間は、言葉に出来ないほど、ですが、グループワークはそれ以上の価値があったと確信しています。

大会が終わってからの平日5日間が本当にだるかったです。なんと言うか時間の流れそのものがゆっくりな感じで、あの充実した2日間が恋しくなりました。いや、でも早かったのはあの土日だけでは無かったかもしれません。思えば愛知予選突破が決まった瞬間に華麗にサングラスを外してから、東京の地でまた同じ行動をとるまで、一瞬だったように思います。

ある方に、「どうやって勉強してたんですか?何を使って勉強したんですか?」と聞かれました。ところが、意外に思うかもしれませんがその質問には僕達は言葉に詰まってしまうのです。特に、「どうやって」の方は本当に困ります。これと言って特別な事は何もしていない気がするからです。強いてなら、エコノミカには実践練習をかなり積んだ、と言えるでしょうか。(主に相方が)「何を使って」の方は、簡単に「送られてきた資料、本、新聞、ネット」と答えましたが、最後の「ネット」が半分以上を占めているのが事実です。

要するに、資料や本、それに学校の教科書的なものも合わせて、見たことのない単語や理解できない事が出てきたら片っ端からネットを漁ってサイトを眺める、というのを僕達は2ヶ月間繰り返したのです。これは「勉強」という言葉の持つイメージとはかけ離れているように思います（相方はどう思っているか分かりませんが）。感覚としては、美術館や博物館をひたすらみて回る、というのに近いでしょうか。次から次へ出てくる用語やなんやも、語呂合わせ等使って無理矢理覚えたことはほとんどありませんでした。チェックだけ付けて、「ふ～ん」で終わりです。(これが僕ら二人の弱点、「詰めが甘い」に直結するんですけどね。。。)

しかし、このやり方は大会を終えてから思うに当たっていた、合っていたと感じます。

例えば、筆記の論述や準決勝の論述クイズ。僕達は、知識を捻り出すとかそういうのではなく、「見てきたまま」を書きました。プレゼン課題、エコノミクス広辞苑でのグループワークで、内容を煮詰めていくため皆で長時間話しあったりしましたが、「思ったまま」を喋りました。その、見てきた、ものの世界の広さは、他チームよりも自信があります。もちろん二人で手分けはしましたが、金融時事、日経の2012年のまとめ本、需給曲線の微積分（?)、マンガFX入門、日本国憲法…今から思い返すと時間が勿体なかったさえ思えるジャンルにまで手を伸ばしてきました。エコノミクス甲子園に出題される問題は、ある意味で「ノンジャンル」です。経済とは我々の生活に密着しているもの、切っても切り離せないものなので、当然と言えば当然かもしれません。この大会では、学校の定期試験やセンターのようにある程度決まっている範囲のものを「引き出せる力」ではなく、いかに「世界をみてきたか」が問われていたように思います。そう考えると、僕達のやり方は感覚的に選んだものでしたがかなり的を得ていたのでは、と思うのです。

しかし、優勝したと言っても僕達はまだその世界のほんの一部を見たに過ぎません。何百年の歴史をもってその姿形を変えてきた「経済」というイキモノの、せいぜい尻尾を掴んで「ふ～ん」と言っている程度ではないのかと思うのです。

優勝、という形でまずは立派に区切りをつけることが出来て、本当に嬉しいですし、満足しています。が、僕達の探究心が消えたわけではありません。尻尾を掴んだだけで終わらせたくは無い。これは間違いなく相方の井上も思っているはずです。

まずは、勝ち取ったニューヨーク旅行でイキモノ本体のその大きさをみてみたいです。巨大建造物恐怖症（っていうのがあるらしいですちゃん）の僕の前に想像を絶する高さのビルがそびえ建つ様子を想像するだけでゾクゾクします（二重の意味で)。

そして、ニューヨークで「見たまま」を少しでも知識や能力に変え、さらにさらに探求を続けて、イキモノの目指すその先へ進むことができたら、この大会の本当の意味が感じられるのでは、と思います。

1ヶ月後に控えた旅行ですが、パスポートも手に入っていない今から楽しみで仕方ありません!そして着ていく服がありません!

感想文を書いていて改めて、愛知予選で散った前回、そして無事に目標を達成できた今回と、本当にこの大会に出て良かったと感じました。

誘ってくれた相方の井上、地方大会含めスタッフの皆さん、プレゼン2班メンバーはじめ共に戦った出場者の皆さん。楽しかったです。ありがとうございました。

次の目標として、2年後に今度は高校生に尻尾を掴ませる係の者の一員として、出場者の皆さんや今回の学生スタッフの皆さんとまたお会いできるように、

そしてまた、あのサングラスをかけてあのステージに立つことができるように、とりあえず単位の回収に勤しみたいと思います。(経済を知らなくて損をすることはあっても漸化式や数列を知らなくて損をすることは無いと思います。)

愛知大会代表　東海高等学校二年
井上　裕太

昨年度の晩夏、私は父親からこの大会の存在を教えてもらいました。もともと、経済に興味があった私は澤田くんを誘い、昨年度の大会に出場しました。昨年度の地方大会では、筆記は一位だったものの、残念ながら決勝で負けてしまい、知識不足を痛感しました。私たちは、新聞の経済欄と経済ニュースを観ることで今年度の大会に備えてきました。

今年度の大会では、勉強した甲斐もあり、全国大会に駒を進めることができました。全国大会ではより厳しい戦いが想定されたので、私たちは本を読みあさり、わからない単語をまとめて調べる作業をして知識を詰め込むことに努めました。

地方大会優勝賞品としていただいた協会の作成した経済TCG「エコノミカ」は、学校での評判もよく、みんなとやりすぎてカードに傷がついてしまったりプレイマットが破れてしまったりするほどやりました。学校の友人は経済などに興味はなかったのですが、このカードゲームを通じて経済にも興味がわいてきているようにみえました。

もともと顔に表情が出やすい二人であったので、私たちはサングラスをして他の人達に表情を悟られないようにしようとしました。最初はそういう理由でつけていたのですが、だんだん私たちのトレードマークと化してきました。出場者も多いなか、皆さんに覚えてもらうこともでき、このサングラスが一石二鳥となりました。

プレゼンの壁新聞準備では、班の空気もよく、みんなが団結して壁新聞を作ることが出来ました。準備時間六時間という厳しい条件のなか、あれだけのものをつくり上げることが出来たのは、ひとえにチームの団結力のおかげだと思っております。

全国大会では、詰め込んだ知識を発揮でき、筆記で好成績が出て何とか決勝に進むことが出来ました。決勝の3ラウンドは、特殊ルールに苦しめられたものの、澤田くんに支えられ、プレゼンを一緒に作ってきた仲間たちの声援に支えられ、なんとか優勝することが出来ました。ウイニングアンサーの「エンゲルス」はおそらく一生忘れないでしょう。

この大会を通じて、私は様々なものを得ることが出来ました。金融知力だけではありません。志の高い日本中の高校生たちと知りあう機会も得ることができました。仲間との団結の大切さも知ることが出来ました。小さな小さな人間だった私ですが、少し大きくなれたのかな、と思いました。

研修旅行で赴くニューヨークでも、見聞を広め、何かを得ることが出来たらいいなと思います。

最後になりましたが、この大会の開催に尽力された協賛銀行、企業、スタッフの皆様。全国大会で時には支えあい、時には競い合った仲間たち。そして、何よりも二年間私とニューヨークを目指して一緒に勉強し、戦ってきてくれた澤田くんに感謝の意を表してこの文章を終わりたいと思います。エコノミクス甲子園にかけたこの2年は、人生で最高の2年でした。本当にありがとうございました。

三重大会代表　三重高等学校二年
江口　勇輝

僕がエコノミクス甲子園に出ようと思ったきっかけは学校のポスターでした。僕はもともと経済に興味があり、少しでも経済の勉強になればいいなと思い参加を決意しました。地方大会では勝てると思いませんでしたが、なんとか全国大会に出場することができました。全国大会には日本中から猛者たちがあつまっていて、僕が来て良かったのかさえ思いました。大会の詳細は全く知らされておらず常に不安でした。1日目はアクティビティーということでしたが、正直何をするのか全く見当もつきませんでした。1日目は本当に嘘ばっかりのテストでした。まず近似値問題と称された架空問題を必死に考えさせられました。結局それは、筆記テストの前振りでした。毎年エコノミクス甲子園にはプレゼン大会というものがあり、それを今年もするということで昼間からプレゼンの準備をしました。みんなプレゼン大会は例年の通り2日目にすると思っていましたが、突然今晩行うと知らせられ、急きょその日の夜にすることになりました。しかしそれも嘘でした。結局プレゼンをすることはなく、作成した資料だけで点数がきまりました。2日目はイイノホールという所に移動しました。そこは経済産業省の前にありその立地に感動しました。大会にはとても著名な人たちがいらっしゃり、恐縮してしまいました。僕たちマコジーズはあまり活躍できませんでしたが、本当にいい経験になりました。全国には進学校がたくさんあり、僕たちのレベルの低さに驚きました。この大会に出場したことを通じて得た知識をこれからの人生に活かしていきたいです。

三重大会代表　三重高等学校二年
鈴木　誠人

このエコノミクス甲子園。まさか地区大会で勝てるとは思って無かったので、全国大会、ウキウキで行きました。

まず、最初に印象的だったのが、スタッフの皆さんのハイテンションさ。ドッキリが多くて、参加者全員が騙され、振り回されていました。中でもポスタープレゼンの時は唖然。二時間をかけた壮大でやりすぎなくらいの手の込み方にエコノミクス甲子園の準備に懸けてきた熱意が伝わってきました。私はそんなドッキリを相方と楽しんで笑っていたくらいなので、ドッキリ大臣の中村さん尊敬しています。

そして感銘を受けたのが、コモンズ投信株式会社　伊井哲朗先生の記念講演。日本企業の再評価と、「本当の意味でのグローバル化」、これからの世界経済を説いていただきました。日本株の可能性を感じた伊井先生のように、皆が情報を持っている中で、そこから何を読み取り着目するかという目の付けどころが大事であり、そこがセンスじゃないかな、と私は感じました。これが、仰っていた「森を見ず、木を見る」と言うことだと思います。本当に勉強になりました。

やはりエコノミクス甲子園の魅力とは、全国から来た参加者と話をして、力を合わせて考え制作したり、切磋琢磨するところにあると感じました。同じ部屋になった秋田代表の二人ともとても仲良くなれましたし、同じ班の中でも良いチームワークで満足感を得ました。スタッフの皆さんにも、部屋に来て喋ってもらってとても楽しかったです。

この何にも代え難い経験をさせて頂いた水谷さんはじめ、協会の方やスタッフの皆さんなど、携わって下さった皆さんに感謝したいです。ありがとうございました。

全国大会感想 *Final tournament report*

大阪大会代表　清風南海高等学校二年
松田　直晃

僕たちのチームは地方大会では準優勝だったのですが、優勝チームの都合で僕たちが全国大会に行くことになりました。そういう意味では、僕たちはとても幸運だったと振り返って思います。エコノミクス甲子園は、「高校生ダイエ」とは一味違ったクイズの大会で、知識を生かして実践するというのが大きなコンセプトになっているというふうに感じました。

一番そう思ったのは、プレゼンテーションです。紆余曲折(詳細に書いてしまうと、長くなってしまうのでここでは省略させてもらいます(笑))があって、「海岸で景気回復」というテーマで壁新聞作りをすることになりました。どういうプロセスで景気回復を目指すのか、どうしたらそれを達成できるのか…　普段の生活ではまず考えなかったことをチームのみんなといろいろ「あーだ、こーだ」言いながら考えました。自分一人では、思いもつかないようなアイデアがいっぱい出てきて、大変でもあり、素敵な時間でもありました。スタッフからの「突然のプレゼンの指令」があり、その「プレゼン」自体がフェイクという、人間不信に陥りそうな(エコ甲でのドッキリは恒例なので、未来のエコ甲全国出場者のみなさんは覚悟してくださいね。)シーンもありましたが、とても楽しいものでした。

大会は「イイノホール」というとても大きく、きれいな会場でとても緊張しました。2回戦の「ビジュアル連想クイズ」は、慣れないクイズの形式で大変苦労しました。僕たちのチームは前日の筆記クイズ&みんなで頑張ったプレゼン、当日の1･2回戦の得点で3回戦まで進むことができました。3回戦は「投資」の要素も絡まったクイズで苦労してしまい、残念ながら敗北してしまいました。しかし、プレゼンのチームメンバーの宮崎西のお二人が準優勝できたので、それがとってもうれしかったです。

エコノミクス甲子園を通して、新しい世界を知ったり、いろいろな人と知り合えたり、様々な経験ができました。いまでもエコノミクス甲子園の「キラキラ」した思い出が頭の中に浮かんできます。来年も参加したいのはやまやまですが、受験生なので参加できません。でも、再来年の大会ではスタッフとしてcome backすることをここでお約束したいと思います。

最後になりましたが、エコ甲を支える大学生のスタッフの皆様、水谷さんをはじめとする協会の皆様、参加したメンバーのみんな、本当にありがとうございました!またどこかで会いたいです。

大阪大会代表　清風南海高等学校二年
上田　怜

僕がエコノミクス甲子園に出場したのは、単に友達に誘われたからでした。当時はクイズにはまっていて、クイズで何らかの結果を出したかったのもあって、あまり考えずに出場を決意しました。地方大会の会場に向かう途中僕はまあ決勝にまで行けたら十分だと思っていました。しかしいざ出場して、何だかんだで決勝まで進んだときには絶対に優勝したいと思うようになっていました。決勝戦は二択か四択かノーヒントで解答するクイズ。しかし第一問で問題を僕と相方二人とも聞き間違えるという初歩的なミスをし、これで優勝は無理だと諦めていたら、最終問題でたまたま知っていた問題が出て、ノーヒントで答えることができ、最終的には二位にまで登り詰めました。まあ二位にまでなったのだし上出来だと思っていると優勝した高槻高校のチームが高校三年生で受験のため全国大会には出られないということで僕らが大阪代表として出場することになりました。

ついに迎えた全国大会の本番。第一ラウンドの二問の早押しクイズで何とか一問をとり、第二ラウンドの写真類推クイズでは苦戦しながらもある程度正解でき、まあまあの点数はとったという感触はありました。前日の筆記クイズであまりできなかった分もプレゼンテーションの得点のおかげで穴埋めでき、中間発表で自分達の高校名がスクリーンに映し出されたときは本当に嬉しかったです。ここまで来たからにはできる限り上位に行こうと思っていると第三ラウンドは解答する側と投資する側に交互になって資金を増やしていくというクイズ。日頃の優柔不断さが出て、思い切った投資をすることができず、資金をあまり増やすことができなかったために、第四ラウンドまで行くことは叶わず、唯一会場まで応援に来てくれた親戚にも投資でミスをしたねと言われる始末でした。今までにないほど悔しい思いをしました。しかし同時にここまでやってきたという達成感も覚えました。

日本がこれからのグローバル競争を勝ち抜いていくには国民が金融知力を学ぶことは不可欠だと思います。だからエコノミクス甲子園に出場して自分が金融知力を身に着けるきっかけをつかめたのは幸運だと思いますし、ここで得た経験をもとに精一杯頑張ろうと思っています。

最後になりますが、全国大会へ挑戦する機会を譲ってくれた高槻高校のチームや、ずっと対策問題を作り続けてくれた友人、応援していただいた方々、共に戦ってくれた各都道府県の代表達、様々なところでサポートしていただいたスタッフの皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

奈良大会代表　智辯学園奈良カレッジ高等部二年
鶴田　瑛子

「T大寺に勝ったら冬休みの宿題なしにしてあげる」

政経の先生がそう言って授業中私達の前に一枚のチラシを掲げました。これが私達のエコノミクス甲子園との出会いでした。去年うちの学校が決勝まで進めるもT大寺学園に負けを喫し、そしてそのまま全国優勝もしたとのこと。この事実を聞いた私達は"冬休みの宿題なし"というニンジンをぶら下げられながら、その日から打倒T大寺として毎日勉強に励んだのでした。そして奈良大会では結果、予選を一位で通過、最後には優勝をすることができました。この時経済の面白さに気づき始めていたような気が致します。

迎えた全国大会。宿舎に到着後案内された部屋の扉を開けると…男子ばっか!!!(汗)

不覚にも早く帰りたいと思ってしまいました。しかし発表されたプレゼンの班では女子チームが1組一緒でとても心強く、そのおかげか壁新聞も男女の長所を生かし合った素敵なものが出来上がり、結果VIP&全体1位をとることができました。この壁新聞には実はその日の午前に講演をして下さったコモンズ投信の伊井先生のお話しを活かしました。(エコ甲にはこのようなクイズだけに偏らない様々なイベントがあり、大変勉強になったものです)こうしてたくさんの優秀な高校生と触れ合う中でエコノミクス甲子園の素晴らしさを実感していきました。

最終日の本選――。私達は唯一の女子チームとして準決勝まで進むことができました。相方がここでの敗退を自分の論述力のせいと落ち込んでいましたが、ここまで来れたのは相方のお陰だったので私自身すごく満足、納得のいく全国大会でした。(奈良に帰宅後、協会の方に歴代の女子チームで最高位でしたよと教えていただき感動しました)

時期的にも今、「アベノミクス」と題し安倍首相が日本経済の建て直しをはかっています。この3日間出会った皆なら日本の将来も明るいかもしれないと思いました。

金融知力の大切さを知ったこの大会。なにより経済は女子でもできるということを伝えたいです。来年以降もずっとずっとこの大会が続いていくことを願い、そして女子チームの参加者がさらに増えることを願って、ここで締めくくりたいと思います。

すべての出会いに感謝します。

奈良大会代表　智辯学園奈良カレッジ高等部二年
鉢木　英理菜

先日、エコノミクス甲子園に参加してきました。

エコノミクス甲子園の存在は先生から告知され去年から知っていましたが、消極的な性格の私はクイズ大会などまるで縁がなく、「誰かが頑張ってくれたらいいなあ」くらいに思っていました。しかし結局先生に連れられ参加することになり、最初は正直全然乗り気ではありませんでした。直前に詰め込みで勉強して挑んだ地方大会でしたが、優勝できたときは本当に本当に嬉しかったことを覚えています。

エコノミクス甲子園は直前までプログラムが分かりません。直前に発表され、何もかもいきなりだし騙されることも多々ありました。しかしそれがエコノミクス甲子園の魅力の1つです。数々の楽しいプログラムの中で一番楽しかったのはプレゼンです。くじで振り分けられたメンバーとプレゼンの内容を考え、意見を出し合い、いいものにしていく作業は本当に楽しかったし、メンバーと友達になれたのはとても嬉しかったです。

全国大会当日はとにかく緊張しました。午前中に行ったクイズに全然答えられなかかっため完全に諦めていたのですが、最下位で予選突破できたときは嬉しさもありましたがとにかくびっくりでした。またまた最下位で準決勝にも駒を進めることができましたが、結果は準決勝敗退になってしまいました。もちろん悔しかったし、後悔もたくさんありますが何よりもまず楽しかったです。クイズは趣向が凝らされており、ハラハラドキドキし、見ていても実際に戦っていても飽きません。本当に楽しかった。この一言に尽きます。

私のように消極的な性格の子や、「どうせ無理やし」と思っている子がいたら、一度騙されたと思って参加してほしいと思います。本当に楽しいから。今ではエコノミクス甲子園に出て本当によかったと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい大会を開いてくださった大会関係者の方々、ありがとうございました。さらに、6班のみんな、ペアの鶴田さん、ありがとう。

今後もエコノミクス甲子園がどんどん大きくなり、エコノミクス甲子園の輪が広がっていくことを願っております。

島根大会代表　島根県立松江北高等学校二年
小田　真志

今回初めて島根でエコノミクス甲子園予選大会が開かれるということを新聞で知りました。しかしエコノミクス甲子園というものをよく知らず、ただこの大会を通して金融・経済について少し勉強してみようといった軽い気持ちで参加しました。その結果なんと優勝して、東京で行われる全国大会に出場することになりました。

全国大会は厳しい地方予選を勝ち抜いた強者ばかりで、宿舎に遅れて到着した時、他校の皆さんが熱心にエコノミカに取り組んでいるのを目の当たりにし、旅行気分は一気に吹き飛びました。

エコノミクス甲子園のクイズは地方予選とはまったく違い、とても面白いものでした。このエコノミクス甲子園の2日間で一番印象に残っている事は「壁新聞作り」です。グループ対抗ということで、他校の皆さんと協力し、うまくできるのか不安でしたが、皆さん大変優しく、今までの勉強を踏まえ、とてもハイレベルな議論ができ、全国のレベルの高さを感じると共に、「コイツはホントに高校生か?」というような人もいて、恐ろしくも感じました。

この3日間を通して、言葉では言い尽くせない大変貴重な体験をすることができました。これも、金融知力普及協会の皆様をはじめ、山陰合同銀行の皆様、学生スタッフの方々、そしてこの大会に携わっていただいたすべての皆様のお陰であると思っています。本当にありがとうございました。

このエコノミクス甲子園を機に、更に金融知力を高めていきたいと思います。

島根大会代表　島根県立松江北高等学校二年
坂根　翔大

全国大会に参加して一週間が過ぎたのが信じられません。まるで昨日のことのようです。そして自分がそれに参加できたことが一番信じられません。友達に誘われて軽い気持ちで参加してから、怒濤の日々でした。今振り返ってみると、それはとても人生にとって有益な日々だったと痛感しています。

私は島根県という地方の県に住んでいるせいか、あまり経済の出来事に関心がありませんでした。エコノミクス甲子園も全然知らなくて、友達に教えられて初めて知りました。地方予選で勝てば東京に行けるという話につられて参加しました。応募するとテキストが送られてきて、怒濤の勉強が始まりました。経済の"け"の字も知らなかったので、毎日がてんてこ舞いで鬱病になりそうでした。そうして地方予選では、ラッキーな問題がたまたま当たり、"濡れ手で粟"状態で勝ち上がりました。

それから時が流れ全国大会の会場に着いてみると、他県の代表の人たちがエコノミカを異様に盛り上がってやっている姿があり、圧倒されました。やっぱり全国の奴らは奇才、奇人ばかりだなぁと強く感じ、そして自分たちの場違い感は半端無かったことw。話してみるとみんな経済の深い知識をもっていて、驚きの連続でした。また、いい意味での刺激も沢山貰いました。全国大会はいろいろな経済の勉強を出来る催し物は準備されていて、加速度的に経済の知識を学ぶことができ、とても充実した二日間でした。

全国大会に参加してみて、参加する前よりも一回りも二回りも経済について関心を持つことができ、また知識を得ることができました。そして何よりも才能あふれる素晴らしい人達と友達になれたことが私の人生の大きな宝になりました。

最後に全国大会の様々な準備をしてくださったエコノミクス甲子園の事務局の皆さん、山陰合同銀行の皆さん、各地の代表の皆さん、そして最後に相方に心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

岡山大会代表　岡山県立岡山城東高等学校三年
浜田　浩考

今回、全国大会に出場させてもらって、いろいろな意味で人生が変わったと思う。2年生であった前回大会の地方大会に出場したが、優勝することができなかった。その悔しさから、3年生で進路が決まっていないにも関わらず(汗)、今大会の地方大会に出場して念願の全国大会に出場することができた。

全国大会当日より前日の方が印象に残っているので、前日のことを中心に書きたいと思う。全国大会前日には最初にエコノミカ大会があった。エコノミカは地方大会終了後にもらってからペアや学校の友達と一緒にやってみたが、とても工夫されていて楽しかった。ブースターパックを発売して、もっと大きな規模のカードゲームになってほしいと思った。エコノミカ大会では3位をもらうことができたが、学校の友達には対戦成績で負け越していたので、学校の友達が出場していたら優勝していたかもしれない(笑)。

筆記テストでは、自分の知識不足、勉強不足を思い知らされた。とはいえ受験勉強そっちのけでエコ甲の勉強をしていた分、優勝こそできなかったが、自分の中で自信になる結果をもらうことができたのでうれしかった。

壁新聞では、同じ班になった仲間とともに深く議論を交わすことができ、最終的に一枚の壁新聞を作り上げることができた。班の仲間とは初めて会ったとは思えないほど打ち解けあうことができた。一つ思ったことは、名札を作ってほしいということだ。仲良くなった班の仲間の学校名とペアはすぐに覚えることができたのだが、名前を覚えることには苦労したので是非検討してほしい。

全国大会前日のイベントのいくつかは、高校生の誠実さを踏みにじられた(笑)。純粋な高校生にああいうことをするのは、だめだと思う(笑)。

全国大会感想 *Final tournament report*

全国大会当日は、とても悔しい結果となってしまったが、大会を楽しむことができた。

最後になったが、この大会を開催してくださった金融知力普及協会の方々、協賛企業の方々、岡山大会ではもちろん全国大会でも大変お世話になった中国銀行の方々、全国大会の学生スタッフの方々、そして班のみんなを含め全国大会参加者のみんな、大会に関わってくださったすべての方には感謝してもしきれない。ありがとうございました。

岡山大会代表　岡山県立岡山城東高等学校二年
小川　夏

まさか、全国大会にいけることになるとは、夢にも思っていませんでした。優勝した瞬間から「地区大会では筆記も、早押しも、決勝も、全て浜田先輩に任せきりになってしまったので、全国大会では先輩の足を引っ張らないようにしよう。」このことばかり思っていました。

その日から始まった私の経済学生活。もともとそこまで暗記科目が得意な方ではなく、今思えば良い思い出ですが、当時は地獄のような日々でした。

あれよあれよと言う間に、岡山を発つ日はやってきて、目が覚めたとき、東京にいました。(前日に学校の提出物を徹夜していたという計画性のなさ)

「人間関係はうまく構築できるか」、「スタッフさんが鬼のような厳しい人かもしれない」、「本番で筆記0点だったらどうしようか(←いや、どうしようもない)」、「男女ペアだが部屋割りはどうなっているのだろうか」など不安でいっぱいでした。

しかし、全ては要らぬ心配でした。事前にTwitterで知り合っていた女の子と偶然同室だったり、全国大会前日に行われた筆記テストも、比較的簡単な問題からひねってあるものまで、多種多様なものが用意されていたり、そして何より、スタッフの方々が優しかったからです。今までこれほど安心してどこかに滞在したことがあったでしょうか。

そして、この3日間で、私はたくさんのことを学ばせていただきました。

優勝した二人を祝福したときの会場の一体感、プレゼンで他校の、いわばライバルと結託しひとつのものを作り上げたことの素晴らしさ、スタッフの方々の、自分達で作り上げたものを責任をもってやり抜くという姿勢、特にこれは、生徒会執行部として企画・運営を行うことが多くある私たちの日々の活動にも最も必要なものだと思いました。

最後になりましたが、このような経済はもちろん、日々の生活に直結する大切なことを学ぶすばらしい場を提供してくださった金融知力普及協会、地方大会からお世話になった中国銀行の方々を始めとするすべての関係者の皆様にこの場を借りて深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

広島大会代表　修道高等学校二年
山根　有輝也

「エコノミクス甲子園」――担任の先生からこの大会の存在をうかがったのは、地区大会のわずか2か月前、10月初旬のことでした。急いで、仲の良い藤井君を相方として誘い、「ペイトリオッツ」(愛国者たち)というチーム名に決め、勉強にはげみ始めました。

まずはUstreamの過去大会の動画をすべてチェックし、問題文を一時停止しながら何度も聞いてはWordに打ち、聞いては打ち……という作業を、すべての問題で行いました。

しかし、これでは勉強が十分でないと思い、事前学習教材を基にした一問一答をくまなく作成し、自分で即答できるようにする練習も始めました。

するとどうでしょう。地区大会のペーパーテストでは94点をたたき出せたうえ、早押しでも20点を獲得。さらに、決勝でもストレートに満点を取って、地区大会26チームの頂点に立つことができました。

……と、ここまでは順調でしたが、いざ全国大会へ来てみると、もちろん各地区からの猛者が集まっているわけで、その異常なまでの緊張を感じずにはいられませんでした。

しかし、その緊張をほぐしてくれたのが、まぎれもなく優勝校の東海の2人でした。「エコノミクス広辞苑」では同じ2班となり、その強烈なキャラクターで、班の雰囲気を盛り上げてくれました。今となっては、やはり、優勝の風は彼らに吹いていたようにも思います。

大会1日目には、ゲリラ的に筆記クイズがありました。その出来については、正直なところあまり自信がありませんでしたが、結果はまさかの個人1位タイ。第3ラウンドにも進出できなかった我々にとっては、広島に持ち帰るいい土産になりました。

来年は受験なので、この悔しい思いを、是非とも後輩に晴らしてほしいと思っています。

最後に、修道高校の校歌からワンフレーズを借りて――
来年以降、エコノミクス甲子園に参戦する諸君!
「見よや修道魂を!」
そして、ありがとう!エコ甲!

広島大会代表　修道高等学校二年
藤井　俊秀

僕はこのエコノミクス甲子園の全国大会に出場して本当によかったと感じることができました。

その理由の一つ目は、本当にレベルの高い大会だったからです。周りのみんなが各都道府県の大会を勝ち抜いており、予想以上の白熱した戦いを見ることができました。また、そのような戦いをともにできたことができて本当に楽しかったです。また、スタッフのみなさんの趣向をこらした企画や問題も大会をよりレベルの高いものにし、楽しむことができました。

そして、二つ目は、"仲間"ができたことです。大会の二日前の夜にプレゼンテーションのチームが発表されて以降、食事や行動を共にし、プレゼンテーションの内容を考える際には、最初は遠慮しがちなところもあったのですが、徐々に打ち解けていき、大会前日の夜にはすっかり仲が良くなりました。そして迎えた本番当日には、お互い励ましあって、自分たちが負けても同じグループのチームを心から応援できました。そのチームが勝った時にはみんなで祝福しました。そのようにグループのみんなで楽しめました。

自分たちは第2ラウンドで負けて本当に悔しい思い出いっぱいです。また、挑戦できたらいいなと思っています。最後にこのような機会を下さった金融知力普及協会の皆様、そして地元広島のもみじ銀行の皆様、そしてその他たくさんの方々に感謝しています。ありがとうございました。

山口大会代表　山口県立宇部高等学校一年
末武　大河

私が全国大会終了後に感じた事は、「レベル」が違ったということです。

私たちは、地方大会の時は近くのライバル的存在の進学校が病気で欠場したために、運よく全国大会に出場する事ができました。全国大会でも、運よくエコノミカ大会で勝利したために第三ラウンドに進出することができました。その後、運が尽きたのか第四ラウンドには進出できず、決勝前に行われた敗者復活戦でも復活はなりませんでした。決勝が始まる前、相方の縄田君と「運がなかったね」と二人でボヤいていました。しかし、試合を見ている内に、そう言った自分を恥じました。各段に問題のレベルが上がり、ほとんど正解がわからなかったのです。それだけでなく、緊張するはずの舞台上で会場を笑わせ、空気を支配していた東海高校の二人を見て、気の利いたコメント一つも言えず、知識もなく、運で全国に来ただけの自分が情けなかったです。

私たちはまだ一年生なので、来年も出場のチャンスがあります。毎年出場者の増えているエコノミクス甲子園のこと、来年はさらなる猛者が現れているでしょう。しかし、私たちには全国大会に行ったというアドバンテージがあります。猛勉強を積み、来年こそは優勝いたします!

最後に、地方大会の優勝商品としてiPod Shuffleをくださった山口銀行の皆様とゲンを担いでトンカツをおごってくださった引率の坂田さんと無茶振りに付いてきてくれた縄田君と大会のために用意してくださった金融知力普及協会のみなさま（特に純真な男心を騙してくださったドッキリ大臣こと中村さん）全員の方にこの場を借りてお礼を言わせていただきます。本当に有難うございました。

山口大会代表　山口県立宇部高等学校一年
縄田　寛希

あっという間に、東京行きが決まっていた。地方大会が終わっても実感が得られなかった。当然、経済の勉強に打ち込めるはずもなく、ただ2ヶ月が過ぎて行った。ようやく焦り、勉強し始めたのは大会1週間前のことだった。まともにやっていたのは、カードゲームのエコノミカだけだった。

気がつけばその日がやってきた。僕は何となく投げやりな気持ちだった。だから、会場に着いたとき、他のチームの気迫に気圧された。エコノミカの大会があるので、同室の方と練習をした。そして、惨敗した。唯一やって来たものが、通用しなかった。

エコノミカの一戦目は同室の方だった。まず、ここで心が折れた。勝てる気がしなかった。そして、予想通り僕は劣勢だった。山札はあと数枚になった。ここでも、心が折れた。そこで、諦めて賭けに出ることにした。結果はドロー、僕の優勢勝ちだった。そして、その後の二戦目、三戦目で辛勝を収めた。相方に結果を聞くと、どうやら二人とも全勝らしい。午後の決勝トーナメントに出ることになった。

準決勝では得意なパターンに持込み、初めての快勝だった。そしてとうとう決勝がやって来た。相手も、練習して来たらしい。全く勝ち筋が見えないまま、プレーが進む。僕は焦った。そこで、相方を見ると涼しい顔をしている。これで、初めて僕に心の余裕が生まれた。冷静に状況を整理し、切り札を引くことができれば、逆転出来ることに、気がついた。漫画の主人公なら引けるのだろう、と思った。相方に「無理だ」と告げた。彼に「任せる」と言われた。

相手のターンが終わり、制限時間はあと10秒。このままでは、相手の優勝勝ちだった。後ろから、他のチームからの声援が聞こえた。僕達は諦めず、賭けに出た。そして、切り札はやって来た。エコノミカ大会で優勝したものの、特に何もなかった。しかし、本番の中間発表前に表彰された。賞品として第3ラウンドの出場権を得た。実力で掴んだ切符ではなく、そこで敗れた。

ハードスケジュールの2日間は、苦しくもあり、楽しくもあった。優勝チームの笑顔を見て、来年も挑戦してみようと思った。

P.S エコノミカの事ばかりですみません

徳島大会代表　徳島県立城ノ内高等学校一年
多田　大輝

東京での3日間を終えて、エコノミクス甲子園に対する印象が180度変わりました。宿舎に着くまでは、緊迫した雰囲気で高校生クイズに出るようなメンバーばかりだと思っていました。しかし、エコノミカのレクレーションのときに、大学生スタッフが笑わせてくれたり、東海高校の2人のエコノミカを見て印象が変わりました。最初はあった緊張も、ほぐれていき、場の雰囲気に慣れていきました。

でもクイズになると、皆、別人でした。ディスカッションのときでは、皆が鋭い意見を次々と出していき、早押しクイズでは何もできずに終わって、自分はまだまだだと実感しました。特に、論述クイズを観戦していて、これは自分にはできないと本当に思いました。一生懸命に勉強して、たくさんの知識を身に付けていないと、あれほどの内容を3分間で考え、発言するのは無理だと思いました。また、このエコノミクス甲子園では「運」が必要なところもあり、それを踏まえて優勝した東海高校の2人は、王者にふさわしいと思いました。今では、自分ももっと頑張って勉強していたらどれぐらいできただろうと後悔しています。

このエコノミクス甲子園を通して、徳島県大会からお世話になった阿波銀行の桑原さんや、金融知力普及協会の皆さん、大学生スタッフの皆さん、共に壁新聞を作った1班の皆さん、本当にありがとうございました。また来年もお世話になることがあれば、よろしくお願いします。

徳島大会代表　徳島県立城ノ内高等学校一年
田渕　舜也

東京の夜は淀んでいた。初めての上京ということもあり、緊張していたからそう映っただけなのかもしれない。でも確かに僕にはそう見えた。止まぬ喧騒、ネオン街の煌き。すべてが狂っているようにも見えた。規則的に並ぶビルの窓と、そこから見える蛍光灯の整列がなんとも異様で、そこで働いているサラリーマンもまた、異様だった。そこはユートピアでにみせかけた、ディストピアだった。一見華やかに見える東京、しかし線路の高架下に目を向けると、そこは唯の地獄だった。青いビニールシートで身をくるむ老人、ゴミ箱を荒らす中年男性、それをなんでもないように通り過ぎるカップル。これが日本の東京であった。

会場に着くと大変だった。むしろ会場からがとてつもなくたいへんだった。疲れのあまり立っていてもひざが笑う状態だった。正直ここまで大変とは夢にもおもわなかった。で土曜日の「壁新聞」は疲れのあまり精神が崩壊するかとおもった。なれない環境で慣れないことをするのは非常に骨が折れたが、三年生の方が頑張って下さったので非常に頼りになった。とても感謝している。その後結果もよかったので安心した。

本選は異様な熱気と緊張に包まれていた。例えるなら定期テストの自習の時間が適当だろう。もっともその頃には疲労がピークに達していてひざが笑っていましたが。

いろいろあってその後無事に帰ってこれたのはよかった。途中は死ぬんじゃないかとおもったが過ぎ去ってみれば案外楽しかった。

香川大会代表　香川県立高松高等学校一年
佐々木　ダグラス　ジェームス

僕がこのエコノミクス甲子園に参加したきっかけは、教室に貼ってあったポスターを偶然見たことです。ポスターを見た瞬間、出たいと思いました。僕は以前からこの分野に興味があったので、このような大会があることをとてもうれしく思いました。そこで仲のいい松本くんに一緒にやってみないかと誘うと快くのってくれたので、やる気がでました。申し込んだのがぎりぎりだったというのもあり、県大会まで勉強する時間はあまりありませんでした。しかしふたりで協力してなんとか間に合わせて県大会に望みました。準備期間が短かったので、本番ではとても緊張しました。ダス大会に出るのも初めてで、はや押しのボタンの上で手が震えてました。しかし、なんとかして決勝ラウンドに進みました。まさか残ってるとは思っていなかったので、発表されたときは喜びあいました。するとまた予想外なことに決勝ラウンドでも勝ち進み、優勝したのです。ふたりでガッポーズをし、今度は喜びで足が震えてました。

その日からは全国大会のことが頭から離れず、とても楽しみにしてました。全国大会では後悔をしないようにと思い、た

全国大会感想　Final tournament report

くさん勉強しました。

うきうきしながら東京の会場に行くと、みんながエコノミカをしていました。その翌日も、新聞作りやエコノミカ大会などが行われ、そこで多くの人と仲良くなれました。また新聞作りのテーマが景気の回復で、学校ではなかなかできないような話し合いができ、非常に充実していました。大会の最終日のクイズでは残念ながらあまり答えることができず、早い段階で敗退してしまいました。しかし、自分たちが参加できなかったラウンドも見ていてとても面白いものでした。自分の席で問題に対する答えを考えたものもありました。休憩時間にはスポンサー企業の方がさまざまな話をしてくださり、朝から夕方まで興味深いことばかりでした。

全国大会では結果は残せませんでした。しかし、多くの人と仲良くなり、情報交換などができたのがすごく良かったです。

この大会のために勉強しているなかで将来に役立つようなことがいっぱい学べました。とても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

銀行員の方々や協会の方々にとても感謝しています。ありがとうございました。

香川大会代表　香川県立高松高等学校一年
松本　啓輔

自分は経済に興味はほとんどありませんでした。しかし、佐々木くんがこの大会に誘ってくれたお陰で興味を持つことが出来ました。

誘われてすぐには興味は持てませんでした。渡された参考書も分厚く、とても量があり、なかなか飲み込めないことも多く、部活や勉強が忙しいと理由をつけて、なかなかエコノミクス甲子園の勉強をしませんでした。全国大会に行って、周りの出場者の話を聞いて、自分は全然勉強が足りないなぁ、どうしてこんなにたくさんのことを知っているのかなぁ、と思いました。勉強不足なせいで、分かる問題にも自信が持てず、早押しでは答えることが出来ませんでした。そんな知識不足な自分にも分かるような、コモンズ投信株式会社代表取締役社長の伊井哲朗さんの話を聞き、経済への興味がわいてきました。もっと早く経済に興味が持てたらなぁと思っています。もし、もう少し早くから興味が持てていたら、大会での結果も少しは変わったんじゃないかと思い、後悔しています。もし、来年も佐々木くんに誘ってもらえるのなら、万全な状態で参加したいと思います。

大会のルールについて思ったことがあります。竜と虎に分かれるやつで、全員に低い点数をつけたほうが自分に有利になると思います。一番低い点数を合計しないとはいえ、低い点数をつけると、少しだけでも自分以外の人の点数が下がり、自分が有利になるので、ルールとしてはどうなのかなぁと思いました。そこら辺も考えた上でこのようなルールにしたのかなぁと思いました。

愛媛大会代表　愛媛県立松山西中等教育学校二年
楠田　格士

私がエコノミクス甲子園に出ようと思ったきっかけは、昨年のエコノミクス甲子園に仲の良かった先輩が出場したからです。経済関係の進路を目標としていた私は、「腕試し」のような感覚で地区予選に臨みました。これといった勉強もしてなかったので不安でしたが、日ごろから見ていたニュースなどの知識が役立ち、優勝することができました。

このとき私が思ったことは、「金融知力≠知識」ということです。同行した銀行員の方も言っていたように、書類上の知識では、経済現象をすべて説明できません。社会の動きを見て考えることが大事だと思いました。その点が、エコノミクス甲子園とふつうのクイズ大会との一番の違いだと思います。実際に全国大会では、単に一問一答で知識を問うものではなく、経済学的思考やセンスを問うような形式のクイズのほうが多く見られました。

今回の大会で最もよかったことは、多くの友人ができたことです。私の学校は1学年160人と少なく、全国大会で、学校にはいないさまざまな人と出会うことができました。特にプレゼンで一緒だった2班の面々はどれも個性的で、とても楽しかったです。

大会の内容としては、もう一歩というところで負けてしまい、悔しいものになってしまいましたが、それ以上に大きなものと学ぶことができました。

最後になりましたが、金融知力普及協会の皆さん、学生スタッフの皆さん、伊予銀行の皆さん、そして、一緒に戦った2班の皆さん、本当にありがとうございました。

愛媛大会代表　愛媛県立松山西中等教育学校二年
村上　晴香

私は全国大会が怖くて仕方ありませんでした。もともと地方大会で優勝できるなんて思っていなかったのです。しかし、相方はやる気満々の様子。有言実行の彼に引きずられ、いつのまにか東京へ。

東京に着いてまず決意したことは「私は一生を愛媛で暮らそう。」

私に東京なんて無理なのです。この人混みの中を東京の人はどうやって生きているのでしょうか。田舎者には理解できない早さなのでしょうか。なぜこんなに一分一秒をせわしなく生きているのかが私には理解できませんでした。一生懸命、引率の先生方についていき、宿舎についた頃には疲労と恐怖で不覚にも涙目に。「長い3日間になりそうだ。」私はまた泣きそうになりました。

次の日からはもう何が何だか覚えてません。あんな量のスケジュールを一日に詰め込めこむことができるとは。まず、pisaru=langun指数。これは一生忘れません。大人の社会には嘘がつきものということを痛感しました。次に筆記試験。その次にエコノミクス広辞苑。そして壁新聞制作。ここでもまた騙され、「こんなにユーモアのある大会見たことないな」とここまでくると笑ってしまいました。どこかのタイミングでエコノミカ対戦もありました。

もうくったくたでした。分刻みのスケジュールに胃が痛くて痛くて。社会人になるとこんな感じなのかなぁと思いつつ、布団に入った直後からの記憶がありません。

次の日。起床すると、すぐ着替えてラジオ体操。行動が謎でした。

そして集合してホールへ。予選はいいところまで行ったつもりでしたが、負けてしまい、もっと勉強しておけば良かった、と自分の不甲斐なさを改めて感じました。嬉しかったのは東海高校さんの活躍だ。壁新聞の仲間が優勝してくれて2班として誇りに思います。おめでとうございます!

すごく早かった3日間。それはすごく濃密で忘れられない3日間でもありました。こんなに短期間でみんなと仲良くなれるとは。別れる頃にはまた涙目に。最初は大嫌いだった東京も愛媛に帰る頃には少しだけ好きになっていました。

エコノクス甲子園が終わり、一週間がたっても、まだ出場者の方々やスタッフさんとの輪は広がりつつあります。SNSを利用した交流を大会側が積極的に行ってくださるのは本当に素晴らしいと思います。

本当にいい経験でした。エコノミクス甲子園が私の世界を広げてくれました。私のような井の中の蛙に大海を見る機会を与えてくださり、ありがとうございました。二年後、スタッフをすることで恩返しをしたいです。それでは。またお会いできる日まで。

福岡大会代表　福岡県立修猷館高等学校二年
福田　智洋

学年末考査の中日という強行スケジュールの中、わざわざ東京に行ってまで戦ったというのは、傍から見ればとても心配されるべき事ですが、私自身そうは思っていません。寧ろ、普段はネット上や模試の成績優秀者一覧で目にすることしかないようなとてもレベルの高い、経済という一つの分野にかかわらず「学問」に高い意識を持って臨んでいる仲間と会い、話し、闘い、助け合い3日間という短い時間ではありましたが、過ごすことができたこの経験は、何事にも代え難い物になりました。

勿論、ある程度の結果を残して福岡に帰りたかったという念はなかったとは言い切れません。ですが、この全国の舞台に立つまでのプロセスは、今回参加された全ての高校生の方々に負けていないと断言できます。私だけでなく同じ学校でエントリーした仲間が少しでもよい結果を残すことのできるように、地方大会の3ヶ月前から高1の時に使っていた現代社会の資料集の「経済」「国際経済」の欄、協会から届いたテキストを駆使して、300問近い問題を作成し、参加者全員に配布しました。大変な作業でしたが、結果的にこのことが私を全国の舞台に導いたと言っても過言ではありません。

「金融知力は持っているだけではいけない。それをいかにして使うかである。」

全くその通りだと思います。しかし、「思いて学ばざれば則ち殆し。」という言葉があるように、自分自身の未知を知らずして実践だけに走るのは危険です。すなわち、私たち高校生の世代は将来のアウトプットのために、今はインプットに全力を注がなければならないと思います。私自身来年度は受験があり、エントリーは難しいと考えております。ですが、エコノミクス甲子園の全国大会に出たいという志を持った者が本校の後輩にたくさんおります。そうである限り、私は彼らのために高校生の間は全力でサポートしたいと思っています。そして大学生になったら、学生スタッフとして自分の母校にとどまらず、全国の志高い高校生の力になれるように貢献したいと思います。

長崎大会代表　長崎市立長崎商業高等学校三年
桑原　璃奈

今回、エコノミクス甲子園に参加するきっかけとなったのは、担任の紹介でした。十八銀行に内定していただいたことともあり、今後必要となる知識だあろうと思い参加しました。長崎大会では、正直、優勝できるとは思っていませんでした。なので、優勝したとき喜びとともに不安がありました。私が全国大会に参加して大丈夫なのだろうか、と。実際、全国大会では長崎大会とは比べ物にならないほどのレベルで、みんなについていけませんでした。本当に勉強不足だったと深く反省しました。

全国大会は本当に楽しかったです!エコノミカは15日にマスターに教えていただいてようやくルールを覚えたのですが、大会を経てその面白さが分かりました。帰りの飛行機の中でも相方と遊んでました（笑）ただ、フロー0にされるのは本当悔しいです。エコノミカがもっと浸透するように願っています。5班のみんなには本当助けてもらいました。「きりきりまい」という難しいキーワードからよくここまで作れたな…と驚きです。私は何にも出来なくて申し訳なかったです。5班のみんな本当にありがとうございました。 pisaru-langan指数は騙されました。おかげで筆記問題さんざんでした…。

大会当日はなぜか緊張することなく早押しに入って、棚から牡丹餅でした（笑）第2ラウンドでは、「日本銀行」くるかな…と思っていたら、きましたね。本当運が良かったです。壁新聞が一般投票1位で総合2位!これはうれしかったです。班のみんなに感謝です。しかし、第3ラウンドへは進めず、同じ班の千葉と富山を応援していました。こうして見ると本当班活動っていいな、と思います。

目標だった決勝ラウンドへは進めませんでしたが、たくさんの友人ができてよかったです。エコ甲に参加して本当によかったです。来年は、地銀のスタッフとして参加できたらいいです。お疲れさまでした。

長崎大会代表　長崎市立長崎商業高等学校三年
松尾　由香子

私は、金融機関に就職ということで誘われて、エコノミク甲子園に参加することになりました。事前にいただいた資料で、全国のレベルの高さを知っていたので、地方大会は「楽しんで参加しよう」という程度でした。まさか優勝できると思っていなかったので、全国大会という響きに正直戸惑いました。

東京に来て一日目、早く部屋に着いていた私達は、学生スタッフの方にエコノミカのやり方を教えていただきました。その後、他校の皆さんとも交流でき、皆さん個性的で、楽しい時間を過ごすことができました。

二日目は、壁新聞作成をしました。壁新聞は沢山騙されたことが印象に残っています。種明かしをした後の、関係者の方の嬉しそうな顔が忘れられません。話し合いの時、私は積極的に意見を言うことができず、同じチームの皆さんに申し訳なかったです。内容がまとまり、模造紙に書く時は緊張しました。最初は不安でしたが、同じチームの知識の深さを認識し、一つのものを作り上げることができていい思い出になりました。

三日目、大会当日、会場に着くと緊張が高まりましたが、学生スタッフの方や、前後の九州代表のチームの人たちと会話して少しリラックスして臨めました。一回戦、早押しでは、運がよかったと思います。二回戦、連想クイズでは、相方の桑原さんに助けられました。そして、良い作品が並ぶ中、壁新聞の一般私投票で一位を獲得できてうれしかったです。三回戦進出はなりませんでしたが、ハイレベルな戦いを間近で見ることができて大変勉強になりました。

この全国大会から学んだ、自分の知識不足を痛感しましたが、普段の生活では絶対に得ることのできない、貴重な体験をさせていただきました。大会に携わった関係者の皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

宮崎大会代表　宮崎県立宮崎西高等学校三年
宝蔵　蓮也

この度エコノミクス甲子園全国大会に、初の宮崎代表として参加し、何とか準優勝という結果を残すことができました。

私はもともと雑学・クイズ好きということもあり、クイズ大会に出たい、夏の高校生クイズのリベンジをしたいという動機から参加しました。大会が近付き、事前学習資料などを読んでみると、実際の生活で役立つ金融の知識を多く学ぶことができ、（同時に、学校の公民の授業が実生活に結びつきにくいというのも感じ）本当に楽しかったですし、勉強になりました。

全国大会では、「エコノミクス甲子園は実際の経済の縮図である」ということを特に強く感じました。金融に関する知識だけでなく、先の見えない展開をどれだけ予測し、予想外の展開にどれだけ柔軟に対処できるかと言う戦略面も含めた、総合的な「金融知力」を問われているような気がしました。そんな中、知識不足を戦略で補って勝ち取った準優勝は、とても嬉しいものでしたし、自信を深めることにもつながりました。しかし、壁新聞を口頭発表も計算に入れて作ったのに口頭発表がなく、掲示発表に最適な壁新聞を提出できなかったということや、準決勝の運任せの形式といった、残念に思ったり、心苦しく思ったりした点もありました。

いろいろなことがありましたが、全国大会に参加し、クイズだけでなく、参加者の皆さんやスタッフの皆さんを始めとした全国各地の皆さんと交流できたことが、何よりの収穫だったと思います。この場でつなげた人脈をこれからも大切にして、今後の人生を歩んでいきたいと思います。

全国大会感想　Final tournament report

末筆ながら、金融知力普及協会さんやスポンサーの皆様をはじめ、エコノミクス甲子園の開催に関わったすべての方々に心から感謝申し上げます。

宮崎大会代表　宮崎県立宮崎西高等学校三年
内田　葵

スタッフの皆様を始め、協力してくださった銀行・企業関係者の皆様に心より感謝しております。

「金融知力は大切だ」と分かってはいたものの、難しい用語のせいでなかなか手が出ない…というのが本音でした。エコノミクス甲子園に出場したのも、軽い気持ちでNYを目指したことがきっかけでした。しかし対策の勉強をしていくうちに、これから社会に出ていく上で必ずや必要になる知識を得ることができました。

また全国大会において問われた"核"は、「知識」ではなく「知力」であった気がします。実力だけではなく運や戦略で結果が左右すること、自分の利益だけを追求しても勝利には繋がらないこと。金融の本質を突く形式のクイズに挑戦するたびに、金融知力普及協会の方々の思いや、工夫、努力をひしひしと感じ、衝撃を受けていました。

結果としては準優勝を頂くに至りましたが、私にとってこの結果は副産物に過ぎません。エコノミクス甲子園に出場することを決意してから得た知識、大会を通して全国に広がった人脈など、結果以上に、この貴重な経験こそが、エコノミクス甲子園の魅力であったと感じています。

今後もたくさんの高校生に、エコノミクス甲子園でしか得られない、素晴らしい経験をしてほしいと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました!

鹿児島大会代表　ラ・サール高等学校一年
林　洋亮

エコノミクス甲子園の本戦は、当日いろいろとやっているときや、行き帰りの飛行機の時間などが忙しくて大変でしたが、今になって思い返してみると、案外充実していて有意義だったのだな、と思います。全然知らない人たちと、「経済を学んでいる」というカテゴリーが同じというだけで、一緒になって金融知力普及協会さんの作った、経済の学べるカードゲームをしながら、ワイワイお話ししたり、自分たちの持っている知識を集めて、選んだ一つの言葉で景気回復できることを示した壁新聞を作ったり、みんなで寒い朝に外に集まって普通のラジオ体操をしたりするのが、人見知りな僕にとってでさえも楽しい経験になっていることが自分でも驚きです。また、地方大会のときにはあまり感じなかった、「本気で経済をやっている人の知識量の深さ」を知ることができて、自分の勉強の甘さを感じ、いい刺激になりました。

それと、エコノミクス甲子園の二日目にしかけられたいくつものトラップにものの見事に引っかかってしまい、特に、プレゼンの審査員がニセモノだったと知った時は、虚無感がすごかったです。突然のペーパークイズも含め、ドッキリに引っかかれたことが、ある意味とても楽しかったので、よかったです。

うちの高校は、偉大な先輩方が、一回、四回と優勝してきていたので、等差数列的に今年は頑張ってください、というんな人、先輩、友人に言われていたにも関わらず、本戦であまり活躍できなくて、申し訳ないです。ですが、今回いろんな人に会って、本当の経済の知識というものを知ったので、来年もまた同じ舞台に立てるように、今から努力している次第です。

鹿児島大会代表　ラ・サール高等学校一年
吉水　智彬

テスト直後でした。予選も本番も。経済の勉強の合間にテスト勉強をするという八方美人な日々だった気がします。それで共倒れしたのはまあ置いておくとして。エコノミクス甲子園の感想を少しばかり語ろうと思います。二泊三日という短い期間。それでも、たくさん思い出は出来ました。

まず、やっぱりJ全国大会の楽しさを。人見知りでなおかつ会話力も皆無の自分でしたが、共に過ごした数日間、エコノミカ大会などの企画、そして特に二日目昼からの班ごとの壁新聞作りで、いつのまにか周囲こ打ち解けることが出来ていました。

壁新聞について、最終的には5位という不本意な結果に終わりましたが、それでもやっぱり12人で話し合い、力を会わせて一枚の成果を作ったという思い出は一番の思い出になりました。

もちろん楽しいことばかりではなく、筆記は答えがわからずひたすら考えたり、壁新聞作りは司会の出す一つ一つの訳のわからない鬼のような指令や寧ろ脱力するほどのドッキリで余裕がなくなったり、話し合いでは他のチームの知識の多さについていけなかったり、そもそも本戦は予選で落ちたり、と色々ありましたが、それでも今思い返すと全部引っくるめて一つの楽しい思い出としてまとめられています。結局は全部楽しかったと言うことで。

最後に、自分の経済知力の低さに気づけた、というのがあります。いままでこうして書いてきましたが、この大会に必要なのは、ただ知識があるだけでなく、その知識を様々に結びつける力や、例えばプレゼンに代表されるコミュニケーション能力、自分の長所を活用する能力といった様々な力なのだと。幸いにも自分には来年と、それまでの一年という時期があります。来年もあの場所で力を競いあい、来年のこの感想文にはいい報告ができるように経済知力というものを磨いていこうと思います。

沖縄大会代表　沖縄県立那覇国際高等学校二年
濱元　貴大

エコノミクス甲子園に出ようと思ったのは、教室に張り出されたポスターでした。（地方大会）優勝したら東京行けるじゃん!と思って参加しました。エコノミクス甲子園の前日まで学年末テストと言うことで眠い、寝不足で頭痛い状態でしたし、エコノミクス甲子園の勉強不足でした。

初日はエコノミクス広辞苑でグループでのプレゼン作りでした。"きりきりまい" というワード。グループの知識などを使って何とか新聞作りができました。グループの皆さんがとても知識豊富だったりたくさんの考えがあったりととてもいい雰囲気で充実していました。

また、ペーパーテストも金融の問題だけでなく、時事問題、論述問題などもあり地方大会と全然レベルの違う問題で、とてもいい問題でもありました。

結果は予選敗退という結果で終わってしまったけれども、今まで以上に金融、経済について興味も湧いてきたしもっと知識をつけたいと思いました。団結する事の大切さ、考えることの必要性、知識だけではいけないことも学ぶことが出来ました。

エコノミクス甲子園に出場して、全国の皆さんと関われたりととても貴重な経験が出来てほんとによかったと思います。この経験を今後に生かしていきたいと思います。

最後に、私と関わった皆さん、大会を運営していただいたスタッフ、沖縄銀行の皆さん、ありがとうございました。

沖縄大会代表　沖縄県立那覇国際高等学校二年
金城　亘

最初は、エコノミクス甲子園というこの聞き慣れない大会を軽く見ていたし、地方大会も「普通のクイズ大会か。」程度の感覚でした。しかし、全国大会に行って考え方は変わりました。「エコノミクス甲子園はおもしろい!」このとき、ただのクイズ大会といってあまり勉強しなかった自分を本気で後悔しました。

それを、特に感じたのは3回戦以降です。僕たちは2回戦までで、敗退したので出ることはなかったのですが、3回戦以降は本当に工夫を凝らしたクイズ形式のものばかりで見ているだけでも楽しめたのですが、それに出れなかったのは本当に悔しかったです

また、初日のプレゼン大会は本当に良かった。レベルの高い仲間とひとつの事柄について議論するのは本当に楽しかったし、そういう人たちと交流出来たことはいい体験でした。

だけど、スタッフの皆さんは本当にひどい(笑)何回騙されたことか…おかげで初日は疲れました。

しかし、沖縄に住んでいて今回が初めての東京である僕からしたら何もかもが新鮮でただただビルの高さと、人の多さに驚いていました。そして、この全国大会では予想以上に多くの刺激をうけました。

僕にこのような機会を与えてくれた金融知力普及協会には、本当に感謝します。

インターネット大会代表　栃木県立宇都宮高等学校二年
安藤　仙一朗

「金融知力の大会?そんなものもあるんだなぁ。」初めてエコノミクス甲子園の存在を知ったときにはその程度にしか感じませんでした。次の日に友人にそんな話をしたところ結構盛り上がって、周囲に流されて応募したというのがそもそもの始まりとなりました。応募二週間後に行われたインターネット大会でまさかの優勝をしてしまい、実感が湧かないまま全国大会に挑むことに。結果は、付け焼き刃の知力では歯がたたずに惨敗となってしまいました。しかし、この結果よりも重要な経験を全国大会ではできたと思っています。それは、他校の人との交流と今後の学習への意欲です。大会中は他校の人と交流する機会がたくさんあり、特にプレゼン班の人には優しく声をかけていただき良い交流ができました。また、他校の代表の方々の知識を見て、自分は全然甘いという危機感が余計な驕りを取り払い、その刺激が向上心につながりました。最初はあまり経済には興味がありませんでしたが、これを機会にしっかり自分の知識を磨いていきたいと思います。今回、エコノミクス甲子園の全国大会に出場することができて本当に良かったと思っています。このような素晴らしい大会を企画・運営して下さったスタッフの皆さま、そして一緒に出場してくれた相方の富山に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました!自分は来年は受験で出られませんが、是非後輩に勧めてみたいと思います。

インターネット大会代表　栃木県立宇都宮高等学校二年
富山　顕

私がこの大会に参加したきっかけは、私が入っている宇都宮高校クイズ研究同好会のサイトの掲示板の、一つの書き込みがきっかけでした。私は会長である安藤君と共に参加することになりました。正直、私は経済や金融についての知識がほとんど無く、中学の公民や高校一年の現代社会で、インフレやデフレ、日銀等について少し習った、という程度の知識量だったので、どのような問題なのか、自分達が"クイ研" で培ってきた知識で対応できるのか、少し心配でした。

学習教材とインターネット大会 の問題用紙が送られてきた時、教材の多さと奥深さに驚きながらも、「回答はネット等で2時間の間自由に調べて良い」という記載にも、別の意味でまた驚かされ、心配が少し和らぎました。実際、ネット大会当日は、ほとんどのマーク問題についてネットで調べることができ、制限時間の多くを5問の記述問題とレポート・作図問題に費やしました。預金が禁止になるという想定のレポート問題は難しく、何度も書き直しましたが、結果、安藤君が担当した細かく丁寧な作図に助けられ、私達はネット大会で優勝することができました。結果発表を見たときの驚きは、忘れられません。ネットで調べることで基礎知識の少ない私でも問題を解くことができ、嬉しく思いましたが、一方で本当に知識があり、金融に興味 がある人が勝ち上がるには、マーク問題の制限時間をネット等で調べられないほど短くする（高校生クイズがこの形式です）、または後半の記述・作図を必要とする問題をもっと増やすなどの改善が必要なのではないか、とも感じました。

全国大会に向かう新幹線の中で、大会には抜群に経済に詳しい人たちが集まるのだろうと考え、緊張していました。その予想は見事に的中。 2日目のプレゼン作りでは、頭をフル回転させて議論に参加しましたが、難しい経済・・金融用語が飛び交う中、ついていくのがやっとでした。それでも班員の皆は私達の意見をよく聞いてくれて、楽しく協力してプレゼンを作ることができました。この1・2日目は時間が忙しく、その上次に何をやるのかがぎりぎりまで知らされませんでしたが、それゆえにかえって私達は次に何が起こるのかを期待し、今やるべきことに集中して取り組むことができたのではないかと思います。サプライズも魅力的でした。 2日目の昼の指数を求める近似値は、実際に225銘柄の出来高を電卓で全て足し合わせ、指定された桁を超えてしまいかねり焦った自分達の班からしてみれば、少し理不尽に思いましたが、このクイズが班の初の集団作業であり、時間の切迫した状況の中で結束が強まったことも事実なので、今となっては良い思い出です。

いよいよ大会本番。最初の早押しクイズは最初は私、次は安藤君が押し、共に誤答となってしまいましたが、何はともあれ押せたのは良かったです。ビジュアルクイズは、分かったり間違えたりで最初は点数が伸び悩む も、日本地図の東京のあたりに矢印があり、「ここはどこでしょう?」という問題に、矢印の先の所が拡大される前に「日本銀行」と答え、正解して20点を獲得。ありがとう安藤君。結局上位12チームには入れず、初戦敗退となってしまいましたが、当然の結果であるように感じます。というのも、その後のプレゼンや早押しを見ていると、とても他のチームに勝てそうにはなかったからです。それと、敗者復活のサムライ債の問題で、1チームだけ赤を挙げ、勝ち抜けた聖光学院。御見事でした。

何はともあれ、私は、金融・経済の知識が身に付いた、また興味を持つきっかけとなったことはもちろん、集団行動能力、コミュニケーション能力が高まったという意味において、このエコノミクス甲子園に参加して みて本当に良かったと思います。また何よりも、全国大会はとても楽しい3日間でした。チームメイトの安藤君との仲も深まりました。スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。大会中に仰っていた「今の日本には金融教育が足りない」という意見には、私も同意です。今回学んだことを、私の他の友達や知人に、少しでも多く伝えていこうと思います。来年は後輩が参加するかもしれないので、そのときはぜひ、よろしくお願いします。

NY研修旅行の様子と感想 Study tour

東海高等学校二年
澤田 昂大

1日目　協会の鈴木さんと、スタッフリーダーの御手洗さんと成田で無事合流。長旅は覚悟していましたが、やっぱり辛かったです。中部～成田、成田からJFK国際空港まで12時間半のフライト。エコノミーでぐっすり眠ることもできず、鳴きまくるCPU相手に麻雀やったり、半分寝ながら映画を観たり、いまいちルールのわからないボードゲームに井上と2人首をかしげたりして過ごしました。お昼に出発しても、時差のせいで到着もお昼。それでも到着直後はその晴れ渡った空の広さや遠くに見える地平線に驚かされ、ホテルまでの移動中も車や道路の大きさ、また道行く人々の人種の違いと交通マナーのいい加減さに衝撃を受け、テンションも上がりっぱなしでした。中心街までの移動中に見えたマンハッタン島のビルの大群の全貌は、NYの巨大さを物語るようで忘れられぬ光景となりました。

初日は特に予定も無かったので、到着気分そのままでタイムズスクエア付近をうろうろしました。お昼に食べたハンバーガーのボリュームが凄まじく、早々にアメリカの食文化を正面から受け止めることになりました。夕食にも差し支える程で、結果的に旅行中ハンバーガーを食べたのはこれが最初で最後となるのですが…。夜になってエンパイアステートビルにも登りました。高所恐怖症なので真下は見ていませんが、それでも夜景は圧巻の一言。わざわざ一番高いビルを選んで正解だったと思いました。光り輝くマンハッタン島の先に、ぽつんと照らされている自由の女神も見え、これからの旅行に胸を踊らせていたのでした。ちなみにお昼の食べ過ぎのせいで晩御飯は地元のピザ屋でしたごちそうさまでした。

2日目　いよいよ研修旅行の始まりです。この日から協会の水谷さんと、慶応NY校の石川善光くんという同学年の方と同行しました。彼は秋田県出身で、協会の別のプログラムで金融業界に興味を持ち、高校からNY行きを決意したそうです。一行は6人になりました。

初日はそれらしく6時半起床。近くのカフェ（とスーパーがくっついたような店。結局毎朝ここでした。）で朝からチーズまみれのラップを食べて、気合十分で最初のブルームバーグに向かいました。

ロビーで、Citiの中山さんという日本人の方にお会いし、この後半日、同社のオードリーさんという女性の方と共に僕達の旅行にお付き合い頂きました。中山さんはCitiの、情報収集や業界人との意見交換といった幅広い要素で活躍なさっている方で、この日の訪問や移動中、またお昼もご馳走になりましたがその間もいろいろなお話やご意見を聞くことができました。中でも、ユーロがなぜ上手くいかないのかという僕の素朴な疑問に対する答えが非常に興味深く、印象的でした。理念自体は良いが、そもそも文化や価値観の違う2つの民族を統一することが難しいことや、イギリスを除いて欧州圏の取引所や市場規模はそれほど大きくなく、世界視野からどうしても後手に回ってしまうこ（それは日本も同じと言っていました）。ユーロの価値を無理矢理維持すればするほどギリシャやキプロスのような弱い国が圧迫されてしまう所の矛盾を解決できていないことなど。その他の質問にも多角的に教えて頂き、目からウロコという感じで本当に勉強になりました。日本語で気兼ねなく質問できたのも本当に良かったです本当に。

さて、話をブルームバーグに戻します。この会社は、金融経済に関わるあらゆる情報を提供する会社です。中山さんもおっしゃっていましたが、株や証券、為替等の金融商品はすべて情報の上に値段が決まる商品です。特に、インターネットによって膨大な量の情報を入手できるようになった今の時代、このような企業の存在というのは非常に重要なものとなります。一番最初に、ブルームバーグの方が見せてくださったのはコマンドを入力することによって直感的に、直接見たい情報にアクセスできるシステムでした。試しに日本国債のをお願いしてみたところ、画面上部の検索バーに数文字入力するだけで、日本国債の全利一覧やチャート、さらにジャンプさせて関連ニュースまで、ものの数秒で表示してくれました。数秒の差、タッチの差で莫大な利害が出る可能性のある世界で、この情報量とその透明性、そして速さは世界中の投資家の頼れるツールとなっているようです。ちなみに、後に訪れたCitiのトレーダーの方も当然のように使っていました。

他に、TVスタジオやオフィスも案内してもらいました。上からみると三日月のような形のビルに数階分。都市名が書かれた特徴的な会議室や軽食を取れるロビーに至るまで、デザインもこだわっているのか、とても綺麗で未来的なオフィスでした。その途中、トム・キーンさんという有名なコメンテーターの方にたまたまお話して頂ける機会に恵まれました。「アベノミクスは非常に良い。日本経済は今大きな転換期を迎えている」と言っていましたが、為替の今後については「いろいろな要素が複雑に絡むので難しい」と、やはり有識者の方でも断定はしづらいようでした。首元の蝶ネクタイと丸メガネが印象的な方でした（笑）

その後、アメリカの中央銀行であるFRBの建物内と博物館の見学に行きましたが、博物館は半分ほど改装中ということで少し残念でした。昔のドル紙幣などが飾られてあって、インディアンの長（?）が描かれた紙幣があったり、現在5ドル紙幣に描かれているリンカーン大統領が昔別の紙幣に描かれていたり、豆知識的な発見が沢山ありました。金貨が幅を利かせていたころの大きな金貨もあり、皆で現在価値に換算して生々しい数字を出しては「・・・。」となるのでした。建物の外観は石造りで綺麗だったし、その地下に金が山積みであることを想像するとやはり今回の研修旅行では外せないスポットだったと思います。

昼食をCitiの展望レストランでご馳走してもらい、その後NYSE（ニューヨーク証券取引所）へ向かいました。NYSEは、最近欧州最大の取引所であるユーロネクストと合併し、その規模をさらに拡大しています。歴史は古く、200年以上も昔から、当時は今のようなコンピューターも無いので電話やサインなどを駆使して株価形成の礎となって来ました。その中のフロアの1つに入れて頂いたのですが、それはそれは大量のコンピューターやモニターがそこら中に設置されており、刻々と数字をディスプレイに記していました。が、思ったより人は少なく、わりとのんびりしていました。一生懸命パソコンに向かって隣の人とソリティアで競っていたりもしていました。人々が足早に行き交い、大きな動きがあればそれこそ大騒ぎ。端末や紙切れを抱えてある時は怒鳴りあうと言った取引所のイメージはやはり過去のものであったようです。今では全てコンピューターがその役割を代行しているため、取引所内で働く人々は主にその監視をしているだけだそうです。（実際東証にはもうブローカーは居ないそうです）中山さん曰く、それじゃさみしい、というのもあってまだNY取引所内にはブローカー含む多くの人で賑わっているのだそうですが、確かに飾ってある昔の写真と比べると人は少なく、少し寂しい印象を受けました。取引所は、ニーズに沿った株式が取り揃えられているかなど、いかに魅力的な市場であるかが重要になります。取引所で働く中山さんのお知り合いの邦人の方は、それを目指して上場企業を集めたり、企業に宣伝するような「営業」をNYSEの職員としてやっているそうで、取引所の職務としては意外に感じました。NYSEのロゴマークは様々な緑色をした長方形が縦に組み合わさったような形をしており、ディスプレイではそれがくっついたり離れたり、色を変えたりしていました。職員の方に聞いた所、「パルス」を表しているのだと教えてくれました。「脈動」や「短期間に急激な変化をする信号」を、意味する語だと後で知り、なるほどと思いました。ぜんぜん関係ありませんが、職員のために外にバスケットゴールがぽつんと設置されており、それもまた厳重に柵で囲まれているのはこれまたなんとも言えない寂しさがありました。

その後、Citiに戻り、トレーダールームで働く日本人の中山さん（同じ苗字でした）という若い方にお話を伺いました。仕事は主に法人企業の為替の夜間サービス担当だそうで、ここでほぼ半日ある時差が利用されていました。それでも朝は6,7時出勤だそうです…。日米為替の今後や、アメリカ経済の好景気反転（財政の崖は茶番というのが印象的でした）、キプロスはじめ欧州の経済危機についてお話していただいたり、質問させて頂きました。若い方からではの、大学や学部選び等の話もして頂きました。実際中山さんは経済学部ではないそうで、社会人になるまでその知識は一般レベルだっ、ということです。やりながら慣れる、その時その時でしっかり対応してできるようにする、ということの重要性を教えて頂きました。やっぱり日本語で気兼ねなく質問できるのは楽でよかったです本当に。

その後トレーダールームを見学させて頂きました。NYSEのような雑踏はなく、皆さん真剣な眼差しで一人何枚もあるモニターに向かっておられました。どこもかこもよくわからない数値や複雑なチャートでいっぱいで、朝早くから就業までこれらと戦い続けるのは大変だろうと心に思いました…

長かった1日も終わり、ホテルに戻ろうかというタクシーがなかなかゴキゲンな運転だったのと朝からチーズまみれ、昼も立派な鶏肉のチーズ焼きをご馳走して頂いたお陰で、早々に体調崩してホテルで2時間ほど仮死させて頂きました。それでも夕食はエビのオリーブ焼きご馳走になりましたありがとうございました。

3日目　この日は朝から車でマンハッタン島を離れ、隣のニューアークまで。保険会社ブルデンシャルのビルにお邪魔しました。プレゼンテーションをしてくださったのは、米国の方2人と、日本人の船橋さんという方で合わせて3人。最初はブルデンシャルの歴史や理念、経営体系などを教えて頂き、日本においてもソニーなどと協調して保険事業を拡大してきたことなどを教えて頂きました。ロゴマークとなっているジブラルタ・ロックは、創設者ドライデン氏が大きな自然の岩山が強靭さと保障の象徴になると考えたことに基づいて、100年以上も前からグループの特色を示しているのだそうです。エコ甲の資料を読んだ時はなんとも思いませんでしたが、考えてみると確かに不動のイメージと合うと思います。米国人の方のうち1人はエンジニアで、保険の掛け金や保障金がどのように決まっているのかを分かりやすく教えて下さいました。数学が中学生並な僕には二項定理が出てきたあたりでチンプンカンプンでしたが（そもそも英語の説明で半分くらいしか聞けてない）、かなり高度な数学や計算にもとづいていることは良くわかりました。一番最後にプレゼンしてくださったのは船橋さんで、会社ほぼ全体の賃金体系を作るのが仕事だそうです。話の趣旨としては、会社などのチームにおいては全体の2割の人間が8割の貢献度を占めている"パレートの法則"についてや、賃金体系はその貢献度に基づくのが良いのかどうかということ。日本の伝統的なものはそれの逆ですが、ブルデンシャルの特に営業マンでは個々の能力や業績がしっかりと賃金に反映されるシステムにしているそうで、歴代最高レベルでは年間数億円というとんでもない金額を受け取った営業マンもいるそうです。社内にも各国の年ごとの社員優秀者の記念写真が飾られていたりしたので、全社員がその座を目指して日々頑張っておられるのだなぁと、もはやサバイバルだと感じました。しかし、そうやって個々の頑張りで社員でも数千万、数億と稼ぐ可能性が与えられていることは、新入社員やベテランにとっても良いモチベーションの持続になると思います。ちなみに、ブルデンシャルの営業マンは新卒は取っていないそうで、よその会社から腕利きの営業マンを集めて少数精鋭にしているらしいです。徹底されていて驚きました。お邪魔した身であるのに、朝から美味しいパンやジュースや果物までご馳走になりました。葡萄のっちゃ美味しかったです。

車でマンハッタン島に戻り、出店の屋台でチキンライス買って食べました。このような屋台はNY中にたくさんあって、そのほかタコスやラップなど、大体どれも似たようなものを作っていますがやはり空腹時には殺人的な誘惑となりました。正直言って「もう一度食べたい料理グランプリ澤田杯」の優勝者はこれですね。あんだけご馳走になっといてアレですけど。

さて、午後は日本の在NY総領事館にお邪魔しました。財務省の出張所も同じオフィスの同じ部屋にあり、看板も2つ並んでいました。それは世界的にも珍しいそうで、1900年頃、戦費調達のためにアメリカに設けた事務局の名残だそうです。ここでは、三浦さんと山本さんというお二方にお話を聞かせて頂きました。三浦さんは主に企業、銀行の重役や各国の役人さんとの意見交換などを通じて情報収集を行い、レポートをまとめ日本本国の各所に通達するのが仕事だそうです。つい最近もソニーの社長さんやアメリカの大手企業の重役さんと意見を交わしたことを教えてくれました。山本さんは主にNYで為替やマーケットの監視観察をしており、最前線の情報をレポートするのが仕事だそうです。お二人とも大学の講義で使うような分かりやすい図やデータを用意して下さって、非常に興味深いお話（授業?）が聞けました。中でも印象に残っているのは、三浦さんの「スティーブ・ジョブズが日本に居ないわけではない」という話です。どういうことかと言うと、日本で企業したり事業を拡大するときに、資金源となるのは主に銀行からの借入で、それには家などの多額の資産を担保として用意せねばならずリスクが大きい。対してアメリカでは、資金は主に投資家からの直接投資によって集められ、出資額に対しては有限責任であるし、そもそもそのような投資家にとっては企業者が失敗しても大した問題にはせず、次のチャンスを狙わせるような文化風潮があることも企業者や経営者にとって非常にやりやすい環境にあると言えます。つまり、日本にはスティーブ・ジョブズのような人間が居ない、のではなくスティーブ・ジョブズが育つ環境が無い、ということなのです。バーゼルⅢなどによる自己資本比率の増強が世界的に重要視され、日本型の資金繰りはますます停滞してしまうと考えられます。三浦さんは、まずは日本人の教育における金融リテラシーの向上が大事とおっしゃっていました。僕達もエコ甲出場者として同意できるところがありましたし、このような大会や金融知力普及協会さんの活動こそそれに通ずるものだと思います。山本さんは、1929年の大恐慌や1987年のブラックマンデー、そしてリーマン・ショック時の株式相場のグラフを出して、市場観察の極意を教えて下さいました。頂いた資料の文章を引用しますと、「金融市場のモニタリングを通して変化の兆しを捕らえ、常に緊張感を持って不測の事態に備えておく必要がある。油断は禁物。政策対応を行う上でも迅速な状況理解が必要。」ということでした。油断は禁物、という一文に山本さんの日々の仕事への誇りがあるようで、胸に響きました。バブルやリーマンショック前の好景気などもそうでしたが、周りに同調して登り坂を楽観視してしまうと後々とんでもない代償となって返ってきます。それが国家レベルとなると大変です。それを最前線で観察し、本国に報告するという仕事はそのような荒波を越えていくために非常に重要なことだと思いました。ただ、じっと座っているのが苦手な僕には向いてないとも思いました山本さん頑張ってください。また、今後のドル円相場の予測について、Citiのトレーダーの中山さんとほぼ同じ見解であるのも非常に興味深かったです。円高から円安にやっと移り、日本は今大きな契機、転換期を迎えているとおっしゃっていました。ちなみに僕は全訪問先の中でこのお二人の話が一番印象的で、金融経済についてとても詳しいお話が聞けたので良かったです。大会に向けて余分な所まで勉強した甲斐がありました。あとやっぱり日本語が（略）

この日の夜は、なんと協会の水谷さんの招待でヤンキースタジアムに野球観戦に行きました！イチローが目の前のライトスタンド席で、一同テンション上がりまくり。だったのですが、ヤンキース先発の黒田選手が指負傷のまま無理矢理投げて暴投連発。デッドボール&フォアボールで押し出し+ボコボコに打たれて残念な立ち上がりに…　結局7回入ったところで寒さに耐え切れずしょんぼり球場を後にしました…。そこで食べたガーリックポテトが、ポテト+ガーリック風味ではなくガーリック+ポテト風味だったのが印象的です。次からは無難に塩味にします…。水谷さんありがとうございました。

4日目　この日も朝から会社訪問。世界的な大手投資信託会社、ラッセル・インベストメントに伺いました。事前に調べたところによると、世界中の金融情勢を調査し、株式、債権、ファンド・オブ・ファンズなど幅広い分野で運用して高い実績と信用を得ており、1986年には東京にも進出しているそうです。米国人の男性女性のお二人からお話を伺いましたが、ここのプレゼンが一番難しくて、実は話の趣旨すらつかめているか怪しいところなのです…。一番わかりやすかったのは、オリンピックの10種競技の選手を例にしてそれぞれの種目で必ずしも1位になっているわけではなくとも、全体の総合得点では必ず1位になる、という投資方針、スタイルで運用しているということでした。頑張って日本の市場について聞いてみましたが、やはり今も有望株として注目されるのは中国インドなどの人口の多い発展途上国で、世界の市場を見渡すと日本はやはり欧州と同じく後手に回ってしまうようでした。もう一つ、これはスタッフリーダーの御手洗さんに訳して貰ったのですが、経営は「規則」を重視せねばならない、という話が面白かったです。株式を担当している者は、あくまで株式市場を徹底的に調査。債権担当なら債権というように、あくまでその自分の仕事に徹し、それを合わせて全体として大きな利益とすることが大事ということです。勝手な考えかもしれませんが、経営方式としてはかなり日本とかけはなれたものであると感じました。職務がしっかり決まっており、それに対して給料が支払われるというのは欧米の企業によくみられます。プレゼンの後、オフィスを少し見学させて頂きました。そこでの従業員は50人程だそうで、イメージよりは随分少なく感じました。

最後の訪問は、東大から日本の大手銀行、そしてハーバード大学へ留学しそのままタイガーマネジメントというヘッジファンドへ勤め、最近とうとう独立して自分の会社を持ってしまったという凄まじい経歴の武神さんという方にお昼をご馳走して頂きました。なんとハーバードのOBのみが予約できる社交場的なレストランでした。もう2度と入ることはできないと思います。その会社は武神さんと中国、韓国の方それぞれを加えて3人で主に経営しているそうで、そのアジア3国の株式などを中心に利益を出しているヘッジファンドだそうです。日本の金融経済の話を沢山しても良かったのかもしれませんが、そんなことよりもっとためになることをお話して頂きました。一番胸に響いたのは「日本が駄目になっても一人で戦えるぐらいのスキルを身につけること」と、「自分の好きな、得意な事を武器にして、誰もやったことのない事に挑戦すること」の2つです。武神さんは、大学を出てから大手銀行に勤めましたが、経営が伸び悩み傾きかけた時に、思い切って留学を決意したそうです。「一人で戦えるスキルを身につける」ためなのかは分かりませんが、若手社員一人の力ではどうしようもない銀行の経営不振に、巻き込まれるのは御免だと思ったのかもしれません。

昔から価格比較や価格の理論付けが大好きだったそうで、その能力がヘッジファンドという職種で活かせると思ったそうです。確かに、金融業界で儲けを出そうと思ったら、単純な為替のトレードですらレートの理論付けや価格比較はシンプルかつ非常に重要となります。さらに、自分の会社を持ち自分含む少数で好きに会社を経営できると、いわゆる「上からのストレス」が無く、やり甲斐やモチベーションも全然違うそうです。武神さんは、早くから大人数で「エイエイオー」というやり方が自分にそぐわないと気づいていたそうで、それも含めて考えるとそのようなキャリアを歩んでこられたのが非常によく理解できます。「最初は日本にとどまろうなんて考えず、世界を見ること。あと言語は大事」と地方公務員になる気マンマンだった僕にグサっと何かを刺すようなお言葉も頂きました。昼食の間だけであまり長くはない時間でしたが、このように僕達の将来について非常に重要でためになるお話を聞かせて頂きました。ちなみに、ローストビーフのサンドイッチと、デザートにとりあえず面白そうなものを頼んだら苦手なレアチーズケーキが出てきました。サンドイッチは美味しかったです。すいませんでした。

これにて、予定の研修は終了。グランドセントラル駅で武神さんとお別れし、その後メトロポリタン美術館へ行きました。本気出せばまる2日ぐらい見て回れそうな巨大な美術館でしたが、3時間弱しか時間が取れず少し心残りです。が、やっぱりいつか英語できるようになってから自費で訪れようと思います。趣味が合わないと思ったので単独行動させてもらい、楽器のエリアに3,40分ほど居座っておりました。ここでも貴重な経験ができました。

そして、その夜なんと鈴木さんがブルーノートを予約して下さいました！美味しいステーキ（ステーキはここで初かも）と共に、本場のJAZZを楽しみました。一行の半分くらいはお疲れで寝ていたようですが、僕はめちゃくちゃ楽しめました。鈴木さんありがとございました。

5日目　これにて全日程終了です。朝の9時にホテルを出て、お昼の飛行機で名残惜しくもNYとお別れしました。本音を言うと日本についた時かなりホッとしたんですけども。ところが成田→中部の飛行機が暴風で欠航になり、急遽東京駅から新幹線に。結果的には帰宅時間早まったし成田で鈴木さんにコーヒーごちそうになって良かったんですけどね。到着日は時差で眠れず、翌日日曜日は逆に1日中眠っていました。

旅行を終えて、なぜエコ甲の優勝者商品がニューヨーク研修旅行なのかよく分かりました。数値や文字を読んで観察するのも大事ですが、やはり世界の中心は肌で感じるのが一番という気がします（英語ができればおそらくもっと…）。訪問先の企業さんやNYSE、総領事館などは、個人の旅行ではとても入れないような所ばかりです。今回の旅行が、自分の将来や考えにどのような影響を与えているのか、自分でもまだ分かりませんが、おそらくニューヨークを勝ち取って良かったと思える日がまた何度も来ると思います。武神さんの言葉のように、世界を見ること。そこで戦えるスキルを磨くこと。が今の僕には必要なのだと感じました。地方大会も含めエコ甲が随分昔のことのように感じますが、あの時一生懸命頑張ってよかったと、今も思います。次なる壁もまた同じように越えることのできるように、今回の経験を糧にして前向きに頑張れるようにしたいと思います。

訪問先々でお世話になった皆様。そして協会の鈴木さん水谷さん。学生スタッフリーダーの御手洗さん。そして同行してくださった愛知銀行の三好さん。ありがとうございました。あ、あと相方の井上も。

NY研修旅行の様子と感想 Study tour

東海高等学校二年
井上 裕太

エコノミクス甲子園で優勝してから1ヶ月半経った頃、私は優勝賞品として頂いたニューヨーク研修旅行に赴くことになりました。今回の研修旅行では様々な企業を訪問させていただき、様々な経験をさせていただきました。

一日目の最初に訪れたBloomberg社では、Bloomberg社が提供している情報端末の説明をしていただきました。様々なコマンドを駆使して世界中の市場の情報を取り出せるこの端末は金融業界必須のアイテムとなっており、このあと訪問した様々な企業でBloombergは置いてありました。ユーザーの意見を取り入れてこまめにアップデートを行なっているそうで、自分も後述する博物館で触らせてもらいましたが、非常に使いやすく感じました。Bloomberg社は情報端末を利用しての情報提供のみでなく、放送局を利用しての情報提供も行なっているとのことです。放送室を外から見せてもらったのですが、非常に緊張感が漂っており、外に居た私まで緊張してくるような気がしてきました。偶然、Bloombergの番組に出演しているトム・キーンさんにお会いすることが出来ました。滅多にお会いすることができない方だということで、早速貴重な体験をすることができました。次に訪れたのは、ニューヨーク連邦準備銀行です。ここでは、内部の博物館の見学をさせて頂きました。純金の延べ棒の特殊映像での展示や、裁断したお金の展示などがありました。

さて、その次はニューヨーク証券取引所を訪れました。株式の売買などはすべて電子化されているそうですが、ニューヨーク証券取引所は歴史が長いため、人を残した売買が残してあるとのことです。滅多に入ることが出来ないところということで、非常に興味深い場所でした。やはり世界一の証券取引所ということで、テレビで見ていた映像と違い迫力がありました。刻々と動く価格を表す電光掲示板、それを監視する係員。このような様子は多分一回しか見られないだろうと思って僕はその様子を目に焼き付けました。

次にCITIを訪れました。CITIのトレーディングフロアで勤務されている中山さんにお話を伺いました。中山さんは、在邦企業の夜間勤務の担当をされているそうです。マーケットで働いている方ならではの視点で今の経済情勢についてお話をしていただきました。その後、CITIの実際のトレーディングフロアを見せて頂きました。非常に広いフロアの中にぎっしりとデスクが詰まっており、その上には大きなモニターが沢山置いてあり、刻々と動く価格を見つめ続けるトレーダーの方々の姿がそこにはありました。

二日目は、最初にニューアークに移動し、プルデンシャル社さんを訪問させて頂きました。プルデンシャル社さんでは、プルデンシャル社さんの歴史や保険の価格の決定方法、保険の販売員の方の給与の決定方法などについて教えて頂きました。私は理系の人間なのですが、保険の価格の決定方法は大変興味深く、貴重なお話を聞かせて頂きました。他にも、を売ることが難しい理由など、大変面白いお話でした。

次に、日本総領事館の経済部を訪れました。この総領事館は情報を集めるために置かれているとのことで、外務省以外からの出向者が半分以上を占めているそうです。マクロ経済政策と金融規制の関係のお話や、日本の経済について普段は聞けない突っ込んだところまでお話を聞くことが出来ました。特に、「日本人とアメリカ人のリスクテイキングの違い」のお話が私的には興味深かったです。

その次はニューヨーク経済博物館を訪れました。ここには、昔の実際の債券等が置いてありました。他にも、世界恐慌が起きた時のティッカーテープなど貴重なものが沢山置いてあり、知的好奇心をくすぐられました。

三日目の最初はラッセル・インベストメント社さんを訪問させて頂きました。ラッセル・インベストメント社さんでは、どのような事業を行なっているかなどについてお話を伺わせて頂きました。「全てでナンバーワンにならなくてもいいから総合的にナンバーワンになればいい」など、大変目からうろこの落ちるお話を伺わせて頂きました。

次に、タイガーパシフィックマネジメントの武神さんとお話をさせて頂きました。「レアな人になれ」「世界に出て大きな人間になれ」などと非常にためになるお話をいただきました。

他にも、自由時間の観光でエンパイア・ステート・ビルに登って極寒の中夜景を見たり、タイムズスクエアに行ったり、ニューヨーク・ヤンキースの試合を観戦したり、メトロポリタン美術館で浮世絵を見たり、ブルーノートでジャズ鑑賞をしたりと、盛

りだくさんのニューヨーク旅行でした。

最後に、僕がこの旅行で感じたことをいくつか。

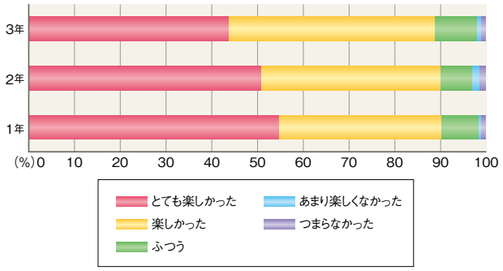
僕は、生まれてこの方愛知から出たことがないような人間で、愛知で生まれて愛知の学校で過ごし、愛知の会社に就職して愛知で死ぬのだろうなと思っており、また自分もそれがいいのかなと思っていました。しかし、ニューヨークという国際経済の中心地で活躍する日本人の皆さんからお話を伺ったりしているうちに、外の世界を知らずに一生を終わらせてしまっていいのだろうかとふと思いました。外に素晴らしいおもしろそうな世界が広がっているということを再認識させられることとなりました。

また、実は僕はニューヨークに行くのがちょっと憂鬱でした。「英語が苦手だから」。語学の壁が大きく感じられ、果たしてうまくやっていけるのだろうかと非常に心配しておりました。ですが、腹をくくって飛び込んでみたら、最初はやはり英語がわからない、通じないということで非常にショックを受けていたのですが、途中からはボディランゲージや片言の英語でなんとか現地の人と意思疎通を図れるようになったのかな、と思います。この旅行を機会に英語も一生懸命頑張ろうと思います。

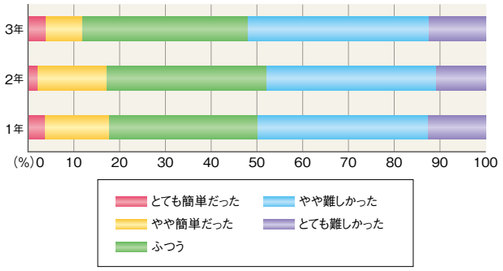
今回の旅行では、普段は決して経験の出来ないたくさんのことを学ぶことが出来ました。素晴らしいお話をお聞かせくださった皆様や素晴らしい研修旅行を提供してくださった金融知力普及協会の皆様に感謝の意を示してこの文章を終わりたいと思います。乱雑な文章をお読みいただきありがとうございました。

参加者アンケート Participant Questionnaire

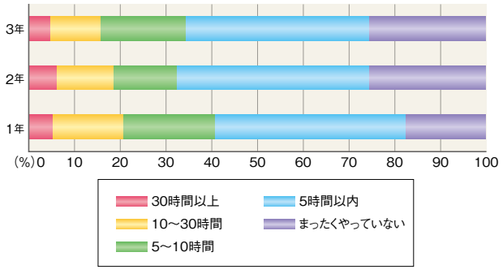
Q1.参加して楽しかったですか?



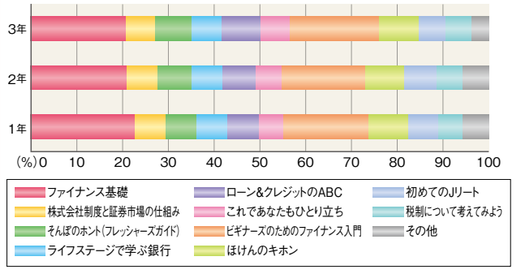
Q2.全体的に問題のレベルはどうでしたか?



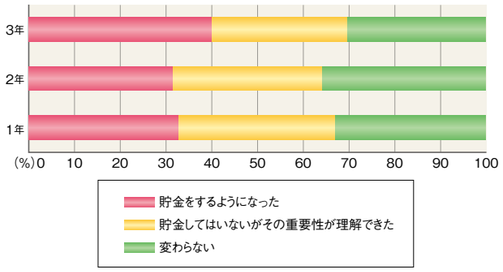
Q3.大会に備えどれくらい勉強、対策しましたか?



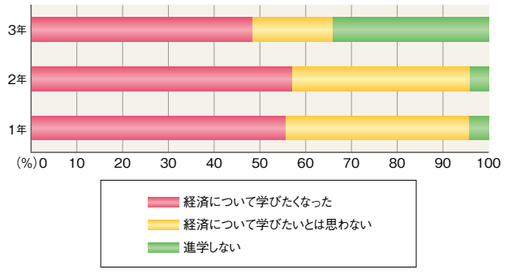
Q4.どの教材を使って勉強・対策しましたか?



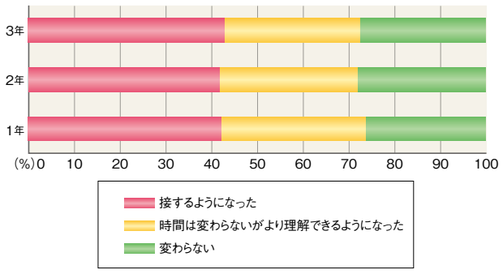
Q5.小遣の中から貯金するようになりましたか?



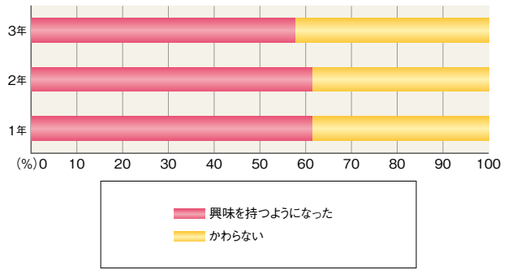
Q6.進学について考えは変わりましたか?



Q7.ニュースや新聞に接するようになりましたか?



Q8.資産運用に興味をもつようになりましたか?



事前学習教材

エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。
事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。
単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

■ ファイナンス基礎
（作成･寄贈:シティバンク銀行）
シティバンク銀行ホームページ
http://www.citibank.co.jp/

■ ビギナーズのためのファイナンス入門
（作成･寄贈:金融広報中央員会）
金融広報中央委員会ホームページ
http://www.shiruporuto.jp

■ これであなたもひとり立ち
（作成･寄贈:金融広報中央員会）
金融広報中央委員会ホームページ
http://www.shiruporuto.jp

■ ライフステージで学ぶ銀行
（作成･寄贈:全国銀行協会）
全国銀行協会ホームページ
http://www.zenginkyo.or.jp

■ ローン&クレジットのABC
（作成･寄贈:全国銀行協会）
全国銀行協会ホームページ
http://www.zenginkyo.or.jp

■ そんぽのホントフレシャーズガイド
（作成･寄贈:日本損害保険協会）
日本損害保険協会ホームページ
http://www.sonpo.or.jp

■ 株式会社制度と証券市場のしくみ
（作成･寄贈:日本証券業協会）
日本証券業協会ホームページ
http://www.jsda.or.jp/

■ ほけんのキホン
（作成･寄贈:生命保険文化センター）
生命保険文化センターホームページ
http://www.jili.or.jp/

■ 初めてのJリート
（作成･寄贈:不動産証券化協会）
不動産証券化協会ホームページ
http://www.ares.or.jp/

■ 税制について考えてみよう
（作成･寄贈:財務省）
財務省ホームページ
http://www.mof.go.jp/

メディア掲載実績

大会名	取材（TV）	取材（新聞）	取材（その他）
北海道		ニッキン	
秋田		秋田魁新報 北羽新報	
福島		福島民報社 福島民友新聞社 毎日新聞	
茨城	ACCS(つくばケーブルTV)		茨城放送『ラジオ』
群馬	群馬テレビ	上毛新聞	
千葉	千葉テレビ	日刊工業新聞 ニッキン	
神奈川		神奈川新聞社	
富山	北日本放送 チューリップテレビ 富山テレビ放送	北日本新聞社 富山新聞社	
石川		北國新聞	
福井	FBC福井放送 福井テレビ	福井新聞社	
山梨	山梨放送(YBS) テレビ山梨(UTY)	山梨日日新聞	
岐阜	岐阜放送 テレビ愛知	岐阜新聞 中日新聞 朝日新聞 中部経済新聞	
静岡	静岡第一テレビ 静岡朝日テレビ	ニッキン	

大会名	取材（TV）	取材（新聞）	取材（その他）
愛知		中部経済新聞	
三重	三重テレビ ZTV		
奈良	奈良テレビ	奈良新聞	
島根		山陰中央新報社 日本海新聞社	
岡山	山陽放送	山陽新聞	おかやま財界 瀬戸内経済レポート
広島	広島テレビ	日本経済新聞 中国新聞 ニッキン	広島 FM 放送
山口	YAB山口朝日放送	山口新聞	
徳島		徳島新聞	エフエムびざん FM とくしま
香川	西日本放送	四国新聞	香川経済レポート社
愛媛	愛媛CATV	愛媛新聞	
福岡	NHK福岡放送		金融経済新聞社
長崎	NHK長崎放送	長崎新聞	
宮崎	宮崎放送 テレビ宮崎 宮崎ケーブルテレビ	宮崎日日新聞社 夕刊デイリー新聞社 朝日新聞社	
鹿児島		南日本新聞社 ニッキン	
沖縄	琉球朝日放送	琉球新報 沖縄タイムス	

Special Thanks

Special Thanks
（順不同）

内閣府の皆様
文部科学省の皆様
金融庁の皆様
プルデンシャル・ジブラルタ・ファイナンシャル生命保険株式会社の皆様
プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパンの皆様
シティバンク銀行株式会社の皆様
グリー株式会社の皆様
ラッセル・インベストメント・グループの皆様
株式会社一休の皆様
日本ファイナンシャルアカデミー株式会社の皆様
サンメッセ株式会社の皆様
日本証券業協会の皆様
フォスター・フォーラムの皆様
公益社団法人日本証券アナリスト協会の皆様
イー・アクセス株式会社の皆様
金融広報中央委員会の皆様
一般社団法人　全国銀行協会の皆様
一般社団法人　日本損害保険協会の皆様
公益財団法人　生命保険文化センターの皆様
一般社団法人　不動産証券化協会の皆様
財務省の皆様

プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル 生命保険株式会社
執行役員常務 山本 佳孝 様

シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
取締役会長 田中 達郎 様

グリー株式会社
社長室長 島田 敏宏 様

ラッセル・インベストメント株式会社
代表取締役副会長 加藤 正純 様

株式会社一休
代表取締役社長 森 正文 様

北海道銀行の皆様
七十七銀行の皆様
秋田銀行の皆様
山形銀行の皆様
東邦銀行の皆様
筑波銀行の皆様
群馬銀行の皆様
埼玉りそな銀行の皆様
千葉銀行の皆様
千葉興業銀行の皆様
りそな銀行の皆様
横浜銀行の皆様
北陸銀行の皆様
北國銀行の皆様
山梨中央銀行の皆様
十六銀行の皆様
静岡銀行の皆様
愛知銀行の皆様
百五銀行の皆様
近畿大阪銀行の皆様
南都銀行の皆様
山陰合同銀行の皆様
中国銀行の皆様
もみじ銀行の皆様
山口銀行の皆様
阿波銀行の皆様
百十四銀行の皆様
伊予銀行の皆様
西日本シティ銀行の皆様
十八銀行の皆様
宮崎銀行の皆様
鹿児島銀行の皆様
沖縄銀行の皆様
住信SBIネット銀行の皆様

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

審判をつとめていただいた皆様

衆議院議員　ふくだ　峰之 様
コモンズ投信株式会社　伊井　哲朗 様
SMBC日興証券株式会社　佐藤　眞由美 様

学生スタッフ

御手洗　伸　岡辺　公志　又吉　康紀　重網　孝祐　遠藤　優　白石　宏輔　中村　賢史　松元　雄大　沼　大地
木原　健太郎　亀岡　孝展　渡邊　幸輝　西川　陽之　尾崎　眞史　高崎　竜太朗　廣瀬　哲　峯　慎吾　堀場　美咲
中村　翔太郎　佐々木　翼　小林　大城　坂野　慶太　北島　拓也　外山　望　又吉　康雅　帶包　彩加

上智大学アイセックの皆様
クリエイトオフィス　ユークレイル

協賛社紹介

エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、
各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介いたします。

全国大会カップスポンサー

プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
生命保険株式会社

プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
http://www.pgf-life.co.jp/

ナショナルスポンサー

シティバンク銀行株式会社
http://www.citibank.co.jp/

グリー株式会社
http://gree.jp/

株式会社　一休
http://www.ikyu.com/

ラッセル・インベストメント株式会社
http://www.russell.com/jp/